岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書　第95集

いじま遺跡
櫨原神向遺跡

2006
財団法人岐阜県教育文化財団

いじま遺跡　櫨原神向遺跡

二〇〇六

財団法人岐阜県教育文化財団

いじま遺跡
櫨原神向遺跡

2006
財団法人岐阜県教育文化財団

いじま遺跡

樋原神向遺跡

いじま遺跡 SB004出土遺物

橿原神向遺跡出土遺物

序

揖斐川上流域に位置する旧徳山村村域内には、縄文時代を中心とする遺跡が数多く知られています。この地に徳山ダムが建設されることになり、水没地域に含まれる遺跡の発掘調査が、昭和61年度から岐阜県教育委員会によって開始され、平成３年度からは当センターが引き継いで行っております。これまでの調査によって、縄文時代をはじめ、旧石器時代、弥生時代、古代から近世の遺構・遺物の存在が明らかとなっています。

今回、報告するいじま遺跡と櫨原神向遺跡は、平成15年度に発掘調査を行いました。いじま遺跡は、旧櫨原集落の東、揖斐川本流に注ぐ支流に突き出した丘陵尾根上の狭小な段丘上に位置しています。発掘調査によって、縄文時代中期を中心として早期や前期の遺構・遺物が見つかりました。

櫨原神向遺跡は、旧櫨原集落近くの揖斐川本流右岸に位置しています。発掘調査によって、主として縄文時代早期の遺構・遺物が見つかりました。このように両遺跡の調査によって、旧徳山村村域内の縄文時代の様相を理解する上で、貴重な成果が得られました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、旧藤橋村教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成18年２月15日

財団法人岐阜県教育文化財団
理事長　日比治男

例　言

1　本書は、揖斐郡揖斐川町に所在するいじま遺跡（岐阜県遺跡番号21401―06691）・檀原神向遺跡（岐阜県遺跡番号21401―06378）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、徳山ダム建設事業に伴うもので、水資源開発公団（現独立行政法人水資源機構）徳山ダム建設所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は泉拓良奈良大学教授（現京都大学教授）の指導のもとに、平成15年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆は、第１章第２節第１項、第３章第１節は近藤聡、第２章第１節は藤岡比呂志、それ以外は近藤大典が行った。また編集は近藤大典が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、地形測量、空中写真測量などの業務は、株式会社イビソクに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。遺構写真は各調査の担当者が撮影した。

8　自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。結果は、第５章に掲載した。

9　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略・五十音順）

伊藤正人　川添和暁　冨井眞　長田友也　長屋幸二　坂東肇　矢野健一

10　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1998『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
目次
第１章　調査の経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　発掘調査の経過と方法……2
第２章　遺跡の環境……7
　第１節　地形・地質的環境……7
　第２節　周辺の遺跡……10
第３章　いじま遺跡の調査……11
　第１節　基本層序……11
　第２節　遺構・遺物の概要……15
　第３節　第１調査面の遺構……19
　第４節　第２調査面の遺構……22
　第５節　遺物……25
第４章　櫨原神向遺跡の調査……33
　第１節　基本層序……33
　第２節　遺構・遺物の概要……35
　第３節　遺構……38
　第４節　遺物……39
第５章　自然科学分析……41
第６章　まとめ……53
参考・引用文献……61
表……63
図版
写真図版
巻頭図版　１　いじま遺跡・櫨原神向遺跡遺跡全景
巻頭図版　２　いじま遺跡 SB004出土遺物　櫨原神向遺跡出土遺物
巻末図版　１　いじま遺跡第１調査面平面図
巻末図版　２　いじま遺跡第２調査面平面図
巻末図版　３　櫨原神向遺跡第１調査面平面図
巻末図版　４　櫨原神向遺跡第２調査面平面図

挿 図 目 次

図１　いじま遺跡・櫨原神向遺跡の位置…… 1
図２　いじま遺跡試掘確認調査坑位置図…… 4
図３　いじま遺跡発掘調査区・グリッド設定図… 4
図４　櫨原神向遺跡試掘確認調査坑位置図…… 6
図５　櫨原神向遺跡発掘調査区・グリッド設定図… 6
図６　いじま遺跡周辺地形図…… 8
図７　櫨原神向遺跡周辺地形図…… 9
図８　周辺の遺跡地図……10
図９　いじま遺跡第１調査区南北壁土層断面図…12
図10　いじま遺跡第１調査区東西ベルト土層断面図…13
図11　いじま遺跡第２調査区土層断面図……14
図12　いじま遺跡主要遺構配置図……16
図13　接合した磨製石斧　345 ……31
図14　櫨原神向遺跡第５調査区ベルト土層断面図…34
図15　櫨原神向遺跡主要遺構配置図……35
図16　火山ガラスの形態……43
図17　いじま遺跡第２調査区火山ガラスの屈折率分布図…43
図18　地質柱状図と採取層準……44
図19　いじま遺跡第１調査区堆積物の鉱物組成…46
図20　いじま遺跡第２調査区堆積物の鉱物組成…47
図21　いじま遺跡中期土器群別割合(1)……54
図22　いじま遺跡中期土器群別割合(2)……54
図23　いじま遺跡出土定型石器用途機能別割合…55
図24　徳山地区主要遺跡出土定型石器用途機能別割合…56
図25　櫨原神向遺跡出土定型石器用途機能別割合…59
図26　小の原遺跡出土環状石斧……60

表 目 次

表１　周辺の遺跡一覧……10
表２　いじま遺跡出土石器各分類点数……17
表３　いじま遺跡出土石器分類別石材一覧……18
表４　櫨原神向遺跡出土石器各分類点数……36
表５　櫨原神向遺跡出土石器分類別石材一覧……37
表６　いじま遺跡堆積物中の鉱物組成……45
表７　いじま遺跡火山ガラスの屈折率測定結果…45
表８　いじま遺跡放射性炭素年代測定及び
　暦年代較正の結果……49
表９　櫨原神向遺跡放射性炭素年代測定及び
　暦年代較正の結果……50
表10　櫨原神向遺跡土坑 SK100の埋土中の
　内容物観察結果……52
表11　いじま遺跡出土定型石器用途機能別分類
　及び点数一覧……55
表12　櫨原神向遺跡出土定型石器用途機能別分類
　及び点数一覧……58
表13　いじま遺跡竪穴住居跡一覧……64
表14　いじま遺跡炉跡一覧……64
表15　いじま遺跡ピット一覧(1)……65
表16　いじま遺跡ピット一覧(2)……66
表17　いじま遺跡配石・集石遺構一覧……66
表18　いじま遺跡土坑一覧(1)……66
表19　いじま遺跡土坑一覧(2)……67
表20　いじま遺跡土坑一覧(3)……68
表21　いじま遺跡土坑一覧(4)……69
表22　いじま遺跡土坑一覧(5)……70
表23　いじま遺跡土坑一覧(6)……71
表24　いじま遺跡立石遺構一覧……71
表25　いじま遺跡土器観察表(1)……72
表26　いじま遺跡土器観察表(2)……73
表27　いじま遺跡土器観察表(3)……74
表28　いじま遺跡土器観察表(4)……75
表29　いじま遺跡土器観察表(5)……76
表30　いじま遺跡土器観察表(6)……77
表31　いじま遺跡土器観察表(7)……78
表32　いじま遺跡土器観察表(8)……79
表33　いじま遺跡旧石器計測表……80
表34　いじま遺跡石鏃計測表（未製品も含む）…80
表35　いじま遺跡石錐計測表……80
表36　いじま遺跡楔形石器計測表……81

表37　いじま遺跡石匙計測表……81
表38　いじま遺跡スクレイパー計測表……81
表39　いじま遺跡ヘラ形石器計測表……81
表40　いじま遺跡 RF 計測表……82
表41　いじま遺跡 UF 計測表……82
表42　いじま遺跡打製石斧計測表……82
表43　いじま遺跡異形石器計測表……82
表44　いじま遺跡石核計測表……82
表45　いじま遺跡磨製石斧計測表……83
表46　いじま遺跡磨石・凹石・敲石計測表……83
表47　いじま遺跡石皿計測表……83
表48　いじま遺跡砥石計測表……83
表49　いじま遺跡石棒計測表……83
表50　いじま遺跡石錘計測表(1)……83
表51　いじま遺跡石錘計測表(2)……84
表52　橅原神向遺跡焼土一覧……86
表53　橅原神向遺跡配石・集石遺構一覧……86
表54　橅原神向遺跡土坑一覧(1)……86
表55　橅原神向遺跡土坑一覧(2)……87
表56　橅原神向遺跡土器観察表……88
表57　橅原神向遺跡石鏃計測表(未製品も含む)…88
表58　橅原神向遺跡石錐計測表……88
表59　橅原神向遺跡楔形石器計測表……88
表60　橅原神向遺跡石匙計測表……88
表61　橅原神向遺跡スクレイパー計測表……89
表62　橅原神向遺跡 RF 計測表……89
表63　橅原神向遺跡 UF 計測表……89
表64　橅原神向遺跡石核計測表……89
表65　橅原神向遺跡石錘計測表……89
表66　橅原神向遺跡打製石斧計測表……89
表67　橅原神向遺跡磨石・凹石・敲石計測表……90
表68　橅原神向遺跡環状石斧計測表……90

写　真

写真 1　いじま遺跡調査前風景……24
写真 2　いじま遺跡表土除去作業状況……24
写真 3　いじま遺跡作業風景……24
写真 4　いじま遺跡 SB004調査風景……24
写真 5　橅原神向遺跡調査前風景……37
写真 6　橅原神向遺跡への道　掛葺川に架かる仮設橋…37

図　版

図版 1　いじま遺跡 SB001実測図(1)
図版 2　いじま遺跡 SB001実測図(2)
図版 3　いじま遺跡 SB001実測図(3) SB002・SB003実測図(1)
図版 4　いじま遺跡 SB002・SB003実測図(2)
図版 5　いじま遺跡 SB004実測図(1)
図版 6　いじま遺跡 SB004実測図(2)
図版 7　いじま遺跡 SB004実測図(3)
図版 8　いじま遺跡 SB005実測図(1)
図版 9　いじま遺跡 SB005実測図(2) SB006実測図(1)
図版10　いじま遺跡 SB006実測図(2)
図版11　いじま遺跡 SF001・SF002・SI001・SI002実測図
図版12　いじま遺跡 SI003・SI004・SI1001実測図
図版13　いじま遺跡 SK026・SK034・SK049・SK062実測図
図版14　いじま遺跡 SK162・SK164・SR001・SR002実測図
図版15　いじま遺跡 SR003～ SR007実測図
図版16　いじま遺跡土器実測図(1)　SB
図版17　いじま遺跡土器実測図(2)　SB
図版18　いじま遺跡土器実測図(3)　SB
図版19　いじま遺跡土器実測図(4)　SB
図版20　いじま遺跡土器実測図(5)　SB
図版21　いじま遺跡土器実測図(6)　SB
図版22　いじま遺跡土器実測図(7)　SB
図版23　いじま遺跡土器実測図(8)　SI　SK　SR
図版24　いじま遺跡土器実測図(9)　遺物包含層
図版25　いじま遺跡土器実測図(10)　遺物包含層
図版26　いじま遺跡土器実測図(11)　遺物包含層

図版27　いじま遺跡土器実測図(12)　遺物包含層
図版28　いじま遺跡石器実測図(1)
台形石器　尖頭器　石錐
図版29　いじま遺跡石器実測図(2)　石錐　楔形石器
図版30　いじま遺跡石器実測図(3)
石匙　スクレイパー(1)
図版31　いじま遺跡石器実測図(4)　スクレイパー(2)
図版32　いじま遺跡石器実測図(5)　スクレイパー(3)
図版33　いじま遺跡石器実測図(6)　スクレイパー(4)
ヘラ形石器　RF　UF(1)
図版34　いじま遺跡石器実測図(7)　UF(2)
打製石斧(1)
図版35　いじま遺跡石器実測図(8)　打製石斧(2)
異形石器　石核(1)
図版36　いじま遺跡石器実測図(9)　石核(2)
磨製石斧
図版37　いじま遺跡石器実測図(10)　磨石類　石皿(1)
図版38　いじま遺跡石器実測図(11)　石皿(2)　砥石
石棒　打欠石錘
図版39　いじま遺跡石器実測図(12)　切目石錘
図版40　檜原神向遺跡 SF01・SF02・SF04・
SF05実測図
図版41　檜原神向遺跡 SI01～SI04実測図
図版42　檜原神向遺跡 SI05・SI06実測図
図版43　檜原神向遺跡 SK034・SK050実測図
図版44　檜原神向遺跡 SK100実測図
図版45　檜原神向遺跡土器実測図
図版46　檜原神向遺跡石器実測図(1)　石錐　石錐
楔形石器　石匙　スクレイパー
図版47　檜原神向遺跡石器実測図(2)　RF　UF
石核　打欠石錘　切目石錘
図版48　檜原神向遺跡石器実測図(3)　打製石斧(1)
図版49　檜原神向遺跡石器実測図(4)　打製石斧(2)
磨石類(1)
図版50　檜原神向遺跡石器実測図(5)　磨石類(2)
環状石斧

写　真　図　版

写真図版 1　いじま遺跡遠景（北東より）
写真図版 2　いじま遺跡調査区全景
写真図版 3　いじま遺跡 SB001
写真図版 4　いじま遺跡 SB002・SB003
写真図版 5　いじま遺跡 SB004
写真図版 6　いじま遺跡 SB005
写真図版 7　いじま遺跡 SB006・SF001・SF002
写真図版 8　いじま遺跡 SI001・SI002・
SI1001・SK026
写真図版 9　いじま遺跡 SI003・SI004・SK034
写真図版10　いじま遺跡 SK049・SK062・SK162・
SR001
写真図版11　いじま遺跡 SK164・SR002～SR007
写真図版12　いじま遺跡土器(1)
写真図版13　いじま遺跡土器(2)
写真図版14　いじま遺跡土器(3)
写真図版15　いじま遺跡土器(4)
写真図版16　いじま遺跡土器(5)
写真図版17　いじま遺跡土器(6)
写真図版18　いじま遺跡土器(7)
写真図版19　いじま遺跡土器(8)
写真図版20　いじま遺跡土器(9)
写真図版21　いじま遺跡土器(10)
写真図版22　いじま遺跡土器(11)
写真図版23　いじま遺跡土器(12)
写真図版24　いじま遺跡土器(13)
写真図版25　いじま遺跡土器(14)
写真図版26　いじま遺跡土器(15)
写真図版27　いじま遺跡土器(16)
写真図版28　いじま遺跡石器(1)
写真図版29　いじま遺跡石器(2)
写真図版30　いじま遺跡石器(3)
写真図版31　いじま遺跡石器(4)
写真図版32　檜原神向遺跡遠景（北より）
写真図版33　檜原神向遺跡 SF・SI・SK
写真図版34　檜原神向遺跡 SI・SK
写真図版35　檜原神向遺跡土器
写真図版36　檜原神向遺跡石器(1)
写真図版37　檜原神向遺跡石器(2)
写真図版38　檜原神向遺跡石器(3)　参考資料

第１章　調査の経緯

第１節　調査にいたる経緯

いじま遺跡　当遺跡は、揖斐川町櫨原平リボキに所在し、旧櫨原集落東の支流扇谷が揖斐川本流に合流する地点より北東へ約1．1km遡った場所に位置する。右岸に突き出た尾根先端部の標高約363～367mの緩斜面（第１調査区）及び標高約353～357mの狭小な河岸段丘上（第２調査区）に立地する。

当遺跡は、徳山ダム建設によって水没する地域に含まれたことから、1994（平成６）年に当センターが範囲確認のため試掘調査を実施した。その結果、遺跡とされていた段丘のすぐ下の小段丘からも縄文土器片や石器が出土し、遺跡面積が約300㎡増えることが確認された。2001（平成13）年に当センターが、文化庁及び県教育委員会の基準に基づき、発掘調査範囲を確認するため確認調査を実施した。これらの結果を踏まえて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で、１区・２区併せて約600㎡の本発掘調査が必要であると判断された。その後、水資源開発公団（当時）徳山ダム建設事務所と県教育委員会との協議を経て、2003（平成15）年度に本発掘調査、2004（平成16）年度に整理作業を実施することになった。

櫨原神向遺跡　当遺跡は、揖斐川町櫨原神向に所在し、揖斐川を挟んで旧櫨原集落の対岸やや上流に位置する。揖斐川右岸に張り出した狭小な標高約350～356mの河岸段丘上に立地する。

当遺跡は、徳山ダム建設に伴う水没地域に含まれたことから、1994（平成６）年に当センターが範囲確認のため試掘調査を実施した。その結果、縄文土器や石器が出土し、遺跡の広がりを確認した。2001年（平成13）に当センターが、文化庁及び県教育委員会の基準に基づき、発掘調査範囲を確認するため確認調査を実施し、遺跡は開田時の削平を受けているが南側に包含層の残存を確認した。これらの結果を踏まえて、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で約2，200㎡の本発掘調査が必要であると判断された。その後、水資源開発公団（当時）徳山ダム建設事務所と県教育委員会との協議を経て、2003（平成15）年度に本発掘調査、2004（平成16）年度に整理作業を実施することになった。

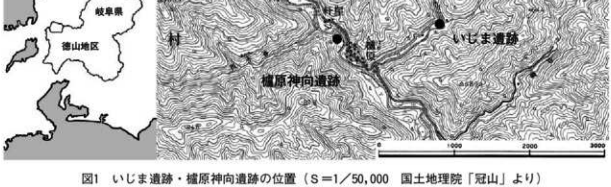


図1　いじま遺跡・櫨原神向遺跡の位置（S＝1／50,000　国土地理院「冠山」より）

第2節　発掘調査の経過と方法

調査体制　発掘調査は、いじま遺跡が2003（平成15）年5月12日から11月25日まで、橿原神向遺跡が同年5月1日から10月31日まで実施した。整理作業は2004（平成16）年度に実施した。発掘調査から整理作業までの調査体制は以下のとおりである。

	平成15年度（発掘調査）	平成16年度（整理・報告書作成）
理事長	日比　治男	日比　治男
副理事長	高橋　宏之	高橋　宏之
副理事長	平光　明彦	平光　明彦
常務理事兼センター所長	福田　安昭	福田　安昭
経営課長	川瀬　崇敏	川瀬　崇敏
調査部長	武藤　貞昭	川部　誠
担当調査課長	大熊　厚志	藤岡比呂志
担当調査員（いじま遺跡）	近藤　聡	近藤　大典
担当調査員（橿原神向遺跡）	石井　照久	近藤　大典
整理作業従事者	家岡　久美　伊藤　好子　岩崎いつわ 春日井典子　橋本　法子　山口　久子	

いじま遺跡　発掘調査範囲は、狭小な尾根部分の上段を第1調査区、下段を第2調査区とした。調査区全体に4m×4mの調査区画（グリッドと呼称）を設定し、西から東へA～Mのアルファベットを、北から南へ1～10のアラビア数字を付し、それらを組み合わせて各グリッド名とした。

第1調査区では重機で表土を除去した後、Ⅲ層上面及びⅤ層上面で遺構検出作業、掘削作業を行った。第2調査区では人力で表土を除去した後、Ⅲ層上面及びⅤ層上面で検出作業、掘削作業を行った。いずれの調査区でも、遺物包含層（以下、包含層と略称する）の掘削は、すべて人力掘削で行った。

遺構検出の過程で、遺構の配置と切り合い関係を示す略測図は、新たに電子平板システムを導入して作成した。

包含層及び遺構内から出土した遺物は、出土位置を原則としてトータルステーションで測定して取り上げた。遺構の調査にあたっては、全遺構について平面図・土層断面図を作成した。発掘調査区全体の平面図は、ラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量によって作成した。また同時に空中写真撮影も行った。

以下に、発掘調査日誌の抜粋を記し、週毎の調査経過を示す。

いじま遺跡発掘調査日誌抄

第１週（5.12～5.16）
　第１調査区で表土掘削を開始。
第２週（5.19～5.23）
　第１調査区で表土掘削終了後、グリッド杭を設置。
第３週（5.26～5.30）
　29日第１調査区でトレンチ掘削、第２調査区で人力による表土掘削開始。
第４週（6.2～6.6）
　第１調査区のトレンチ掘削終了後、遺構検出開始。第２調査区では表土掘削を継続。
　第５週（6.9～6.13）
　９日第１調査区で配石遺構（SI001）を検出。第２調査区の表土掘削を継続。
第６週（6.16～6.20）
　天候不順のため作業進まず。第２調査区の人力による表土掘削を継続。
第７週（6.23～6.27）
　23日第１調査区で竪穴住居跡（SB001）を検出。
第８週（6.30～7.4）
　３日SB001床面で石囲い炉（SF003）を検出。その後、掘削中に炉内に敷かれた土器を検出。
第９週（7.7～7.11）
　天候不順のため作業進まず。第２調査区の表土掘削終了。
第10週（7.14～7.18）
　竪穴住居跡（SB001）を完掘。第２調査区の包含層（第Ⅱ層）掘削開始。
第11週（7.22～7.25）
　第２調査区の包含層掘削を終了し、第１調査面での遺構検出を開始。配石・集石遺構SI1001を検出。
第12週（7.28～8.1）
　28日第１調査区で竪穴住居跡（SB002･003）を検出。その後、切り合い関係を確認するため、トレンチ掘削。
第13週（8.4～8.8）
　第１調査区東部分の表土掘削開始。その後、遺構検出を開始。
第14週（8.18～8.22）
　第１調査区東西畦を精査し土層観察。第２調査区の遺構掘削を継続。
第15週（8.25～8.29）
　第２調査区遺構掘削終了。29日、空中写真測量及び撮影。
第16週（9.1～9.5）
　第１調査区Ⅲ・Ⅳ層を掘削開始。
第17週（9.7～9.12）
　第１調査区Ⅲ層・Ⅳ層の掘削継続。
第18週（9.16～9.19）
　第１調査区Ⅲ層・Ⅳ層掘削終了後、Ⅴａ・Ⅴｂ層上面での遺構検出開始。
第19週（9.22～9.26）
　第１調査区Ⅴａ・Ⅴｂ層上面の遺構検出継続。
第20週（9.29～10.3）
　29日第１調査区で竪穴住居跡（SB004）を検出。
第21週（10.6～10.10）
　竪穴住居跡（SB004）の四分割し掘削開始。SB004の北西部分で配石・集石遺構SI004を検出。
第22週（10.14～10.17）
　17日竪穴住居跡（SB005･006）を検出。
第23週（10.20～10.24）
　竪穴住居跡（SB005･006）の掘削開始。第２調査区の第Ⅴ層を掘削開始。
第24週（10.27～10.31）
　第２調査区のⅤ層上面で、遺構がないことを確認。29日、空中写真測量及び撮影。27日泉拓良教授の指導を受ける。
第25週（11.4～11.7）
　第１調査区Ⅴａ層掘削開始。その後、遺構検出。
第26週（11.10～11.14）
　14日第１調査区北西部分のⅥ層上面で遺構がないことを確認し調査終了。
第27週（11.17～11.21）
　第１調査区及び第２調査区の壁面（南北壁面）の観察及び実測。20日埋め戻し。
第28週（11.25）
　現地にて事業主の立ち会いのもと最終確認を行い、25日発掘調査終了。

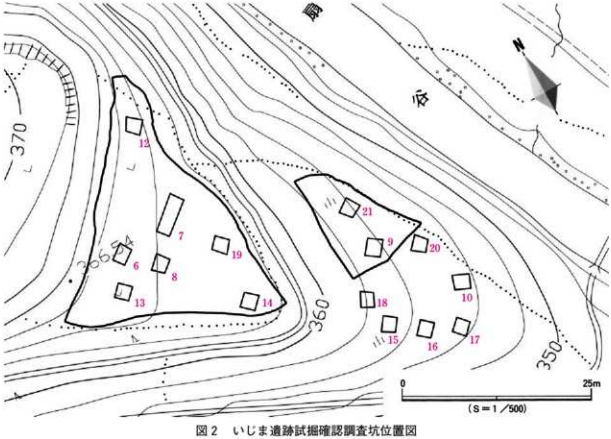


図2　いじま遺跡試掘確認調査坑位置図

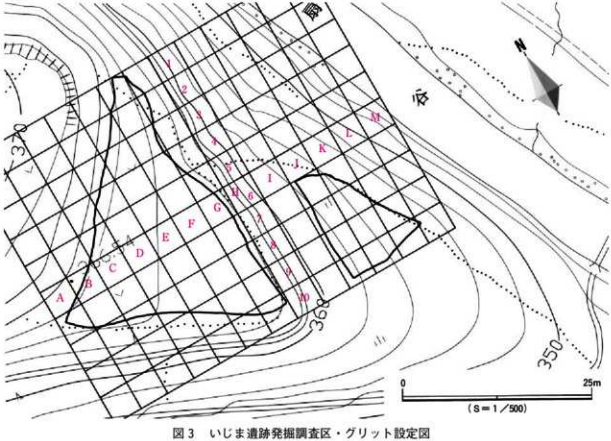


図3　いじま遺跡発掘調査区・グリット設定図

橿原神向遺跡　発掘調査範囲は、旧水田毎に第１～第６の調査区に分けた（図５）。また調査区全体に４ｍ×４ｍの調査区画（グリットと呼称）を設け、西から東へＡ～Ｓのアルファベットを、北から南へ１～18のアラビア数字を付し、それを組み合わせて各グリット名とした。

発掘調査は、まず重機により調査区全面の表土及び敷土層（Ⅰ層）と盛土層（Ⅱ層）を除去し、その後、Ⅲ層・Ⅳ層を人力で掘削した。なお包含層や遺構内から出土した遺物は、出土位置を原則としてトータルステーションで測定して取り上げた。遺構調査にあたっては、必要に応じて平面図・土層断面図などを作成した。発掘調査区全体の平面図は、ラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量によって作成した。また同時に空中写真撮影も行った。

以下に、発掘調査日誌の抜粋を記し、週毎の調査経過を示す。

橿原神向遺跡発掘調査日誌抄

第１週（５／１～５／２）
重機による表土掘削を調査区東端より開始。
第２調査区終了。

第２週（５／６～５／９）
表土掘削継続。第３調査区北西部に湧水用に１×２ｍの溜池を作る。第１・３調査区終了。

第３週（５／12～５／16）
表土掘削継続。第４・５調査区間に土層観察用の畦を残す。第４・５・６調査区を終了し、表土掘削終了。

第４週（５／19～５／23）
19日に調査始め式。第５調査区北側壁面沿いにサブトレンチを入れ、土層確認。

第５週（５／26～５／30）
第５調査区11～15列のⅢ層を掘削。28日I11区で焼礫集積遺構（SI001）を検出。

第６週（６／２～６／６）
第５調査区８～11列のⅢ層を掘削。第３調査区10列にサブトレンチを入れ土層を確認。

第７週（６／９～６／13）
第４・５調査区８～10列のⅢ層を掘削。11日焼礫集積遺構（SI002）を検出。

第８週（６／16～６／20）
第５調査区遺構検出終了。

第９週（６／23～６／27）
天候不順のため作業進まず。調査区北端のⅢ層掘削。

第10週（６／30～７／４）
２日第４調査区で焼礫集積遺構（SI006）を検出。第４調査区遺構検出終了。

第11週（７／７～７／11）
天候不順のため作業進まず。

第12週（７／14～７／18）
第３調査区14～16列の表土の残りを掘削。

第13週（７／22～７／25）
第３調査区遺構検出終了。第６調査区包含層掘削を開始するが、天候不順のため進まず。

第14週（７／28～８／１）
第６調査区遺構検出。土坑２基検出。第１調査区遺構検出。

第15週（８／４～８／８）
第２調査区遺構検出。土坑２基検出。

第16週（８／18～８／22）
22日第１調査面（Ⅳ層上面）の空中写真測量及び撮影。発掘調査検討委員会を実施し、第２調査面（Ⅴ層上面）の調査方針を検討。

第17週（８／25～８／29）
第５調査区Ⅳ層を掘削開始。自然流路範囲確定のためのサブトレンチを入れる。

第18週（９／１～９／５）
第５調査区遺構検出継続。調査区南端の包含層が厚く堆積しており、掘削に苦労した。

第19週（９／８～９／12）
第５調査区遺構検出継続。複数の土坑検出。

第20週（９／16～９／19）
第５調査区で土坑を検出。押型文土器が出土。

第21週（９／22～９／26）
第５調査区遺構検出継続。10・11列の土坑群が竪穴住居跡のものの可能性があるか検討したが、不明。第５調査区遺構検出終了。

第22週（９／29～10／２）
第６調査区遺構検出。土坑１基を確認。

第23週（10／６～10／10）
第４調査区遺構検出終了。

第24週（10／27～10／31）
27日泉拓良教授の指導を受ける。29日空中写真測量及び撮影。31日、発掘調査終了。

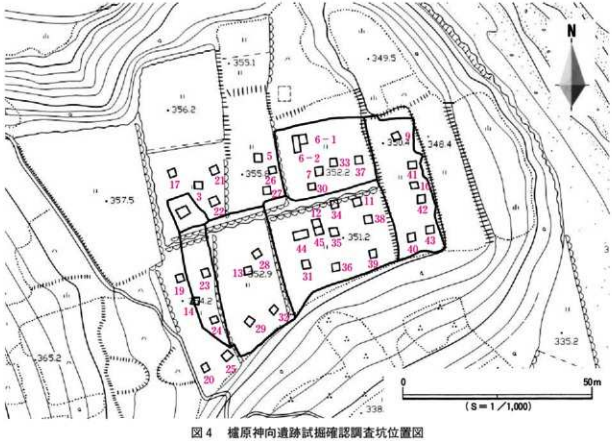


図4　橿原神向遺跡試掘確認調査坑位置図

図5　橿原神向遺跡発掘調査区・グリット設定図

第2章　遺跡の環境

第1節　地形・地質的環境

いじま遺跡　いじま遺跡は、揖斐川本流に流れ込む支流（扇谷）沿いに位置する。当遺跡付近から、北北西から南南東に流れていた扇谷が南西に流れを変えている。そのため、遺跡がある右岸は河川からの堆積物が堆積しやすい側（滑走斜面側）となっている。当遺跡は、上下2段の面に存在する。河床からの比高は下の面では約10m、上の面では約18mである。下位の面では、遺構検出面より約40cm下から段丘礫層の最上部と思われる砂層が確認できた。また、上位の面では、直接段丘礫層を確認することはできないが、地山面に円～亜円礫の河川成の礫が多く入るため、下部に段丘礫層があることが推定できる。このことより、上位、下位の遺跡面とも河岸段丘上にあると考えられる。

周辺の基盤岩は、美濃帯堆積岩類の砂岩である。その砂岩を削り込んだところに段丘堆積物（砂礫層）が堆積し、その上に表土が堆積しているというのが、当遺跡の地質の概観である。

揖斐川本流に流れ込む支流はいくつもあるが、割合直線的に流れる支流が多い。しかし、扇谷は中流部でかなり曲流がみられる。流域面積は21.5㎢で、北西約4㎞先にあるひん谷、南東約2.5㎞先にある磯谷、南東約3.5㎞先にある漆谷、及び反対の右岸へ流れ込む鬼生谷に比べると大きい。約2倍、若しくは2倍以上の流域面積である。ちなみに、ひん谷、磯谷、漆谷、鬼生谷の流域面積はそれぞれ11.4㎢、9.5㎢、9.0㎢、9.8㎢である。このように扇谷の流量が多いため、他の支流ではみられない河岸段丘を形成したのであろう。

櫨原神向遺跡　櫨原神向遺跡は、揖斐川本流右岸にある段丘面上に位置する。この段丘面は、本流から20m弱の比高を持っており、対岸の櫨原村平遺跡のある段丘面と同一面と思われる。

段丘面内において、現状では何段か高さの異なる平面が存在するが、これは開田の結果できた平面である。本来段丘面は平坦地であるが、段丘面の上に山側からの堆積物が載っているため、緩やかな斜面となっており、開田のためには段をつけて水平にする必要があったと考えられる。地形測量図で読み取れる限り、山側からの堆積物が3m以上載っているところがある。この堆積物は、産状からして土石流堆積物と判断できる。大小様々な亜角～亜円礫が砂質シルトの中に混在している。中には、礫の間に砂粒～中砂粒が入り、段丘砂礫層と思われるような部分もあるが、そのような部分でさえ亜角礫が混在しており、段丘堆積物の二次堆積であると思われる。

当遺跡の北西角には湧水が存在する。この湧水は、遺跡の南西約100m先に見られる谷部の伏流水であると考えられる。

周辺の基盤岩は砂岩からなっており、そこを削り込んだところに段丘堆積物（砂礫層）が堆積している。そして、その上に山側からの土石流堆積物が載っているというのが、当遺跡における地質の概観である。

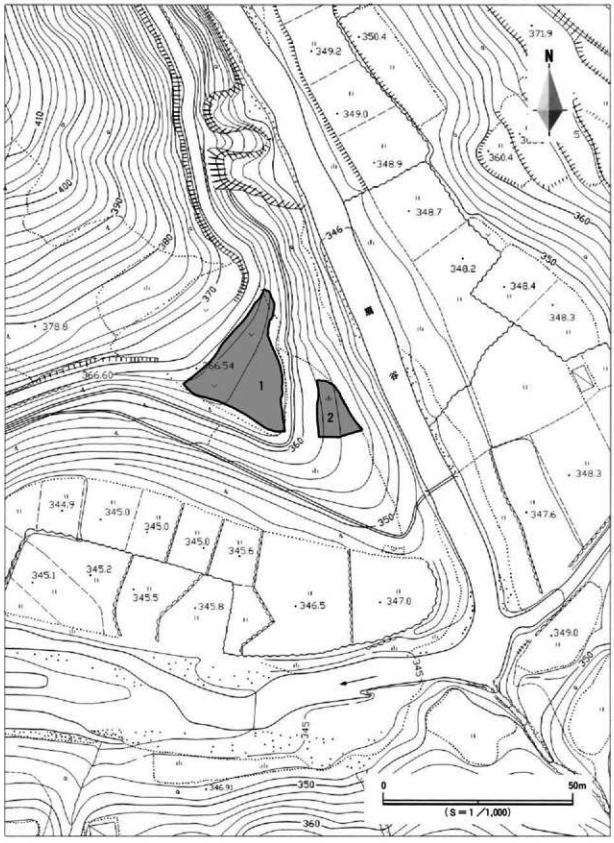


図6　いじま遺跡周辺地形図

図7　槻原神向遺跡周辺地形図

第２節　周辺の遺跡

いじま遺跡・櫨原神向遺跡が所在する旧徳山村には、多数の遺跡が知られており、その多くが徳山ダム建設に伴い水没することになった。それに伴い昭和62年度より発掘調査が行われている。それらの成果をもとにいじま遺跡・櫨原神向遺跡周辺の遺跡について、表１に発掘調査の成果をまとめた。なお表中にない遺跡はそれぞれの発掘調査報告書を、また徳山地区の歴史的環境については『山手宮前遺跡』（財岐阜県文化財保護センター1998）、『上原遺跡Ⅰ』（同2000）を参照されたい。

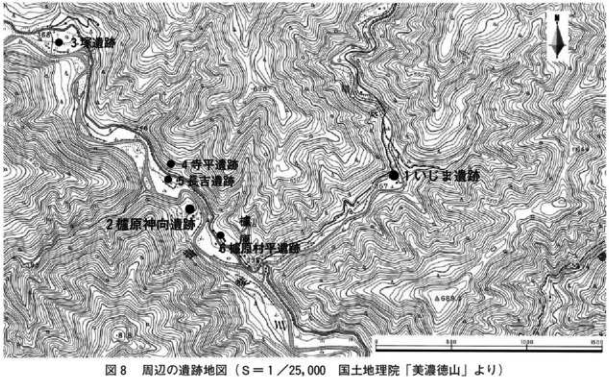


図８　周辺の遺跡地図（Ｓ＝１／25,000　国土地理院「美濃徳山」より）

表１　周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	特徴												発掘調査	報告書
1	いじま遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	2003	本書
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期								
		・縄文早期の集石遺構、中期の竪穴住居跡・炉跡・配石遺構・土坑など														
2	櫨原神向遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	2003	本書
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期								
		・縄文早期の焼礫集積遺構や土坑など														
3	塚遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	1990～1991	○
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期								
		・縄文中期から後期の竪穴住居跡や集石遺構など。														
4	寺平遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	2001	○
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期					◎			
		・縄文時代の落とし穴や土坑、平安時代の建石建物跡・掘立柱柱建物跡・土坑など。														
5	長吉遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	1991	○
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期						△		
		・縄文晩期の埋設遺構、縄文時代の土坑など。														
6	櫨原村平遺跡	旧石器時代	縄文時代								弥生時代	古墳時代	古代	中世	2002～2003	未
		△	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期					△	○		
		・縄文時代前期～晩期にかけての土坑、中期後半の掘立柱柱建物跡など。														

※１　各時代欄の記号は、◎が遺構・遺物が多い、○が遺構・遺物あり、△が遺物のみ。
※２　櫨原村平遺跡については、現在整理中であり、今後内容に変更のある可能性あり。

第３章　いじま遺跡の調査

第１節　基本層序

調査区は、突き出た尾根上にあり、西から東へ緩やかな傾斜地を形成している。廃村前は、開墾により削平地が作られ、主に畑作が営まれていた。第１調査区、第２調査区とも基本的な層序は概ね安定しているが、第１調査区の西の山側には一部崩落堆積が見られる。第２調査区は、第１調査区との間におよそ８ｍ程の高低差があり、第１調査区の崩土と思われる堆積が一部見られる。なお、第１調査区のⅠ層からⅤ層、第２調査区のⅠ層からⅣ層のそれぞれの層の相関関係は定かではない。

第１調査区の基本層序　基本層序は、西壁土層断面および東西ベルト土層断面を根拠とした。

Ⅰ層（黒褐色土）

表土層、旧徳山村廃村時まで利用されていた畑の耕作土である。

Ⅱ層（黒色土）

調査区のほぼ全域に堆積する縄文時代の遺物包含層、特に西の山側の堆積が厚く、東の谷川に至るほど堆積が薄い。

Ⅲ層（黒色土）

縄文時代の遺物包含層で、中期の土器を含む。

Ⅳ層（にぶい黄褐色土）

崩積性堆積で、調査区北西部のみに堆積する。部分的に褐色土がブロック状に混じる。

Ⅴａ層（黒色土）

縄文時代の遺物包含層で、調査区北側に堆積する。

Ⅴｂ層（暗褐色土）

縄文時代の遺物包含層で、調査区南西部に堆積する。

Ⅵ層（褐色土）

基盤層、段丘礫層若しくはその直上に堆積したと思われる土。

第２調査区の基本層序　基本層序は、西壁土層断面及び東西ベルト土層断面を根拠とした。

Ⅰ層（黒褐色土）

表土層、旧徳山村廃村時まで栗林として利用されていた土である。

Ⅱ層（黒褐色土）

Ⅰ層に同じく表土層、Ⅰ層に比べてやや締まりのある土である。

Ⅲ層（黒色土）

無遺物層、鬼界アカホヤ火山灰（Ｋ－Ａｈ）が確認できる。

Ⅳ層（黒褐色土）

縄文時代の遺物包含層で、調査区北側に堆積する。

Ⅴ層（黒色土）

無遺物層、調査区のほぼ全域に厚く堆積する。

Ⅵ層（褐色土）
赤褐粒、段丘礫層若しくはその直上に堆積したと思われる土。

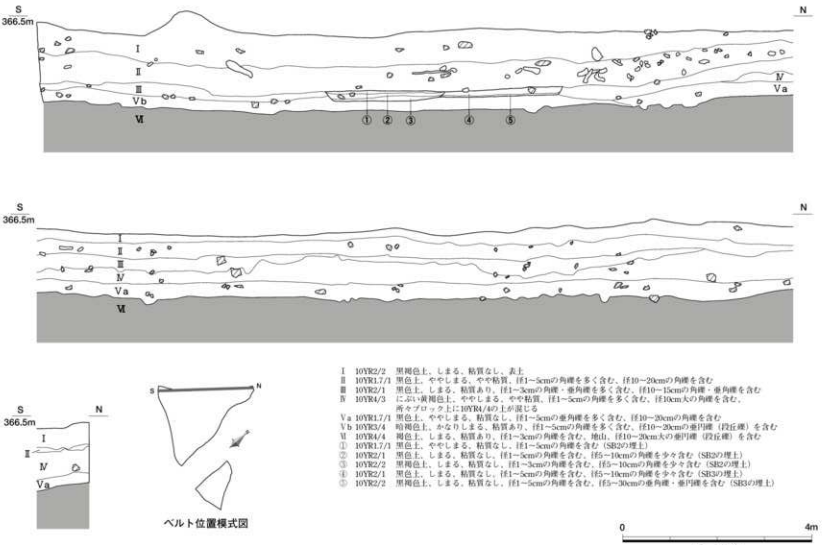
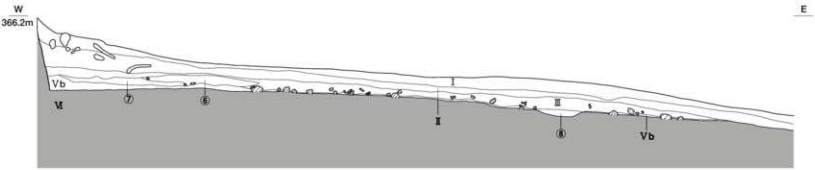
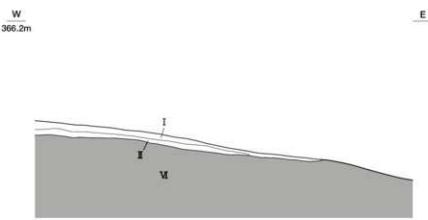
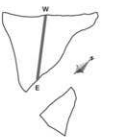


図9　いじま遺跡第1調査区南北壁土層断面図





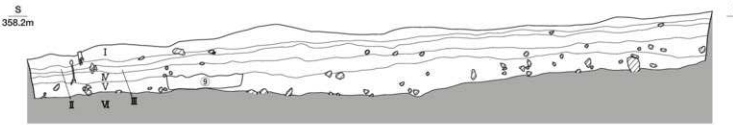


ベルト位置模式図

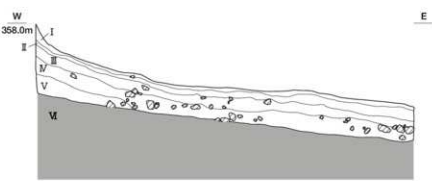
Ⅰ　10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。表土
Ⅱ　10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。やや粘質。径1～5cmの角礫を多く含む。径10～20cmの角礫を含む
Ⅲ　10YR2/1　黒色土。しまる。粘質あり。径1～3cmの角礫・亜角礫を多く含む。径10～15cmの角礫・亜角礫を含む
Vb　10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を多く含む。径10cm～20cmの角礫を含む
Ⅵ　10YR4/4　褐色土。しまる。粘質あり。径1～3cmの角礫を含む。地山。径10cm～20cmの亜円礫（段丘礫）を含む
⑥　10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。やや粘質。径1～5cmの角礫・亜角礫を含む。径10～15cmの角礫・亜角礫を少々含む
⑦　10YR2/3　黒褐色土。しまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を多く含む。径10～20cmの角礫を含む
⑧　10YR2/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む。径5～10cmの亜角礫を少々含む

0　4m
（S=1/40）

図10　いじま遺跡第１調査区東西ベルト土層断面図



I　10YR2/2　黒褐色土、しまりなし、粘質なし、表土
II　10YR2/3　黒褐色土、やや暗質、径3～10cmの亜角礫・亜円礫を含む
III　10YR2/1　黒色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～10cmの角礫・亜角礫を含む
IV　10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～10cmの角礫・亜角礫を含む
V　10YR1.7/1　黒色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～20cmの角礫・亜角礫を含む
VI　10YR3/4　暗褐色土、かなりしまる、粘質あり、径5～10cm程度の角礫・亜角礫を多く含む、10cm以上の亜円礫（段丘礫）を含む、地山
⑨　10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし、径1～5cmの角礫を多く含む、径5～10cmの角礫を含む



I　10YR2/2　黒褐色土、しまりなし、粘質なし、表土
II　10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、やや粘質、径3～10cmの亜角礫・亜円礫を含む
III　10YR2/1　黒色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～10cmの角礫・亜角礫を含む
IV　10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～10cmの角礫・亜角礫を含む
V　10YR1.7/1　黒色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む、径5～20cmの角礫・亜角礫を含む
VI　10YR3/4　暗褐色土、かなりしまる、粘質あり、径5～10cm程度の角礫・亜角礫を多く含む、10cm以上の亜円礫（段丘礫）を含む、地山

ベルト位置模式図

(S=1/40)

図11　いじま遺跡第2調査区土層断面図

第２節　遺構・遺物の概要

遺構　遺構検出は、第１調査区ではⅢ層、Ⅴ層の各上面で計２回、第２調査区ではⅢ層、Ⅴ層の各上面で計２回行った。各遺構をどの面で検出したかは、表13～24に示したが、検出した面が異なるということが遺構の時期差を表しているわけではない。例えば第１調査区でⅤ層上面で検出した遺構であっても、本来は上の層に掘り込まれたものであったが、検出できずにその下面であるⅤ層上面で検出したという可能性もある。したがって、各遺構の時期については、検出面を参考にしながら、主に出土した土器によって判断した。

第１・第２調査区合わせて確認した遺構は268基で、その内訳は次のとおりである。なお（アルファベット）は遺構の略号で、これは橿原神向遺跡も同じである。

竪穴住居跡（SB）・・・・・６軒　　炉跡（SF）・・・・・・・・５基
配石・集石遺構（SI）・・・６基　　土坑（SK）・・・・・・・・184基
立石遺構（SR）・・・・・・７基　　ピット（SP）・・・・・・・60基

出土した土器から判断すると、大半が中期後半に属する。

第１調査区と第２調査区を比べると、第２調査区で確認した遺構は土坑30基、配石遺構５基で、遺構分布の主体は前者にあることが分かる。また第１調査区においても大半の遺構が調査区北西側、比較的フラットになった段丘面でもより山側にある。

遺物　出土した遺物は、縄文土器8,894点（破片数。このうち遺構出土分は3,593点）、石器1,447点（遺構出土分は392点）で、合計10,341点である。

縄文土器　早期、前期、中期に属すると判断されるものがある。それぞれ早期が452点、前期が５点、中期が8，437点である。

土器の時期については、主に小林達雄編『縄文土器大観』（以下、『大観』と略称する）を参照した。土器の時期・型式と現物との対応は、主に観察者の判断によるが、早期については個別に矢野健一氏の御指導を頂いた。なお縄文土器全体については泉拓良氏に御指導いただいた。

早期は押型文土器と条痕文系土器様式に含まれる。塞ノ神式、鵜ヶ島台式、型式名は判然としないが早期末葉と思われるものまで、断続的に認められる。

前期はいずれも北白川下層Ⅲ式に該当すると思われるが、大歳山式に下る可能性のあるものもある。

中期に属する土器は量的にも多く、遺跡の中心となる時期であることから、以下のように分類した。

Ｃ１群　…　船元・里木式土器様式に該当するもの。地文が縄巻縄文の船元Ⅳ式と撚糸文の里木Ⅱ式がある。174点確認し、前者が６点、後者が168点という内訳である。

Ｃ２群　…　咲畑・醍醐式土器様式の第１様式に該当するもの。273点確認した。

Ｃ３群　…　神明式土器に該当するもの。256点確認した。

Ｃ４群　…　咲畑・醍醐土器様式の第２・第３様式に該当、若しくは併行するもの。2，699点確認した。

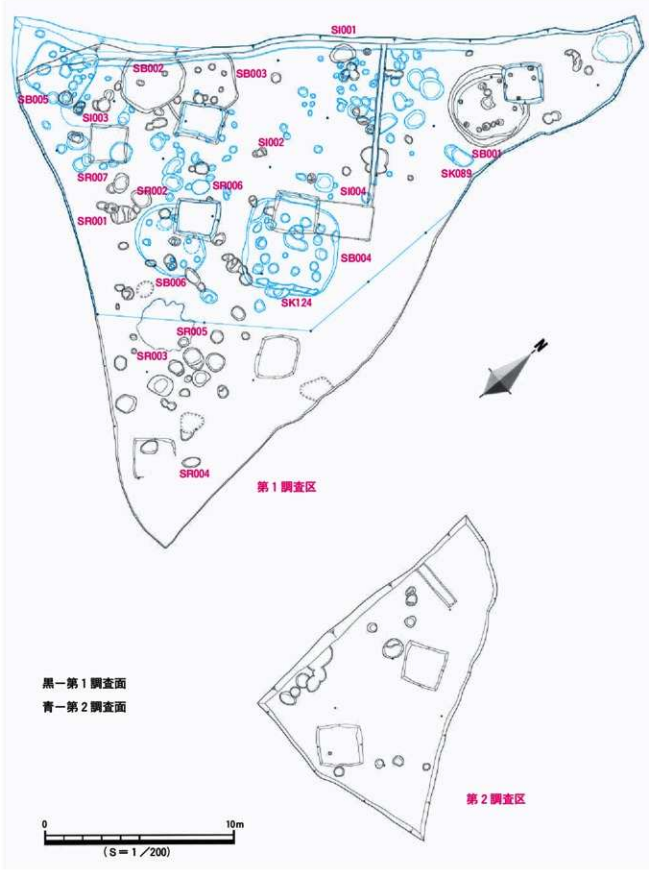


図12　いじま遺跡主要遺構配置図

Ｃ５群　…　中期後葉から末葉に属すると思われるもので、Ｃ１～Ｃ４群に分類できないもの。粗製土器とされるものを含む。縄文のみを施したもの、無文のものがある。4,739点確認した。

Ｃ６群　…　上記に該当しないもの。53点確認した。

底部　…　平底と脚台を確認した。

石器　旧石器時代に属する石器２点と縄文時代と判断される石器1,540点の計1,542点がある。旧石器時代の石器は台形石器と尖頭器である。縄文時代の石器は次のように分類した。なお分類の基準は、一般的な理解に基づき、また既刊の徳山関係の報告書を参考にした。それと現物の対応は観察者（近藤聡・近藤大典）の判断による。なお分類については長屋幸二氏に御指導いただいた。

- 剥片石器
  - 石核
  - 剥片
  - 製品
    - 石鏃
    - 石錐
    - 楔形石器
    - 刃器
      - 石匙
      - スクレイパー
      - ヘラ形石器
      - ＲＦ
      - ＵＦ
    - 打製石斧
    - 異形石器
  - 各器種未製品　石鏃
  - 分類不能
- 礫石器
  - 磨製石斧
  - 磨石・凹石・敲石
  - 石錘
    - 打欠石錘
    - 切目石錘
  - 砥石
  - 石皿
  - 石棒

表２　いじま遺跡出土石器各分類出土点数

遺構	遺物包含層	合計
10	19	30
156	518	674
20	60	80
7	12	19
6	16	24
2	6	8
30	104	134
3	9	12
23	135	158
35	146	181
2	12	14
1	0	1
8	2	10
29	13	42
4	1	5
10	21	31
3	15	18
40	55	95
1	0	1
2	0	2
0	1	1

縄文時代の製品でみると、スクレイパーなどの刃器が製品全体の約60%を占め、切目石鏃約12%、石鏃約11%が続く。石材については表3のように13種類を認識した。チャートが全体の約86%と大半を占める。ただし分類別にみると、チャートは小型の剥片石器に限られている。一方、打製石斧や中・大型の礫石器には砂岩や泥岩が使われており、チャートとは好対照である。安山岩については小型の剥片石器から、大型の礫石器まで使用されている。

表3　いじま遺跡石器分類別石材一覧

	点数	チャート	安山岩	サヌカイト	下呂石	黒曜石	石英斑岩	凝灰岩	泥岩	砂岩	蛇紋岩	ドレライト	アプライト	閃緑岩
台形石器	1	1												
尖頭器	1	1												
石核	30	29	1											
剥片	674	651	9	2	8			3	2					
石鏃(含未製品)	90	83	3		4									
石錐	19	18				1								
楔形石器	24	24												
石匙	8	5	1	1			1							
スクレイパー	134	131	3											
ヘラ形石器	12	11			1									
RF	158	153	2		2			1						
UF	181	179				2								
打製石斧	14		3						8	3				
異形石器	1			1										
分類不能	42	42												
磨製石斧	5		1								4			
磨石類	31		12					6		9		1	1	1
打欠石錘	18		2					1	3	11				1
切目石鏃	95		15					1	12	61		6		
砥石	1									1				
石皿	2		2											
石棒	1		1											
計	1542	1328	55	4	15	3	1	12	25	85	4	7	1	2
割合（%）		86.1	3.6	0.3	1.0	0.2	0.1	0.8	1.6	5.5	0.3	0.5	0.1	0.1

第３節　第１調査面の遺構

第１調査面で検出した遺構は、第１調査区の竪穴住居跡（SB001～003）、炉跡（SF001・002）、配石・集石遺構（SI001～003）、土坑（SK001～077）、立石遺構（SR001～005）、ピット（SP001～022）、第２区の配石・立石遺構（SI101～105）、土坑（SK1001～1030）である。ピットのうち、SP001～010はSB001、SP013・014はSB002、SP015～022はSB003の床面でそれぞれ検出した。SI1001は第２調査区、それ以外は第１調査区の遺構である。なお遺構配置図は附図１である。

遺構の規模などについては、表13～24にまとめてあるので、そちらを参照されたい。ここでは、主要遺構について、調査の経過、埋土の状況、炉跡や主柱穴の解釈などを述べる。

SB001（図版１～３）　Ⅱ層基底面調査中に検出した。土層確認ベルトを設定し、四分割して埋土の掘削を行った。土層の確認、図化をした後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を開始した。その結果、12基のピット（SP001～SP012）、１基の石囲い炉（SF003）を確認した。竪穴の残存状況は比較的よく、深いところで約0．7mある。埋土は自然堆積と考えられ、上から４層目までは同じような黒色土である。壁はほぼ直立しているが、東側の一部を除き、中程で段をつけテラス状に作り出している。床面では、貼り床は確認できなかった。ピットはその配置から、SP001・SP003・SP006～SP008・SP011の６本、若しくはSP001・SP005・SP007・SP010の４本が主柱穴であると考えられる。炉跡は中央やや北で検出した。現存する石と掘形の形状から、方形の石囲い炉であったと考えられる。掘形の規模は長軸である南北方向に約0.63m、短軸である東西方向に約0.58mである。炉石は西側と北側にある。西側の石はよく被熱し多数のひび割れがあり、北側の石は細長い川原石で平坦面を上にして置かれていた。埋土は３層に分けられ、炉の中央部の３層上面では土器敷きを、掘形底面では焼土面を確認した。土器は深鉢で、内面を上にして敷かれていた。焼土は一部ブロック状の部分がみられたが全体的には薄い。出入り口は、柱穴と炉跡の位置関係から、東向きであったと考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器38点（破片数。以下同じ）、石器１点、炉内から縄文土器54点、SP008から縄文土器３点である。竪穴住居跡は、炉に敷かれた土器が中期末葉に属すると判断されることから、その時期に機能していたと考えられる。なお遺構の北部分には、平成13年度試掘坑№12がある。

SB002（図版３・４）　Ⅱ層基底面調査中にプランを確認した。掘削は、北西隣で確認したSB003との切り合いを確認するため入れたサブトレンチの土層観察を行った後、四分割して行った。なおSB003との関係は、SB003埋没後にSB002が構築されたと考えられる。土層の確認、図化をした後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を行った。その結果、２基のピット（SP013・SP014）を検出した。炉跡は確認できなかった。埋土は深い場所でも約0.3mしかなく、上部は削平されたと判断した。壁はやや開き気味に直立している。床面では、貼り床は確認できなかったが、全体的に硬化していた。ピットは２基のみの確認であり、主柱穴と思われる。出入り口は、根拠となるものがないため判然としないが、地形的にみると東若しくは西を向く可能性が考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器106点、石器28点である。竪穴住居跡は、埋土から出土した土器のうち、もっとも新しいと思われるものが中期末葉に属すると判断されることから、その時期に埋没しつつあったと考えられる。なお縄文土器のうち約半数が早期に属する。早期の土器片はSB002周辺包含層から比較的多く出土しており、遺跡の形成過程を考える上で意味があると思われる。

SB003（図版3・4）　Ⅱ層基底面調査中にプランを確認した。南西部をSB002に、南東部を平成6年度試掘坑№6に切られている。土層確認ベルトを設定し、四分割して埋土の掘削を行った。土層の確認、図化をした後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を行った。その結果、8基のピット（SP015～SP022）を検出した。炉跡は確認できなかった。埋土は深い場所でも約0.2mしかなく、上部は削平されたと判断した。壁はやや開き気味に直立している。床面では、貼り床を確認できなかったが、全体的に硬化していた。主柱穴は、いずれとも判断できなかった。したがって、出入り口はよくわからないが、地形的にみると東もしくは西を向く可能性が考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器74点、石器6点、SP015から縄文土器1点、SP017から縄文土器1点、石器1点、SP022から縄文土器4点、石器1点である。竪穴住居跡は、埋土から出土した土器のうちもっとも新しいと思われるものが中期末葉に属すると判断されることから、その時期に埋没しつつあったと考えられる。なおSB003もSB002と同様に、早期の土器片が埋没時期と考えられる中期に比較して多く出土している。

SF001（図版11）　Ⅲ層上面で検出した。埋土中にブロック状に焼土が混じる。原型は不明であるが、もとは地床炉で、廃棄後に破壊されたものではないかと推測される。

出土遺物がないため、時期は不明である。

SF002（図版11）　Ⅲ層上面で検出した。埋土中にブロック状に焼土が混じる。地床炉もしくは焼土を捨てるための土坑の可能性が考えられるが、よくわからない。SF001のすぐ隣にあることから、何らかの関係を考えることができるかもしれない。

出土遺物がないため、時期は不明である。

SI001（図版11）　Ⅱ層基底面で検出した。土坑断面は浅い皿状で、埋土が二層に分けられる。配石は1層中にある。石は、角礫が多く、一部円礫（川原石）が混じる。積み石状になった中央部の最上段には円礫が寝かせた状態で置かれているように見えた。

出土遺物がないため、時期は不明である。

SI002（図版11）　Ⅱ層基底面で検出した。土坑断面は箱状であるが、底面中央部にさらに一段掘り窪めた部分がある。埋土は三層に分けられ、石は上から1層目と2層目にある。1層目は円礫が二つ合掌したようにあり、2層目は5～10cmの角礫・円礫が散在している。

出土遺物は、縄文土器12点である。もっとも新しい土器が中期末葉に属すると判断できることから、遺構もその時期のものと思われる。

SI003（図版12）　Ⅱ層基底面で検出した。土坑断面は円錐形で、埋土は三層に分けられる。上部に皿状の円礫一つが寝かせた状態であり、その下に径約20cm前後の角礫数個があった。

出土遺物は、縄文土器13点、石器1点である。もっとも新しい土器が中期末葉に属すると判断できることから、遺構もその時期のものと思われる。

SI1001（図版12）　Ⅳ層基底面で検出した。土坑断面は箱形で、埋土は二層に分けられる。検出面では径5cm程までの角礫、亜円礫が集中し、埋土中には数十cmに及ぶものもみられた。

出土遺物は、縄文土器2点である。早期1点と、無文が1点である。遺構の時期は、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）を含むⅢ層の下での検出ということから、早期の可能性がある。

SK026（図版13）　Ⅱ層基底面で検出した。断面形は不整形で、埋土は三層に分かれる。径40cm超の石

皿351（図版37）が寝かせた状態で斜位に入っていた。石皿は検出時から確認できたが、埋土では３層目に埋まっていた。

出土遺物は、縄文土器27点、石器２点である。土器は中期末葉に属すると考えられる。土器と検出面から、遺構は中期末葉に属すると思われる。

SK034（図版13）　Ⅱ層基底面で検出した。断面形は台形で、埋土は二層に分かれる。径40cm程の円礫を伴う。

出土遺物は、土器31点、石器９点である。もっとも新しい土器が中期末葉であることから、その時期の遺構と考えられる。

SK049（図版13）　Ⅱ層基底面で検出した。断面形は角のない台形状で、埋土は二層に分かれる。径約50cmの円礫、径30cm程の亜角礫が一つずつある。

出土遺物は、石器が５点である。所属時期は判然としないが、中期の可能性が高い。

SK062（図版13）　Ⅱ層基底面で検出した。断面形は半円形で、埋土は一層である。径20～40cm程の亜角礫を数個伴う。

出土遺物は縄文土器１点である。土器はＣ１群に分類でき中期後葉に属する。遺構もその時期の可能性があるが、判然としない。

SR001（図版14）　Ⅱ層基底面で検出した。立石は径40cm程の円礫二つからなり、土坑の中央部にある。土坑は断面不定形で、埋土が七層に分けられる。

出土遺物は、縄文土器２点である。所属時期は判然としないが、中期の可能性が高い。

SR002（図版14）　Ⅱ層基底面で検出した。立石は一辺25cm程の角礫で、土坑の中央やや北より長辺を東西にしてある。土坑の断面は浅い台形で、埋土は一層である。

出土遺物は、縄文土器１点である。所属時期は判然としないが、中期の可能性が高い。

SR003（図版15）　Ⅱ層基底面で検出した。立石は長さ30cm程の棒状で、土坑中央よりやや南西にある。立石から土坑中央部にかけては同程度若しくはやや小型の亜円礫数個が集まっている。現状で立石はやや頭を南に倒した状態である。土坑断面は逆台形で、埋土は一層である。

出土遺物は、縄文土器４点である。出土遺物から中期に属すると思われる。

SR004（図版15）　Ⅱ層基底面で検出した。立石は長径50cm程の扁平な円礫で、土坑北側に土坑長軸に石の長軸をあわせるようにある。土坑断面は立石側が深い三角形で、埋土は二層に分けられる。立石は２層目の上面に据えられたようにある。なお遺構は段丘縁辺部にあり、土坑の埋土上部はやや流れていた可能性がある。

出土遺物はない。所属時期は判然としないが、中期の可能性が高い。

SR005（図版15）　Ⅱ層基底面で検出した。立石は径30cm程の円礫で、土坑東側に寄せてある。土坑断面は半円形で、埋土は一層である。SR004と同様に段丘縁辺部にあるため、土坑の埋土上部は流れている可能性がある。

出土遺物はない。所属時期は判然としないが、中期の可能性が高い。

第4節　第2調査面の遺構

第2調査面で検出した遺構は、竪穴住居跡（SB004～006）、配石・集石遺構（SI004）、土坑（SK078～172）、立石遺構（SR006・007）、ピット（SP023～060）である。ピットのうち、SP044～060はSB004、SP032～043はSB005、SP023～029はSB006の床面でそれぞれ検出した。なお遺構配置図は附図2である。

SB004（図版5～7）　Ⅲ層基底面調査中にプランを確認した。なおSB004北側に試掘坑（TP）№7がある。試掘調査時に「土器溜まり」と表現されたように土器が集中して出土しており、土層観察の結果と併せて竪穴住居跡の存在が推測されていた。

プラン検出後、土層確認ベルトを設定し、四分割して埋土の掘削を行った。土層の確認、図化後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を開始した。その結果、17基のピット（SP044～SP060）、1基の石囲い炉（SF006）を確認した。竪穴の残存状況は比較的よく、深いところで約0.7mある。壁はほぼ直立しており、埋土は自然堆積と考えられる。床面では、貼り床を確認できなかったが、炉跡周辺にやや硬化した部分があった。ピットはその配置から、SP044・SP048・SP052・SP056の4本が主柱穴であると考えられる。炉跡は中央やや北で検出した。現存する石と掘形の形状から、方形の石囲い炉であったと考えられる。掘形の規模は長軸である南北方向に約0.85m、短軸である東西方向に約0.78mである。炉石は東側と南側にあり、いずれもよく被熱している。東側の石は棒状の円礫で、現状で2片に割れている。南側の石はややつぶれた棒状の円礫で、面を持った部分を上にして設置されている。埋土は一層である。竪穴住居の出入り口は、柱穴と炉跡の位置関係から、南西向きであったと考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器2,452点、石器205点が、石囲い炉から縄文土器37点、石器3点が、SP044から縄文土器4点、SP045から縄文土器1点、石器2点、SP046から縄文土器2点、石器2点、SP049から縄文土器3点、SP050から縄文土器4点、SP051から縄文土器2点、SP053から縄文土器1点、SP054から縄文土器13点、石器4点、SP056から縄文土器7点、石器2点、SP058から縄文土器12点、石器3点、SP059から縄文土器40点、石器1点である。炉内から出土した土器が中期末葉に属すると判断できることから、その時期に機能していたと考えられる。

SB005（図版8・9）　調査区西壁に沿って土層確認を目的としたトレンチを掘削中、炉石および土器敷きを検出した。その時点で炉跡が竪穴住居跡のものである可能性を考え、調査区を西に拡張し、プラン検出のため精査を行った。Ⅲ層基底面で住居跡の存在が確認できたが、倒木痕や土坑の存在からプランを明確にしがたく、結果としてⅤb層上面において平面形を確定することができた。その後、土層確認ベルトを設定し、四分割して埋土の掘削を行った。土層の確認、図化をした後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を開始した。その結果、10基のピット（SP033～SP042）、1基の石囲い炉（SF005）を確認した。なお先述したトレンチは、床面を抜いて下層に達している。埋土は一層のみの確認で、また壁はほぼ直立している。床面では、貼り床を確認できなかったが、一部硬化した様子がうかがえた。ピットはその配置から、SP033・SP038・SP040・SP041の4本が主柱穴であると考えられる。炉跡は中央やや北にある。現存する石と掘形の形状から、方形の石囲い炉であったと考えられる。掘形の規模は長軸である南北方向に約0.73m、短軸である東西方向に約0.64mである。炉石は

各辺ともにあるが、東側は割れて北側半分が失われており、西側は北端に円礫が一つ残存していた。炉石はややつぶれた扁平な円礫で、いずれもよく被熱している。埋土は三層に分けられ、2層目の上面に土器敷きがある。土器敷きの直下には焼土面が広がっていた。土器は深鉢で、外面を上にして敷かれていた。炉跡の南側には扁平な石が置かれていた。住居の出入り口は、柱穴と炉跡の位置関係から、南東向きであったと考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器108点、石器10点、炉内から土器27点、SP036から縄文土器2点、SP038から縄文土器2点、SP039から縄文土器6点、SP040から縄文土器3点、SP042から縄文土器1点である。竪穴住居跡は、炉に敷かれた土器が中期末葉に属すると判断できることから、その時期に機能していたと考えられる。

SB006（図版9・10）　Ⅲ層基底面調査中にプランを確認した。なおSB006西側に試掘坑（TP）№8がある。試掘調査時の土層観察から竪穴住居跡の存在が推測されていた。

プラン検出後、土層確認ベルトを設定し、四分割して埋土の掘削を行った。土層の確認、図化をした後、ベルトを取り除き、続いて床面の精査を開始した。その結果、9基のピット（SP023～SP031）を確認した。壁はほぼ直立しており、埋土は自然堆積と考えらる。床面では、貼り床や硬化面を確認できなかった。ピットはその配置から、SP023・SP027・SP028・SP030の4本が主柱穴であると考えられる。炉跡は確認できなかった。竪穴住居の出入り口は、柱穴の位置関係から南向きであったと考えられる。

出土遺物は、埋土から縄文土器34点、石器16点がある。埋土から出土した土器のうちもっとも新しいと思われるものが中期末葉に属すると判断できることから、その時期に埋没しつつあったと考えられる。

SI004（図版12）　Ⅲ層基底面で検出した。土坑断面は半円形で、埋土が三層に分けられる。土坑の中央部に礫集積がある。礫石の中には焼礫や磨り面を持った石が混じっている。それらの礫石は割れており、それらを集めて廃棄したような状態である。時期は判然としないが、中期と思われる。

なお磨り面を持った石は、砥石や石皿の破片かと思われるものがあるが、よく分からない。また径がおおよそ20cm以上の礫は割れている。どのような意図を持って、これらの礫石が集められたのかは不明である。

SK162（図版14）　Ⅲ層基底面で検出した。断面形は逆台形で、埋土は一層である。径20cm超の扁平な亜角礫二つが入っていた。

出土遺物は、縄文土器2点である。土器は中期末葉のもので、遺構もその時期に属すると思われる。

SK164（図版14）　Ⅲ層基底面で検出した。断面形は箱形で、埋土は四層に分かれる。径30～50cmの円礫三つが入っていた。南側をSK165に、東側をトレンチに切られている。

出土遺物はない。検出面から中期末葉に属すると思われる。

SR006（図版15）　Ⅲ層基底面で検出した。立石は長径40cm程の角礫で、土坑北側に寄せてある。土坑断面は台形で、埋土は二層である。立石は1層目にある。2層目には径30cm程の角礫及び亜角礫が数個入っていた。

出土遺物は、縄文土器21点、石器4点である。土器は中期末葉のもので、遺構もその時期に属すると思われる。

SR007（図版15）　Ⅲ層基底面で検出した。立石は長径30㎝程の棒状の円礫で、土坑の中心やや南側にほぼ直立した状態であった。土坑断面はやや角張った半円形で、埋土は一層である。

出土遺物は、縄文土器２点、石器１点である。遺構は中期末葉に属する可能性が高い。

写真１　いじま遺跡調査前風景

写真２　いじま遺跡表土除去作業状況

写真３　いじま遺跡作業風景

写真４　いじま遺跡 SB004調査風景

第5節　遺物

土器

土器は、遺構ごと、遺物包含層について、それぞれ分類案に従い分類した。遺構の場合は出土遺構の性格に関わるものや残存具合がよいものを中心に、包含層の場合は分類ごとに残存具合のよいものや遺構分で掲載予定がない分類に属するものを中心に、それぞれ掲載する資料を決めた。掲載順は遺構ごと→包含層で、またそれぞれ分類順に示したつもりであるが、一部掲載紙面上の都合などで前後しているものもある。以下においては、項目ごとに出土点数と掲載点数、及び個別について特徴的な事柄を中心に述べる。なお図示した土器について、その部分は包含層として取り上げたが、同一個体が遺構から出土している場合、状況から見てその遺構出土のものと判断した例がある（その旨、土器観察表備考欄に注記あり）。

各遺構の分類ごとの破片点数は、表13～24に記載してある。

SB001　竪穴埋土、石囲い炉、ピットから合計95点（接合後の破片点数、以下同じ）出土し、そのうち2点を図示した（図版16：1・2）。1はC 4群に分類した口縁部の破片であるが、端部を欠く。2は石囲炉SF003の中に内面を上にして置かれていた、C 5群の深鉢胴部片である。

SB002　竪穴埋土から合計106点出土し、そのうち9点図示した（図版16：3～11）。3・4は胎土に繊維を含む早期の深鉢胴部片で、表面に縄文を施す。早期後半の宮ノ下式に似る。5は胎土に繊維を含む早期の深鉢口縁部片と思われる。竹管の凸面側で列状に刺突を施している。早期後半に属すると考えられる。6は胎土に繊維を含むことから早期に属すると思われる底部片である。7～11はC 4群に分類した深鉢である。

SB003　竪穴埋土、ピットから合計80点出土し、8点図示した（図版16：12～19）。12はC 3群に分類した深鉢口縁部片である。13はC 4群に分類した深鉢頸部片である。14～16は同一個体で、繊維を含む早期深鉢の口縁部と胴部片である。14が口縁部片で、表面には結節縄文が施されている。15・16は胴部片で、羽状縄文が確認できる。早期後半の宮ノ下式に似る。17・18は繊維を含む早期の深鉢で、段を持つ口縁部片である。いずれも早期後半鵜ヶ島台式に属する。19は繊維を含むことから早期に属すると考えられる深鉢底部片である。平底である。

SB004　竪穴埋土、石囲炉、ピットから合計2,578点出土し、そのうち71点図示した（図版16～22：20～90）。20は繊維を含む早期の段をもつ深鉢で、早期後半鵜ヶ島台式に属する。21・22は繊維を含む早期の深鉢で、表面に山形の押型文が施される。早期前半の穂谷式に併行する。23・24はC 1群に分類したものである。24の地文は撚糸文である。25～30はC 2群に分類したものの口縁部である。26～29は欠けているが口縁端部が直立するものである。31は文様のあり方の類似からC 2群に分類したが、口縁部が緩いキャリパー形になるなどやや異質である。32～35はC 3群に分類した深鉢である。33は大型で、内面に蓋受け状の隆帯が巡る。37～77はC 4群に分類した深鉢である。37・39・41は沈線の中に刺突が施されている。43は表面が荒れており、隆帯の多くが剥離している。45は肥厚した口縁部外面に竹管状工具による刺突が施されている。46は肥厚した口縁部外面に縄文が施されている。47は肥厚した口縁部外面に短沈線が施されている。50は胴部上段を欠くが同一個体の口縁部と底部である。底部外面には網代痕があるが、編み方は確認できる範囲が狭いことからよく分からない。58・68・69

は条線を地文のように施している。59は口縁部を内側に折り曲げ、数カ所に渦巻き状の装飾を付けている。60は口縁部の突起部分である。61は端部を欠く口縁部片と思われるが、胴部片の可能性もある。62・63は口縁部の大型突起部分の破片である。64はC 4群に分類したが、文様のあり方からC 3群の胴部片の可能性もある。67はC 4群に分類したが、他に比較して胎土がやや異質である。71は把手部分の破片である。縄文が施されているが、残存範囲が狭く原体は不明である。78～80はC 5群に分類した深鉢である。79は比較的小型で、コップ形の深鉢である。かなりいびつであり、1段の縄を帯状に上から下に施すのみである。80は無文の口縁部である。図示していないが、胎土からみて同一個体の可能性がある破片には沈線で文様を付けたものがみられる。81・82はC 6群に分類したもので、太い半截竹管による半隆起した平行沈線を口縁部に施す台付鉢である。その器形や文様の特徴は北陸地方の「上山田式・古府式」に似る。83～85は台付深鉢若しくは鉢の脚台片である。86～90はおそらくC 4群の底部片で、いずれも平底である。89に関しては平底ではあるが、外面中央部が若干窪んでいる。91は割れているが、縁辺を打ち欠いた土製円盤片と思われる。92は石囲炉SF006出土で、C 4群の胴部片である。93はSP044出土で、C 4群の端部を欠く口縁部片である。94はSP056出土で、C 4群の口縁部片である。95～97はSP054出土で、いずれもC 4群の胴部片である。

SB005　竪穴埋土、石囲炉、ピットから合計149点出土し、そのうち9点図示した（図版22：98～106）。98は石囲炉SF005に外面を上にして置かれていたものでC 4群の深鉢である。全体に器表面が荒れており、「土器敷炉」の炉床となって二次焼成を受けたためともとれるが、それは土器の下に焼土面を検出していることから疑問である。器表面の劣化は別の要因によると思われる。99はC 1群に分類できる口縁部の小片である。口縁に沿って沈線を引き、そこに交互刺突を施す。100はC 4群の口縁部片である。101はC 4群の胴部片である。102はC 1群の胴部片である。103・104はC 6群に分類できる深鉢である。105はSP040から出土した。繊維を含む早期の深鉢で、押し引きと大型の山形の押型文が施される。早期前半の穂谷式に属すると考えられる。106はSP038から出土した。C 2群の端部を欠く口縁部片と思われる。

SB006　竪穴埋土から34点出土し、そのうち1点図示した（図版22：107）。107は条線を施したC 4群の頸部片と思われる。

SI002　12点出土し、そのうち4点図示した（図版23：108～111）。108はC 2群に分類できる深鉢の口縁部である。109・110はC 4群の胴部片である。111は無文の深鉢の胴部片で、C 5群に分類した。SK157に肉眼観察で同一個体ではないかと思われる破片がある。

SI004　1点出土し、それを図示した（図版23：112）。112は繊維を含むことから早期後半の深鉢口縁部片と思われる。ただし小片で、文様も確認できないことから詳細は不明である。

SK021　4点出土し、そのうち1点図示した（図版23：113）。113はC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。

SK026　27点出土し、そのうち2点図示した（図版23：114・115）。114はC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。口縁部を肥厚させ、外面に縄文を施している。115は無文の底部片である。

SK028　4点出土し、そのうち1点図示した（図版23：116）。116はC 2群に分類できる深鉢口縁部である。

SK029　5点出土し、そのうち1点図示した（図版23：117）。117は繊維を含む早期後半の深鉢胴部若

しくは口縁部片である。押し引きの文様帯と、その下部に縄文を施す。小片のため、縄文の原体は不明である。

SK034　31点出土し、そのうち1点図示した（図版23：118）。118はC 2群に分類できる深鉢口縁部片である。

SK038　1点出土し、それを図示した（図版23：119）。119はC 4群に分類できる深鉢口縁部で、大型の突起部分に当たる。

SK041　3点出土し、そのうち1点図示した（図版23：120）。120はC 1群に分類できる深鉢胴部片で、縄文原体は縄巻き縄文と思われる。

SK061　12点出土し、そのうち3点図示した（図版23：124～126）。124はC 2群に分類できる深鉢の直立する口縁部である。125・126はC 1群に分類できる深鉢頸部である。地文は撚糸文である。

SK062　1点出土し、それを図示した（図版23：121）。121はC 1群に分類できる深鉢口縁部片である。

SK065　16点出土し、そのうち2点図示した（図版23：122・123）。122はC 4群に分類できる深鉢胴部片、123はC 5群に分類できる深鉢胴部片である。

SK073　1点出土し、それを図示した（図版23：127）。127はC 5群に分類できる深鉢口縁部である。

SK124　34点出土し、そのうち1点図示した（図版23：129）。129はC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。

SK135　13点出土し、そのうち1点図示した（図版23：128）。128はC 4群に分類できる深鉢胴部片である。

SK137　1点出土し、それを図示した（図版23：130）。130はC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。表面が荒れている。

SK154　1点出土し、それを図示した（図版23：131）。131はC 5群に分類できる深鉢胴部片で、撚糸文を地文とする。

SK158　6点出土し、そのうち1点図示した（図版23：132）。132は繊維を含む早期の深鉢胴部片である。

SK159　5点出土し、そのうち2点図示した（図版23：133・134）。133・134いずれもC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。135は縄文を地文とし、沈線で文様を施している。

SK160　13点出土し、そのうち1点図示した（図版23：136）。136はC 5群に分類できる深鉢胴部片で、撚糸文を地文とする。

SK162　2点出土し、そのうち1点図示した（図版23：135）。135はC 4群に分類できる深鉢口縁部片である。

SR003　4点出土し、そのうち1点図示した（図版23：137）。137はC 5群に分類できる深鉢胴部片で、縄文を地文とすると思われるが、表面が荒れているため原体は分からない。

SR006　21点出土し、そのうち1点図示した（図版23：138）。138は無文地に隆帯を施した深鉢胴部片で、C 4群に分類できる。

遺物包含層　113点図示した（図版24～27）。

早期の土器

18点図示した（図版24：139～156）。139は山形の押型文を施す深鉢で、樋沢式に該当する。140は胎土に繊維を含み押型文を施す深鉢口縁部片で、波状口縁の波頂部に当たる。細久保式（新）に該当する。141～143は繊維を含み山形の押型文を施す深鉢で、穂谷式に該当する。141は口縁部片で、内外面に押型文を施し、また外面には押し引きもある。142は口縁部片で、外面はよく分からないが内面に押型文が確認できる。143は内面にも押型文がみられることから口縁部の破片と思われる。外面には押型文の他に、刺突や沈線、押し引きなどが施されている。144は繊維を含み刺突と凹線を施す波状口縁の深鉢口縁部で、寒ノ神式に該当する。145は繊維を含み沈線を施す深鉢で、小片のためよく分からないが沈線の様子から穂谷式に該当する可能性がある。146は繊維を含み刺突を施す深鉢の頸部片と思われるもので、早期後半に属すると考えられる。147は繊維を含む深鉢の口縁部片である。無文で、口縁端部に直交して棒状工具を押しつけてある。早期後半に属すると思われる。148は繊維を含む深鉢の口縁部片で、縄文を地文とし口縁に平行して沈線を施す。早期後半に属すると思われる。149・150は繊維を含み無文の深鉢胴部片で、早期後半に属すると思われる。151は繊維を含み、地文に3段の縄文を、また波状口縁に沿って刺突列を施す深鉢である。早期後半に属すると思われるが、該当する型式はない。152・153は繊維を含み縄文を施す深鉢で、宮ノ下式に似る。いずれも縄文の原体はわからない。154は繊維を含み縄文を施す深鉢胴部片で、茅山式に似る。胴部中央に横位にLRの縄の圧痕がある。155は繊維を含み縄文を施した底部片で、宮ノ下式に似る。底部外面にも縄文が施されている。156・157は繊維を含み、いずれも羽状縄文を施した深鉢胴部片で、早期後半に属すると思われる。

前期の土器

5点図示した（図版24：158～162）。158～161は縄文を地文とし特殊突帯文を施す深鉢で、北白川下層Ⅲ式から大歳山式に該当する。158は突帯上を半截竹管でなで引いている。159は断面半円状の突帯がある。いずれも北白川下層Ⅲ式に該当する。160・161は縄文を地文とし、断面三角形の特殊突帯文が付けられている。大歳山式に該当すると思われる。162は縄文を地文としC字形の爪形文を施す山形口縁の波頂部片である。C字形爪形文を施すことから、北白川下層Ⅱb式（古）の可能性もあるが、器壁が厚いことや遺跡内では他にその時期のものがないことから、北白川下層Ⅲ式に併行する時期の諸磯式に該当すると思われる。

中期の土器

C1群は8点図示した。（図版24：163～168、図版25：173・174）。163～166は口縁部片、167・168は胴部片である。いずれも地文は撚糸文である。173は撚糸文を地文とし平行沈線によって文様を施した深鉢である。174は深鉢の胴部片で、頸部に刺突列のある隆帯が、その下には縦に隆帯を等間隔で配し中を縦に条線が施されている。ここに分類したが、C4群の可能性もある。

C2群は16点図示した（図版24：169～171、図版25：175～187）。169～172は口縁端部は欠けているが、口縁部が直立するものである。170と171は同一個体の可能性がある。175～179は極端なキャリパー状口縁を持つ深鉢で、渦巻き文や区画文に細い隆帯を用いるものである。180～186は沈線で渦巻き文や区画文を施すものである。187は胴部片で、三条の沈線によって連弧文を描いている。

C3群は8点図示した（図版25：188～191、図版26：192～195）。188～190・195は口縁部に付く突

起部分である。なかでも195は橋状把手が大きく、また複雑に発達した突起部になっている。191・198は端部を欠く口縁部である。なお191はＣ２群の可能性もある。194は壺若しくは鉢と思われるが、よくわからない。

Ｃ４群は23点図示した（図版26：196～218）。196～208は端部が残存する口縁部片である。196は図示した部分では欠けているが、縄文帯の下に横位の隆帯がある破片もある。200・201は口縁端部を肥厚させ、そこに縄文を施している。202は口縁部にある突起部分である。209～218は端部を欠く口縁部及び胴部片である。217は縦にランダムに条線を施すだけの胴部片である。

Ｃ５群は16点図示した（図版26：219～221、図版27：222～234）。219～229は縄文もしくは撚糸文のみを施したもの。ただし胴部片は小片のため口縁部に文様があった可能性はあるが、便宜上ここに分類した。220は１段の縄が転がされている。230～234は無文のもの。232は口縁部を外側に薄く折り返している。233は外面を削っており、中期でない可能性もある。234は口縁部に沿ってやや隆起させた部分がある。

Ｃ６群は10点図示した（図版27：235～234）。Ｃ６群とし、便宜上中期としたが、他の時期に属する可能性のあるものも含む。235・238は深鉢口縁部片で、文様のあり方から北陸系と思われる。236は小片のため判然としないが、Ｃ４群の口縁部片の可能性もある。237はＤ字形の刺突列が施されており、またそれに沿って沈線というみるべきか条痕とみるべきか迷うような線がある。他に同様の胎土の土器もない。中期後半から後期中葉の可能性が考えられるが、他の土器との関係から中期後半に属すると思われる。239は浅鉢の口縁部になるかと思われる。240～243は同一個体で、まばらに縄文が施され、口縁部には隆帯が一条貼り付けられている。口縁端部は面取りし、両側から刺突が施されている。早期に属する可能性もある。244は浅鉢と思われる。

245は土製円盤である（図版27）。撚糸文が施された土器から作製されている。

246～253は中期の底部片である（図版27）。246～248・253は平底である。253の底部外面にはスダレ状圧痕がある。249は上げ底になっている。250・251は脚台付きの底部である。252は上げ底気味の平底である。

石器

石器は器種ごとに確認点数と石材、その他個別について特徴的なことを述べる。

台形石器　１点出土した（図版28：254）。石材はチャートである。なお、この石器については長屋幸二氏から次のような御指導をいただいた。また掲載実測図も長屋氏の御厚意による。

> 節理の発達した青灰色のチャート岩を用いた台形石器である。幅広の剥片を斜めに用い、打面から側縁の一部にかけてと端部の一部に調整剥離を表裏に施している。刃縁が広く残り基部にも節理面が見られることとリングの状況から、整形の度合いはそれ程大きくないと考えられる。打面は基部に残る節理面と同一面であろう。背面も平坦な節理面に広く覆われており、素材剥片の作出については明らかにできない。刃部は全縁にわたってサイズや切り合いの不斉一な微剥離が背面側に入る。
>
> 当資料のような台形石器は東海における旧石器編年の第１期（西村1999）に位置づけられ、県内では岐阜市寺田遺跡などで出土している（関市深橋前遺跡〔松岡2003〕でも台形石器の報告が

あるが、楔形石器の誤認のようである。)。同時期に位置づけられそうな資料は、当遺跡では他に確認できなかった。

尖頭器　1点出土した（図版28：255)。石材はチャートである。基部を欠いているが、木葉形になると思われる。剥片の縁辺に調整を加え、尖頭部を作り出している。小型である点、調整の様子、形態などから旧石器時代に属する可能性が高いと考えられる。

石鏃　石鏃に分類したものは80点、石鏃の未製品と判断したものは8点で、そのうち石鏃を21点、石鏃未製品を2点図示した（図版28:256～278)。これらの石鏃は、基部の形態から平基鏃、凹基鏃、有茎鏃の三種に分類した。内訳は、平基鏃10点、凹基鏃60点、有茎鏃1点、不明2点で、凹基鏃が多い。石材別にみると安山岩が7点でそのうち下呂石と判断できるものが4点、以外はすべてチャートである。

256は未製品と判断した。257は正三角形に近い平面形を持つ凹基鏃である。縁辺に調整を施し、内部にまで及んでいない。258・259・271は平基鏃で、特に271は比較的大型である。260は凹基鏃で、カエル足のように中途で外側に屈曲する脚部を持つ。261・269は一見平基鏃のように見えるが、弱い抉りが確認できるので凹基鏃に分類した。269は縁辺のみの調整である。262・263は脚部の長い凹基鏃で、262はいわゆる長脚鏃、263はいわゆる鍬形鏃とみることができる。264・267・277は、平面形が二等辺三角形の凹基鏃で、脚部が比較的長い。265は側縁の中央部分がふくらむ凹基鏃である。266は脚の短い凹基鏃で、やや粗雑ではあるがいわゆる円基鏃とみることができるのではないか。268・270・276は平面形が二等辺三角形の凹基鏃で、264などに比べ脚が短い。272は平面形が基部の法が短い菱形で、有茎鏃に分類した。273～275は側縁の中央部分がふくらむ凹基鏃であるが、265に比較して短い。調整は縁辺のみである。

石錐　石錐に分類したものは19点で、そのうち8点図示した（図版29:279～286)。石材は黒曜石が1点ある以外は、すべてチャートである。

279の先端部はやや棒状になり、かなり摩滅している。280・285は先端部を作り出しているが長くはない。このうち285は黒曜石製である。281の先端部は棒状ではないが、やや尖らしてある。282・284・286は先端部を棒状に作り出している。このうち284の先端部は摩滅している。283はあまりはっきりとしていないが、先端部を棒状にしている。

楔形石器　楔形石器に分類したものは24点で、そのうち7点図示した（図版29:287～293)。石材はすべてチャートである。

287は幅の広い側に階段状剥離がみられる。288は先端部が欠損しているが、現存側に打撃痕がみられる。289は他に比較して大型で薄い剥片であるが、図面下側に階段状剥離が、上側に打撃痕が認められたので楔形石器とした。

石匙　石匙に分類したものは8点で、そのうち5点図示した（図版30:294～297)。石材は石英斑岩が1点、サヌカイトが1点、安山岩系が1点、それ以外はチャートである。

297は腹面とした面に刃部をもつが、背面にも一部それが見られる。298は途中で折れている。

スクレイパー　スクレイパーに分類したものは134点で、そのうち20点を図示した（図版30～33：299～318)。石材は3点安山岩系のものがある以外はチャートである。

299は調整が密でなくRFとしてもよいが、左側面が刃部と認められるのでスクレイパーと考えた。

300の調整は粗い。なお刃部はよく摩滅しているように見える。301は抉り状の刃部を持つ。303は刃部を2カ所持つ。短い刃部は両面、長い刃部は腹面のみの調整である。304は抉り状の刃部を持つ。 311は刃部以外にも抉り状の調整がある。石匙の未製品の可能性もある。314は平面三角形で、各側面に刃部がある。316は2カ所抉り状の刃部がある。317は抉り状の刃部を持つ。318は大型の横長剥片を用いたもので、大きな調整による刃部を持つ。

ヘラ形石器　ヘラ形石器に分類したものは12点で、そのうち1点図示した（図版33：319）。石材は下呂石が1点、それ以外はチャートである。

RF　RFに分類したものは158点で、そのうち5点図示した（図版33：320～324）。石材は安山岩2点、下呂石2点、凝灰岩1点、それ以外はチャートである。

UF　UFに分類したものは181点で、そのうち9点図示した（図版33・34：325～333）。石材は黒曜石2点以外はチャートである。

使用痕と判断した微細な剥離痕の範囲については、図中に範囲を示した。

打製石斧　打製石斧に分類したものは14点で、そのうち4点図示した（図版34・35：334～337）。なお、刃部を制作する際にできた剥片と判断できるものが7点ある。石材は泥岩が5点、砂岩が3点、安山岩が3点である。

334は裏面の側面にも調整が加えられている。335は向かって左に母岩から剥離する際の打瘤が想定できるが、現状では調整によってみられない。337は向かって左に母岩から剥離する際の打瘤がみられる。刃部部分は剥片時にさかのぼって薄くなっており、うまくそこを利用している。

異形石器　異形石器に分類したものは1点（図版33：338）で、石材はサヌカイトである。

石核　石核と判断したものは30点で、そのうち3点図示した（図版35:339～341）。石材は安山岩が1点、それ以外はチャートである。

磨製石斧　磨製石斧に分類したものは5点ですべて図示した（図版36:342～346）。石材は4点が蛇紋岩、1点が安山岩である。

342は刃部側が欠損している。344は側面や表面中央刃部寄りに欠けがみられるが、後者は欠けた後磨いている。345は刃部のみの破片であり、かつ接合資料である。薄い方の破片にツインバルブがみられることから、意図的に割ったと考えられる。346は刃部が一部欠けている。全体に摩耗しており、側面の稜が明瞭でない。

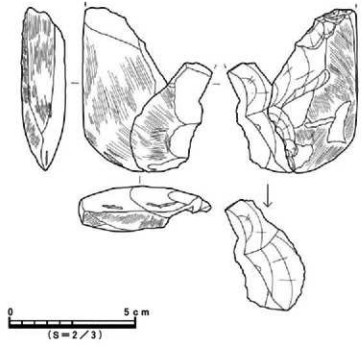


図13　接合した磨製石斧　345

磨石・凹石・敲石　これらについては一個体に磨り面と敲打痕をもつものといったように複数の使用痕が認められるものがあることからまとめて取り扱い、磨石類と略称する。磨石類と判断したものは31点で、そのうち4点図示した（図版37:348～350）。石材は安山岩12点、砂岩9点、流紋岩質溶結凝灰岩6点、ドレライト1点、アプライト1点、閃緑岩1点である。

打欠石錘　打欠石錘に分類したものは18点で、そのうち4点図示した（図版38:355～358）。石材は砂岩11点、泥岩3点、安山岩2点、花こう閃緑岩1点、凝灰岩1点である。

切目石錘　切目石錘に分類したものは95点で、そのうち16点図示した（図版39:359～374）。石材は砂岩が61点、安山岩が15点、泥岩が11点、ドレライトが6点、凝灰岩1点、珪質泥岩が1点である。

365や373のように切り込みが、片方が切目で片方が打欠という例もある。

砥石　砥石と分類したものは1点である（図版38：653）。石材は砂岩である。

石皿　石皿に分類したものは2点で、そのうち2点を図示した（図版37・38：351・352）。石材はいずれも安山岩である。

352は扁平円礫が割れたものを利用している。

石棒　石棒は1点出土した（図版38：354）。石材は安山岩である。円柱状であるが、一部縦方向に軽く面取りするように加工がある。被熱しているが、折れた後のことと思われる。2001年の試掘調査時の出土であるが、層や位置からSK156に伴うものと考えられる。

第４章　櫨原神向遺跡の調査

第１節　基本層序

調査区は東西の標高差約６ｍを測り、西から東へ緩やかな傾斜地を形成している。廃村前は開墾によって多くの削平地が造られ、主に水田が営まれていた。原地形も傾斜をなしていたと思われる。

基本的な層序は概ね安定しているが、部分的にいわゆる地山まで削られていたことや、第１から第６調査区まではそれぞれに段差が存在し、遺跡全体を見通した連続的な層位の把握に困難を強いられる地域も存在した。

基本層序は次のようにⅠ層からⅤ層を設定した。その際、根拠としたのは第４・５調査区東土層断面、５調査区西土層断面、第２調査区東土層断面及び第５調査区北ベルト断面である。

Ⅰａ層（黒土層～黒褐土層）
表土層、徳山村の廃村まで利用された水田の耕作土である。

Ⅰｂ層（黒褐土層）
水田に伴う敷土で、漏水を防ぐため平坦に張られた土。

Ⅱ層（黒褐土層～黒土層）
田面を広くするために盛られた造成土。

Ⅲ層（黒土層　小礫を含む）
調査区のほぼ全域に堆積する縄文時代の遺物包含層で、特に第４・５調査区に厚く堆積する。

Ⅳ層（黒褐土層　小礫を含む）
縄文時代の遺物包含層で、早期の土器を含む。

Ⅴ層（褐土層　円礫を含む）
段丘礫層若しくはその直上に堆積したと思われる土層。

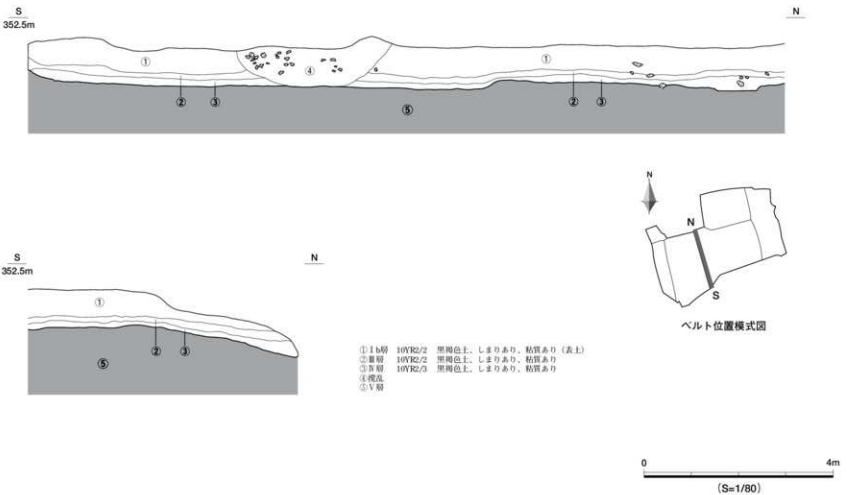


図14　橿原神向遺跡第5調査区北ベルト土層断面図

第２節　遺構・遺物の概要

遺構　遺構検出は、Ⅲ層掘削からⅣ層上面（第１調査面）、Ⅳ層掘削からⅤ層上面（第２調査面）の２回行った。ただし第２調査面は第２調査区の一部、第４・第５調査区の大部分、第６調査区の約半分のみの調査である。また検出した面が異なるということが遺構の時期差を表しているわけではない。

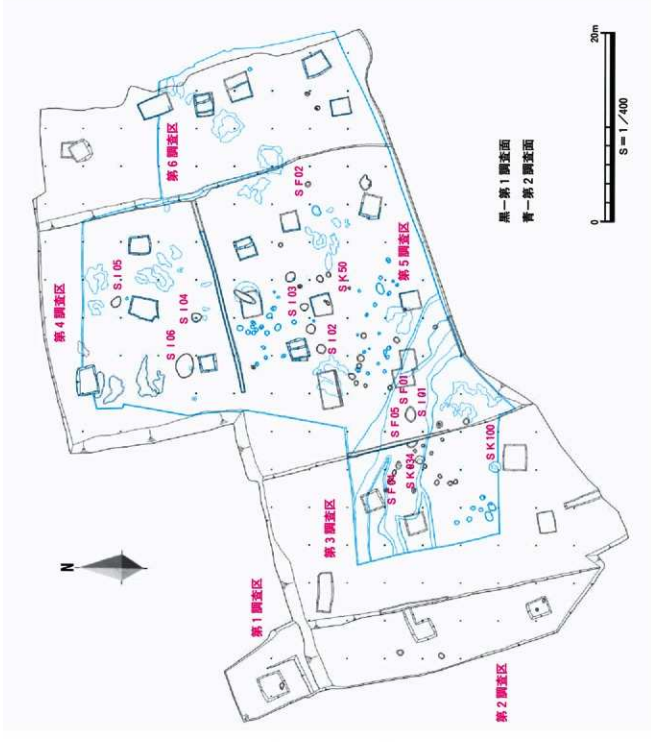


図15　槻原神向遺跡主要遺構配置図

確認した遺構は107基で、その内訳は次のとおりである。

焼土（SF）・・4基　　配石・集石遺構（SI）・・6基　　土坑（SK）・・97基

いずれも出土遺物が少ないことから、所属時期の判断は困難を極めるが、おおむね縄文時代に属する。

遺構は、第5調査区に最も多く、第3調査区では検出した遺構が第5調査区寄りにあることからみて、第5調査区が中心的な位置にあったことが分かる。なお第2調査面において、第3調査区から第5調査区にかけて東流する自然流路跡1条を検出した。

遺物　出土した遺物は、縄文土器145点、石器552点である。

縄文土器　早期、中期、後期に属すると判断されるものがある。早期が139点（接合後の破片数。以下同じ）、中期が2点、後期4点である。土器の時期・型式の判断や分類はいじま遺跡に準じる（第3章第2節参照）。早期は押型文土器様式が中心で、条痕文系土器様式はわずかである。中期は中期後半と思われる深鉢胴部の小片である（図化が困難であったため図示していない）。後期は縁帯文土器様式に属する。

石器　分類など、いじま遺跡に準じる（第3章第2節参照）。

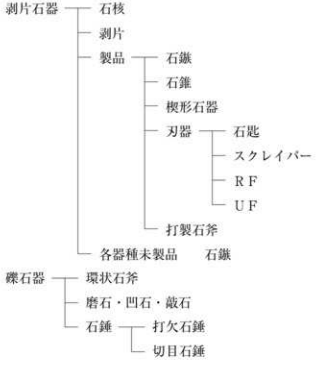


表4　槌原神向遺跡
出土石器各分類点数

遺構	遺物包含層	合計
1	33	34
4	290	294
0	11	11
0	5	5
0	15	15
0	1	1
1	51	52
0	38	38
0	35	35
0	21	21
0	4	4
0	1	1
1	37	38
1	0	1
0	2	2

環状石斧が特異である。徳山地区では、小の原遺跡に次いで2点目の出土である。全体的に見ると、いじま遺跡に比較して石器の器種は少ない。その中で、打製石斧の点数が多いことが特色としてあげられよう。一方、石錘が少ないことも特色の一つであろう。なお土器の大半が早期に属するが、石器は打製石斧のように中期以降に属すると判断されるものも含まれる。

石材については、表５に掲げたように、チャートが大半である。石に器種が少ないのと同様に石材の種類もいじま遺跡に比して少ない。またいじま遺跡と同様に石器の大きさと石材選択に関係があることが分かる。

表５　櫨原神向遺跡出土石器分類別石材一覧

	点数	チャート	安山岩	下呂石	石英	凝灰岩	泥岩	珪質泥岩	ホルンフェルス	砂岩	玄武岩	レキ岩
石核	34	33					1					
剥片	294	293	1									
石鏃（含未製品）	15	15										
石錐	5	5										
楔形石器	15	15										
石匙	1	1										
スクレイパー	52	50		1	1							
ＲＦ	38	38										
ＵＦ	35	35										
打製石斧	21		1			1	2	5	2	7	3	
環状石斧	1		1									
磨石類	38		15							22		1
打欠石錘	1									1		
切目石錘	2									2		
計	552	485	18	1	1	1	3	5	2	32	3	1
割合（%）		87.9	3.3	0.2	0.2	0.2	0.5	0.9	0.4	5.8	0.5	0.2

写真５　櫨原神向遺跡調査前風景

写真６　櫨原神向遺跡への
揖斐川にかかる仮設橋

第3節　遺構

主要遺構について述べる。なお遺構調査面は2面あるが、第2面の遺構は報告するものが少ないため、まとめてここで述べる。各遺構は、大半が縄文時代に属する可能性が高いが、とくに時期の判断がついた場合はそれを記す。

SF01（図版40）　検出中に焼土のような赤茶けた部分が確認されたため、焼土（SF）として調査を進めた。埋土は二層で、いずれにも炭化物は含まれていない。

SF02（図版40）　検出中に焼土が確認されたため、焼土（SF）として調査を進めた。埋土は二層で、焼土は検出面に薄く存在していたのみである。

SF04（図版40）　検出中に焼土のような赤茶けた部分が確認されたため、焼土（SF）として調査を進めた。埋土は一層で、炭化物は含まれていない。

SF05（図版40）　検出中に焼土のような赤茶けた部分が確認されたため、焼土（SF）として調査を進めた。埋土は一層で、炭化物は含まれていない。第3調査区と第5調査区の間の段差によって東側が破壊されている。

SI01（図版41）　土坑断面は浅い台形状で、埋土は一層である。焼礫が集まった状態であるが、いわゆる焼礫集積のようではない。石は角礫が多い。

SI02（図版41）　土坑断面は浅い台形状で、埋土は一層である。集積した石は焼礫であり、いわゆる焼礫集積と判断される。石は亜角礫が多い。埋土中からは炭化物はあまり出土していない。

SI03（図版41）　土坑断面は浅い台形状で、埋土は一層である。焼礫が土坑中央付近に集積されており、その脇に扁平な円礫が一つ置いてあるようにあった。SI02ほど明確ではないが、焼礫集積と思われる。石は亜角礫が多い。

SI04（図版41）　土坑断面は中央が盛り上がった浅い台形状で、埋土は一層である。長径約0.3mの扁平な礫が土坑の中央で確認できた。

出土遺物は、縄文土器（早期）が3点ある。早期に属する可能性があるがよくわからない。

SI05（図版42）　土坑断面は浅い台形状で、埋土は一層である。角礫が土坑内に入っている。

SI06（図版42）　土坑断面は皿状で、埋土は一層である。礫がまばらではあるが、多数出土した。

SK034（図版43）　断面形は縦長の逆台形で、埋土は一層である。深さ約0.9mの比較的深い土坑である。プランは明確にできなったが、第1調査区では自然流路跡と思われるものを検出した。土坑はその埋土中で検出した。

SK050（図版43）　断面形はやや角張った半円形で、埋土は一層である。

縄文時代後期縁帯文土器様式期の丸底鉢が出土したことから、その時期に属すると思われる。

SK100（図版44）　断面形は先端の平らな円錐形で、埋土は二層である。1層目と2層目の境で、長径約0.4mの扁平な円礫が横位にあるのを確認した。深さ約1mの比較的深い土坑である。

出土遺物はない。なお埋土中から鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）を検出した。その噴出年代はおよそ7300年前（暦年代較正値；町田・新井、2003）と推定されている（第5章第4節参照）。遺構もその時期に埋まったと理解しており、したがってSK100は縄文時代早期に属すると判断される。

第4節　遺物

土器

図示した遺物の選定などはいじま遺跡に準じている（第3章第5節参照）。以下の記述は、土器分類順に行う（図版45）。なお遺構から出土した土器で図示したものは1012のみである。

1001～1005は、山形の押型文を施す樋沢式に該当する深鉢口縁部片である。横位の押型文が、外面、面取りした口縁部端部、口縁部内面にそれぞれ施されている。1006・1007は、楕円の押型文を施す細久保式（新）に該当する深鉢胴部片である。1006は拓本では向かって右半分に押型文がないように見えるが、そこには炭化物が付着しているためで、押型文は全面にある。1007は土器の様子から土器の上下を決めたが、現在の横方向が縦となる可能性もある。拓本で押型文が出ていない範囲は、土器表面が荒れており押型文があるようにも見えるがよく分からない。1008・1009は高山寺式に該当する深鉢である。1008は、外面について押型文らしき凹凸があるがよく分からない。胴部片内面には、同型式に特徴的な幅広の沈線が施されている。1009は外面に撚糸文を施している。1010は爪型の刺突列とその間に凹線を施している。北白川下層Ⅱb式（古）に属する可能性もあるが、胎土にわずかに繊維痕が認められること、外面の凹線の様子や器壁が厚いことなどから疑問である。文様構成がいじま遺跡で出土した寒ノ神式（144）に似るので、それに該当する可能性もある。1011は柏畑式に該当する深鉢口縁部片である。胎土に繊維を含む。口縁部には突起を持ち、端部内外面の角に刺突が施されている。1012はSK050から出土した。後期縁帯文土器様式に属する丸底浅鉢である。外面に部分的に赤色顔料の付着が確認でき、赤色塗彩されていた可能性がある。

石器

石器の記述についてもいじま遺跡に準じる（第3章第5節参照）。

石鏃　石鏃に分類したものは7点、石鏃の未製品と判断したものは4点で、そのうち石鏃4点、未製品1点を図示した（図版46:1013～1017）。平基鏃2点、凹基鏃5点という内訳である。石材はすべてチャートである。

1013は脚部の一端を欠損している。1013・1014は脚部が長い。1015・1016は1013などに比較して全長は同じくらいであるが、脚部が短い。1017は未製品と判断できる。

石錐　石錐に分類したものは5点で、そのうち2点図示した（図版46:1019・1020）。石材はすべてチャートである。

1019の先端部は摩滅している。

楔形石器　楔形石器に分類したものは15点で、そのうち2点図示した（図版46:1018・1021）。石材はすべてチャートである。

1018は幅の狭い方に階段状剥離がみられる。

石匙　1点出土し、それを図示した（図版46:1022）。石材はチャートである。

1022は図面背面向かって左側の側片について、節理面において折れている可能性がある。

スクレイパー　52点出土し、そのうち5点図示した（図版46:1023～1027）。石材は下呂石1点、石英1点の他は、すべてチャートである。

1025は上部で一部欠損しているが、優美な縦長のスクレイパーである。

RF　38点出土し、そのうち2点図示した（図版46：1028・1029）。石材はすべてチャートである。

1029は1024に剥片の形が似るが、1024のように刃部が作り出されていない。

UF　35点出土し、そのうち2点図示した（図版47：1030・1031）。石材はすべてチャートである。

打製石斧　21点出土し、そのうち6点図示した（図版48・49：1036～1041）。石材は砂岩7点、珪質泥岩5点、玄武岩3点、泥岩2点、ホルンフェルス2点、安山岩1点、凝灰岩1点である。判明するもののほとんどは横長剥片を使っている。形態で見ると、短冊形4点、バチ形14点、分銅形1点、不明2点である。

1037は途中で折れているが、小型の打製石斧と判断した。1040は明確ではないが、左右辺にえぐりがあり、分銅形である。

石核　34点出土し、そのうち2点を図示した（図版47：1032・1033）。石材は1点泥岩の他は、すべてチャートである。

環状石斧　1点出土しそれを図示した（図版50：1046）。石材は安山岩である。ほぼ半分が欠けている。中央に穿孔をもち、穿孔の周囲2 cm 前後の幅で、丁寧な磨きが施されている。穿孔の断面形は、〉〈 である。刃部は打ち欠いて作り出しており、中央の磨き部分にまで欠けがおよんだ箇所がある。刃部の打ち欠きはすべてではないが、よく磨かれており、稜が丸くなっている。縄文早期前半に属すると考えられる。

磨石・凹石・敲石　38出土し、そのうち4点図示した（図版49・50：1042～1045）。石材は砂岩22点、安山岩15点、レキ岩1点である。

1043は磨石で約半分欠損している。

打欠石錘　1点出土しそれを図示した（図版47：1035）。1035はSF001から出土した。石材は砂岩である。

切目石錘　2点出土し、そのうち1点図示した（図版47：1034）。石材はいずれも砂岩である。1034は一端が欠けている。

第５章　自然科学分析

第１節　いじま遺跡のテフラ分析

今村美智子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

いじま遺跡は、藤橋村櫨原扇谷の段丘上に所在する縄文時代中期後葉～末の竪穴住居跡などからなる遺跡である。

ここでは、遺跡の堆積物を対象としてテフラの検出を試みた。

２．試料と方法

分析試料は、第１調査区から採取した６試料、第２調査区から採取した13試料の計19試料である（図18）。それぞれの試料を採取した層の上には、縄文中期後葉から末と見られる竪穴住居跡などが掘り込まれた層が存在する。

⑴鉱物組成分析

①各試料は自然含水状態で25～50ｇ程度秤量し、分析試料とした。また、別途２～５ｇ程度秤量し、恒温乾燥機で良く乾燥した後、乾燥重量を秤量し含水比を求めた。

②１ϕ（0.5㎜）、２ϕ（0.25㎜）、３ϕ（0.125㎜）、４ϕ（0.063㎜）のふるいを重ね、ふるいを行った。各ふるいの残渣について乾燥後秤量し粒度組成とした。また４ϕ以上の残渣の乾燥重量より含砂率を求めた。

③鉱物は石英（Qt）、長石（Pl）、火山ガラス（Gl）、かんらん石（Ol）、イディングサイト（In）、単斜輝石（Cpx）、斜方輝石（Opx）、角閃石（Hor）、磁鉄鉱（Mag）に分類し、風化粒子などの不明鉱物以外の鉱物が200以上になるまで分類・計数を行なった。なお火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に基づき、バブル型平板状（ｂ１）、バブル型Ｙ字状（ｂ２）、軽石型繊維状（ｐ１）、軽石型スポンジ状（ｐ２）、急冷破砕型（ｃ０：塊状・フレーク状）の５形態に分類し（図16）、鉱物中に占める割合を形態別に算出した。

⑵屈折率測定

ガラスの屈折率については横山ほか（1986）の方法に従って、温度変化型屈折率測定装置（RIMS86）を用いて屈折率（n）を測定し、その結果を範囲（range）で表した。

３．結果

⑴テフラの鉱物組成分析（表６、図19・20）

含水率は、第１調査区Ⅳｂ層試料１-１～６では73～97%となり、中ほどで高くなる。また、第２調査区Ⅴ層試料２-１～13において28～68%となり、下位ほど低くなる傾向がある。

含砂率は、第１調査区Ⅳｂ層ではいずれも40%以下の値を示す。また、第２調査区Ⅴ層上位の試料２-１～７では54～66%とやや低い値を示すものの、下位では70%以上と高い値を示す。

砂粒分の粒度組成は、いずれも１ϕ残渣がおよそ70%以上を占め、２～４ϕ残渣が非常に少ない組成となる。

鉱物組成は、第2調査区Ⅴ層の試料2-1～9において火山ガラスが比較的多く含まれており、20%以上を占める。しかし、第2調査区Ⅴ層下位と第1調査区Ⅳb層では火山ガラスはほとんど含まれず、長石類が91%以上を占める。重鉱物の割合は、いずれも4%以下と低い値を示す。

ガラスの形態分類はバブル型Y字状(b2)が多く10%以上の値となり、特に試料2-1では35%と高い値を示す。ついで軽石型スポンジ状(p2)が多く、10～25%となる。バブル型平板状(b1)は、試料2-1では15%と高い値を示すが、その他ではいずれも5%以下の含有量となる。試料2-6では、僅かではあるが色付の火山ガラスが観察できた。

(2)屈折率測定(表7、図17)

測定試料は、ガラスの含有率のピークが見られる、第2区Ⅴ層試料2-1と2-6のバブル型火山ガラスを用いた。試料2-1の屈折率は、範囲1.5005-1.5139、平均値1.5098を示し、試料2-6の屈折率は、範囲1.5057-1.5135、平均値1.5101を示す。

4．テフラの同定

第2調査区Ⅴ層試料2-1～9から検出されたガラスは、バブル型ガラスを主体としたテフラであった。また、これらガラスの屈折率測定結果は、範囲が1.505-1.514の範囲を示している。

ここで検出されたテフラは、ガラスの形態的特徴およびその屈折率範囲から、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)と同定される。

町田・新井(1978)によると鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)は主に薄い平板状の透明～淡褐色バブル型の火山ガラスで構成され、重鉱物は斜方輝石と単斜輝石により構成される。ここで検出された火山ガラスは、主にバブル型火山ガラスにより構成され、淡色を帯びるものが少量認められた。また、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)の従来値の範囲1.508-1.516(町田・新井、2003)と同様の値を示す。鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)の噴出年代は、およそ7300年前(暦年代較正値;町田・新井、2003)と推定されている。

今回分析をした第2調査区Ⅴ層の上層であるⅢ層とⅣ層では、縄文時代中期の遺構が確認されており、年代も対応している。なお、火山ガラスの含有率のピークが試料2-1と試料2-6の2箇所に見られるが、屈折率測定値がほぼ同じであることから同一テフラを起源とするものと考え、2試料の中では下位の試料2-6が降灰層準に近いと考えられる。

5．終わりに

いじま遺跡から採取した2地点19試料を分析した結果、第2調査区Ⅴ層中位(試料2-6前後)に火山ガラス含有率の高まりが見られ、これらは鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)を起源とする火山ガラスと同定された。なお、第1調査区Ⅳb層では、全体的にガラス含有率は低く、特定の層準においてガラスが多いといった状況は確認されなかった。

参考文献

町田洋・新井房夫(1978)南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰-．第四紀研究，17，143-163

町田洋・新井房夫(2003)新編　火山灰アトラス－日本列島とその周辺．財団法人東京大学出版会，336p．

町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ-．渡辺直径編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，865-928．

横山卓雄・檀原徹・山下透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定．第四紀研究，25，21-30

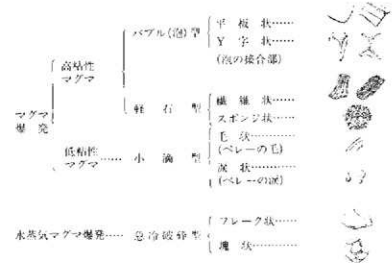


図16　火山ガラスの形態

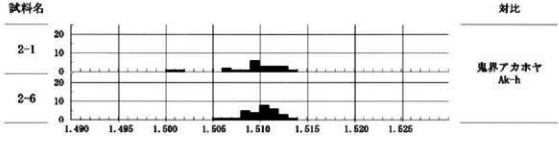


図17　いじま遺跡第2調査区火山ガラスの屈折率分布図

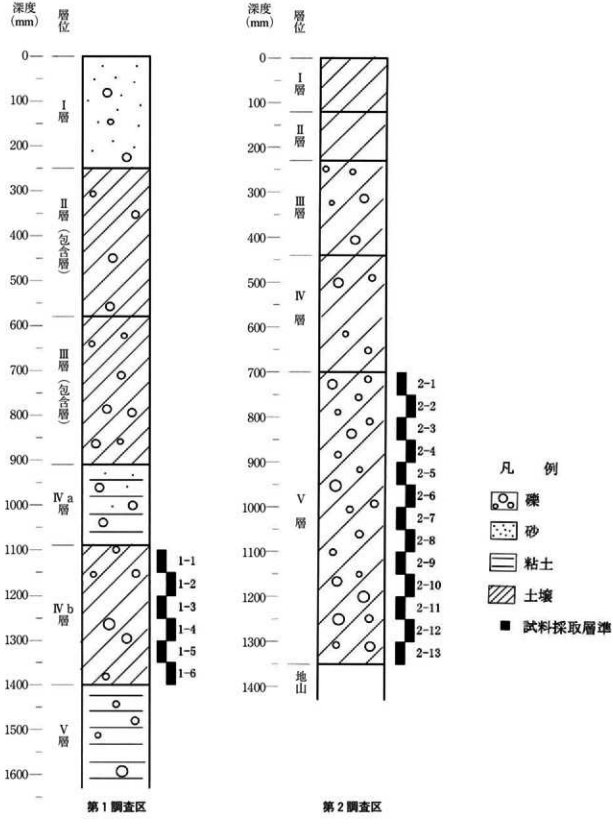


図18　地質柱状図と採取層準

表6　いじま遺跡堆積物中の鉱物組成

第1調査区

試料番号	含水率(重量%)	含砂率(重量%)	砂粒分の粒度組成(重量%) 1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物組成(粒数) 長石 Pl	火山ガラス Vg	火山ガラス形態分類(粒数) 平板状 b1	Y字状 b2	繊維状 p1	スポンジ状 p2	破砕型 c0	重鉱物組成(粒数) カンラン石 Ol	イディングサイト Id	単斜輝石 Cpx	斜方輝石 Opx	角閃石 Ho	磁鉄鉱 Mag
1-1	76.9	33.7	76.1	9.5	7.4	7.1	206	14	2	6	1	5	–	–	–	1	–	3	–
1-2	79.2	30.6	75.0	10.5	7.4	7.2	228	12	–	8	1	3	–	–	–	1	2	2	–
1-3	96.8	28.8	69.7	12.4	9.8	8.0	223	8	1	2	–	5	–	–	–	–	1	7	–
1-4	82.8	29.0	72.8	11.3	8.3	7.6	214	17	1	11	–	5	–	–	–	–	–	4	–
1-5	79.3	39.3	82.1	7.4	5.9	4.6	223	10	–	4	–	6	–	–	–	–	–	4	–
1-6	73.3	29.7	73.8	10.7	8.0	7.4	261	12	1	8	–	3	–	–	–	–	–	3	–

第2調査区

試料番号	含水率(重量%)	含砂率(重量%)	砂粒分の粒度組成(重量%) 1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物組成(粒数) 長石 Pl	火山ガラス Vg	火山ガラス形態分類(粒数) 平板状 b1	Y字状 b2	繊維状 p1	スポンジ状 p2	破砕型 c0	重鉱物組成(粒数) カンラン石 Ol	イディングサイト Id	単斜輝石 Cpx	斜方輝石 Opx	角閃石 Ho	磁鉄鉱 Mag
2-1	57.1	66.3	78.0	9.7	8.2	4.2	69	143	33	76	12	22	–	–	–	1	–	2	–
2-2	59.9	62.5	75.9	10.8	8.3	5.2	183	48	7	33	1	7	–	–	–	–	–	1	–
2-3	53.4	58.9	76.0	10.1	7.7	6.2	124	99	10	57	2	30	–	–	–	2	3	–	–
2-4	58.8	54.4	72.3	11.6	9.1	7.0	133	89	3	50	1	35	–	–	–	1	2	–	1
2-5	67.0	56.3	71.3	12.0	9.0	7.8	127	109	6	60	4	39	–	–	–	–	1	–	–
2-6	68.0	54.1	69.4	12.3	9.6	8.7	106	151	5	74	8	64	–	–	–	1	1	1	–
2-7	54.9	60.5	77.0	9.8	7.2	6.0	166	69	–	32	2	35	–	–	–	1	–	1	–
2-8	47.1	72.4	82.0	7.7	6.1	4.2	134	83	7	44	1	31	–	–	–	1	–	–	–
2-9	48.7	77.5	83.2	7.1	5.4	4.2	159	51	3	28	2	18	–	–	–	2	1	–	–
2-10	46.0	78.7	82.6	7.7	5.7	3.9	229	7	–	4	–	3	–	–	–	2	1	–	–
2-11	41.8	85.2	83.4	6.7	5.9	4.1	224	6	1	2	–	3	–	–	–	2	2	–	–
2-12	41.0	94.2	85.9	5.4	4.9	3.8	244	3	–	2	–	1	–	–	–	1	1	–	–
2-13	28.1	77.5	77.7	8.1	8.0	6.2	227	2	–	1	–	–	1	–	–	2	–	–	–

表7　いじま遺跡火山ガラスの屈折率測定結果

試料名	測定対象	範囲(range)	平均(mean)
2-1	バブル型Y字状(b2)	1.5005 – 1.5139	1.5098
2-6	バブル型Y字状(b2)	1.5090 – 1.5119	1.5103

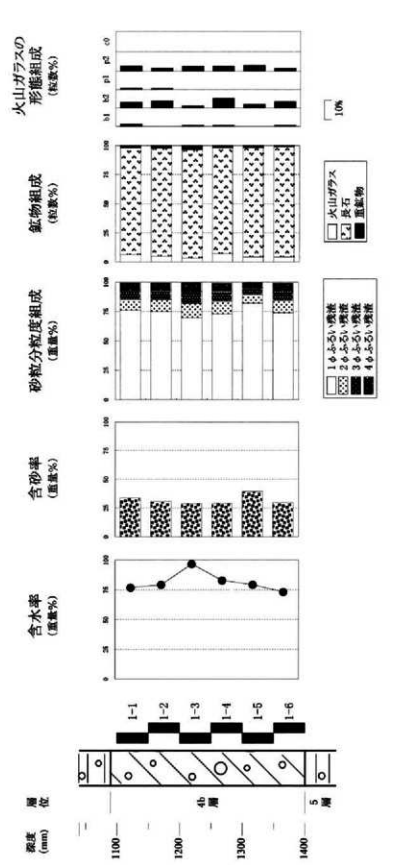


図19　いじま遺跡第1調査区堆積物の鉱物組成

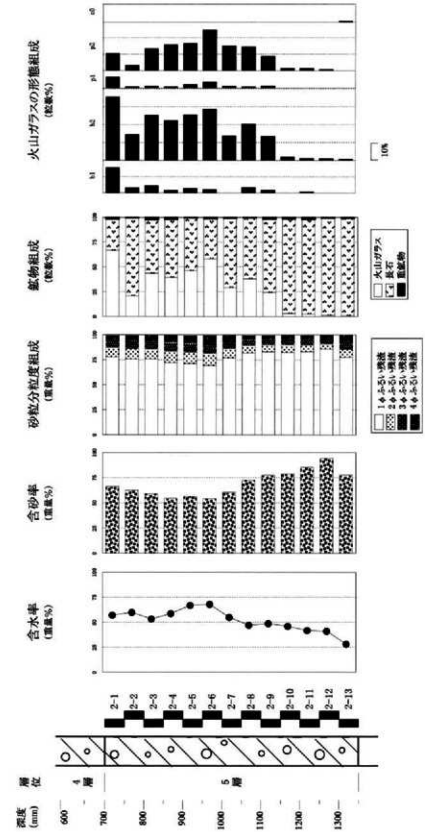


図20　いじま遺跡第2調査区堆積物の鉱物組成

第2節　いじま遺跡の放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

1．はじめに

いじま遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

2．試料と方法

試料は、SI004、採り上げNo.B1873より採取した炭化物1点、SF006②採り上げNo.B2941より採取した炭化物1点の併せて2点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定した^{13}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。

3．結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正値（基準値-25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C年代値（yrBP）の算出は、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}C年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下のとおりである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、^{14}C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と^{14}C年代の比較、及び海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて^{14}C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB　4.3（CALIB　3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正値は^{14}C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

4．考察

各試料は、同位体分別効果の補正及び暦年代較正を行った。暦年代較正した1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

参考文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代、p.3 - 20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.（1993）Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p. 215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M.（1998）INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration,24,000- 0 cal BP, Radiocarbon, 40, p. 1041-1083.

表８　いじま遺跡放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号（測定法）	試料データ	δ^{13}C（‰）	^{14}C年代（yrBP ± 1 σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	1σ暦年代範囲
PLD－2615（AMS）	炭化物 SI004（20-30） B1873	－25.5	7,890±50	cal BC 6,690	cal BC 6,820 － 6,650（91.5%）
PLD－2616（AMS）	炭化物 SF006②（5 -10） B2941	－26.0	4,190±40	cal BC 2,875 cal BC 2,800 cal BC 2,785	cal BC 2,880 － 2,855（19.5%） cal BC 2,815 － 2,740（59.2%） cal BC 2,725 － 2,695（21.2%）

第３節　檜原神向遺跡の放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

１．はじめに

檜原神向遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

２．試料と方法

試料は、H14, SK100（100 - 110），B116より採取した炭化物１点、J5, SI06（0 -10），B0093より採取した炭化物１点、K9, SI02（20-30），B0081より採取した炭化物１点の併せて３点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定した^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。

３．結果

表１に、各試料の同位体分別効果の補正値（基準値-25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C年代値（yrBP）の算出は、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（± 1 σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}C年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であること

を意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、48頁のとおりである。

4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正及び暦年代較正を行った。暦年代較正した1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

参考文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代、p.3-20.

Stuiver, M.and Reimer, P. J.（1993）Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p. 215-230.

Stuiver, M.,Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M.（1998） INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration,24,000- 0 cal BP, Radiocarbon, 40, p. 1041-1083.

表9　櫨原神向遺跡放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号（測定法）	試料データ	δ ^{13}C（‰）	^{14}C年代（yrBP ± 1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	1σ暦年代範囲
PLD－2617（AMS）	炭化物 H14 SK100（100~110）B116	－23.6	3,410±40	cal BC 1,735 cal BC 1,720 cal BC 1,690	cal BC 1,745 － 1,680（78.6%） cal BC 1,670 － 1,660（10.0%） cal BC 1,650 － 1,635（11.4%）
PLD－2618（AMS）	炭化物 J 5 SI06（0 ~10）B0093	－24.1	7,880±50	cal BC 6,690	cal BC 6,825 － 6,645（91.0%）
PLD－2619（AMS）	炭化物 K 9 SI02（20~30）B0081	－24.8	7,405±50	cal BC 6,235	cal BC 6,380 － 6,310（50. 9%） cal BC 6,265 － 6,220（40.9%）

第４節　櫨原神向遺跡の土坑内の内容物

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

櫨原神向遺跡の調査では、用途不明の土坑 SK100が検出された。ここでは、この土坑埋土の堆積物を調べて用途に関する状況証拠を得るために洗出しを行い、堆積物の特徴について記載した。

２．試料と方法

試料は、土坑 SK100内の埋土１と埋土２である（表10）。試料は、以下に示す方法で処理した。

試料は、自然含水状態でそれぞれ約56ｇ及び約34ｇ程度秤量し、トールビーカーに入れて超音波洗浄を行い十分分散した後、フルイ１φ（0.5㎜）、２φ（0.25㎜）、３φ（0.125㎜）、４φ（0.063㎜）のフルイを重ね、湿式ふるいを行った。これら各フルイ残渣は、乾燥後秤量した。

また、細粒部分の特徴を観察するために、これとは別に数ｇをトールビーカーに入れて超音波洗浄を行い十分分散した後、沈降法によりコロイド分を除去し、顕微鏡観察用のプレパラートを作成した。

３．結果及び考察

各フルイ残渣は、埋土１は、１φ残渣が2.34ｇ、２φ残渣が1.14ｇ、３φ残渣が1．40ｇ、４φ残渣が0.79ｇ、４φ以上の砂分の占める割合は10.03%であった。また、埋土２は、１φ残渣が4.53ｇ、２φ残渣が0.97ｇ、３φ残渣が1.11ｇ、４φ残渣が0.65ｇ、４φ以上の砂分の占める割合は21.07%であった。このように、埋土２が砂分の占める割合が高く、１φ残渣が多い（表10）。

１φ残渣の粗粒部分の観察では、炭化材片が含まれるが、炭化種実は含まれていなかった。また、いずれも礫種は同様であり、砂岩類が多く、チャートや深成岩類などを含んでいた。なお、石材を破壊する際に形成される微細剥片は含まれていなかった。

細粒部分の観察では、埋土１において炭化材片がやや多く含まれていた。また、イネ科植物のササ類と思われる機動細胞珪酸体が若干見られた（保存状態が悪い）。

なお、鬼界アカホヤ火山灰と思われる火山ガラス（バブル型火山ガラス：図版№５および№６）が埋土１においてやや多く含まれていた。また、埋土２においても検出された。

町田・新井（1978）によると鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）は主に薄い平板状の透明～淡褐色バブル型の火山ガラスで構成され、重鉱物は斜方輝石と単斜輝石により構成される。ここで検出された火山ガラスは、主にバブル型火山ガラスにより構成され、淡色を帯びるものが少量認められた。鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）の噴出年代は、およそ7300年前（暦年代較正値；町田・新井、2003）と推定されている。

このように、炭化材片がやや多く含まれるものの、炭化種子や微細剥片などは含まれていなかった。

なお、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）と考えられるテフラが含まれていたことから、これらの土坑はこのテフラ降灰に近い時期に形成されたことが推測される。

参考文献

町田洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰-．第四紀研究，17,143-163

町田洋・新井房夫（2003）新編　火山灰アトラス-日本列島とその周辺．財団法人東京大学出版会，336p.

表10　權原神向遺跡土坑 SK100の埋土中の内容物観察結果

試料	色相 明度／彩度	色	処理重量（g）	フルイ残渣（上段 g、下段%）				含砂率（上段 g、下段%）	特徴		その他の特徴
				1φ	2φ	3φ	4φ		粗粒部分	細粒部分	
埋土1	10YR 2／1	黒色	56.53	2.34	1.14	1.40	0.79	5.67	炭化材片やや多く含む砂岩〉チャート〉深成岩類	砕屑物起源主体 植物珪酸体少量	喜界アカホヤ火山灰含む
				4.14	2.02	2.48	1.40	10.03			
埋土2	7.5YR 3／1	黒褐色	34.46	4.53	0.97	1.11	0.65	7.26	炭化材片含む砂岩〉チャート〉深成岩類	砕屑物起源主体 植物珪酸体少量	喜界アカホヤ火山灰少量含む
				8.01	1.72	1.96	1.15	21.07			

第6章　まとめ

第1節　いじま遺跡

1調査成果

基本層序　第1調査区はⅠ～Ⅵ層に分かれ、Ⅰ層が廃村までの畑作の耕作土、Ⅱ・Ⅲ層とⅤ層が縄文時代の遺物包含層で、中間にⅣ層の崩積性堆積層があり、Ⅵ層が段丘礫層である。各層は調査区内にまんべんなくあるわけでなく、層によって偏って存在する。第2調査区は、Ⅰ～Ⅵ層に分かれ、Ⅰ・Ⅱ層が廃村まで利用されていた栗林に由来する層、Ⅲ層が無遺物層であるが鬼界アカホヤ火山灰が確認できた層、Ⅳ層が縄文時代の遺物包含層、Ⅴ層が無遺物層、Ⅵ層が段丘礫層である。第1調査区の基本層序と第2調査区のそれとの相関関係は明らかでない。遺構検出面は第1調査区がⅢ層上面とⅤ層上面、第2調査区がⅢ層上面とⅤ層上面である。

遺構　竪穴住居跡（SB）6軒、炉跡（SF）5基、配石・集積遺構（SI）6基、土坑（SK）184基、立石遺構（SR）7基、ピット（SP）60基を確認した。このうち、炉跡3基、ピットすべては竪穴住居に伴うものである。遺構のほとんどは第1調査区（上段の調査区）にある。遺構検出面は2面であり、上下どちらの面で検出したかということが、おおむね遺構の新古関係を表す。ただしⅢ・Ⅳ層の堆積状況から上面の遺構を下面で検出していた可能性もある。また各遺構の所属時期は、出土する土器に中期後半のものがほとんどの場合で混じることから、多くはその時期に属すると考えられ、大きな時期差を確認することはできない。その中で第2調査区では鬼界アカホヤ火山灰の検出されたⅢ層下から検出されたSI1001のように、検出状況から早期と考えられるものがある。また後述のSB001などのように中期後半でも中期末葉に属すると、明確に時期を示すことができるものも多くはないがある。

竪穴住居跡のうち、SB001、SB004、SB005については石囲い炉の土器から中期末葉に属することが明確である。SB002・SB003・SB006についても埋土に中期末葉の土器が入ることから同様の時期のものであろう。6軒の竪穴住居跡の平面形は不明確なSB003をのぞき、SB001・SB002・SB006が円形、SB004・SB005は隅丸方形である。床面積を比較するとおおむね7～9㎡であるが、SB004は19.8㎡と頭抜けて大きい。竪穴内部の炉に付いて見てみると、SB001、SB004、SB005は石囲い炉をもつが、SB002・SB003・SB006には確認できず、そこに大きな差違を認めることができる。その差違は、主柱穴のあり方からも補完できると思われる。すなわち後者では、SB002が二本柱、SB003・SB006が不明瞭というように、主柱穴の判断が明確にできた前者とは違った様相が指摘できる。石囲い炉の有無という差違は、詳細は不明であるが、竪穴住居の時期あるいは性格が違っていることを示す可能性があるのではないだろうか。

徳山地区の遺跡についてこれまでの調査成果によると、戸入村平遺跡、山手宮前遺跡、上原遺跡第2地点において中期後半に半円形若しくは馬蹄形に遺構が見られるということが指摘されている。当該期に属するいじま遺跡についてもその可能性が考慮された。一見竪穴住居跡は川側に外を向けた半円形に配置されたているように見えるが、その他の遺構を見るととくにそのような傾向は見受けられない。むしろSB001を中心とした遺跡北側の遺構群と、その他の竪穴住居跡を中心とした遺構群の2

群に分かれて見える。また上記の遺跡は、その時期の中心的な集落であり、かつ大きな面積を有する。いじま遺跡は遺跡の規模から見てもそのような計画的な配置によって居住域が形成されたとは考えがたいのではないだろうか。

土器　出土した土器は接合後の破片数で8,894点である。内訳は、早期が452点で約５％、前期が５点で約0.06％、中期が8,437点で約95％である。以下、時期別に概観を記す。

早期は前半の押型文土器と後半の条痕文系土器が確認できた。押型文土器は、樋沢式、細久保式新、穂谷式が判別できた。量的にはいずれも少ないが、穂谷式はややまとまってみられる。後半の土器は塞ノ神式、鵜ヶ島台式、茅山式、宮ノ下式、そして型式名未詳の土器がある。塞ノ神式は、現在確認されている中では最も東端の出土例になると矢野健一氏に御教示いただいた。型式名未詳の土器は109で、縄文を地文とし、波状口縁に沿って複数段の刺突列を施すものである。早期末に属すると思われる。早期全体で見ると末葉の土器が比較的まとまって存在するといえる。

前期は北白川下層Ⅲ式～大歳山式に該当するもの、それと同時期の諸磯式に似たものが出土した。わずかな出土数であり、また小破片のため詳細はよく分からず、全体像も不明である。

中期は出土点数が多いことから、後葉（おおむね咲畑・醍醐式土器の第１様式に当てた）の船元Ⅳ式・里木Ⅱ式に該当するもの（Ｃ１群）、咲畑式に該当するもの（Ｃ２群）、後葉～末葉にかけての神明式に該当するもの（Ｃ３群）、末葉（おおむね咲畑・醍醐式土器の第２・第３様式に当てた）に属するもの（Ｃ４群）、後葉～末葉で縄文・撚り糸文のみ施文したものや無文のもの（Ｃ５群）、Ｃ１～Ｃ４群以外の型式もしくは型式不明のもの（Ｃ６群）に分類した。各群の割合は図21のとおりである。さらその中でＣ１～Ｃ４群の割合を図化したものが図22で、中期末葉のものが約79％を占めていることがわかる。言い換えるならば、中期後半でも末葉の土器が中心に出土した遺跡であるといえる。

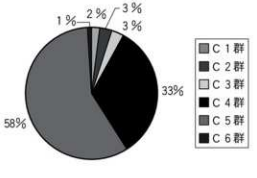


図21　いじま遺跡中期土器群別割合(1)

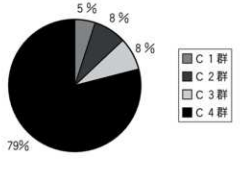


図22　いじま遺跡中期土器群別割合(2)

石器　出土した石器は1,542点で、そのうち２点が旧石器時代、以外が縄文時代に属すると判断される。旧石器時代に属すると考えられる石器は、台形石器と尖頭器である。なお、いずれも二次堆積層の中からの検出であり、旧石器に属するという評価は石器の観察結果からの判断である。台形石器については長屋幸二氏から「東海における旧石器編年の第１期（西村1999）に位置づけられる」との御指導をいただいた。また尖頭器については徳山地区で出土している縄文時代の石槍や有茎尖頭器と比較して、大きさや形態、調整方法などの違いからから旧石器時代に属すると判断した。石材はいず

れもチャートである。

縄文時代の石器のうち、石核や剥離痕を有しない剥片を除いた、いわゆる定型石器は794点で約52%になる。定型石器は石鏃以下17種類に分類した。さて、いじま遺跡の石器のあり方をみるために注目したのは石器の組成である。石器は器種ごとに想定される機能で最も可能性が高いと思われるものに分けた。この分類とその内容については、異論もあり、また大雑把にすぎると思われるであろう。しかし、微細な事柄までを含めた分類にすると全体が掴みにくくなると判断し、ここでは一般的な石器の機能をもとに行った*1。また回収された石器が遺跡に存在した石器のすべてであるかどうかは不明であること、石器の使用法や廃棄法に基づくのか分からないが石器によって遺跡に残されていた理由が違うと考えられるがそれを等閑視していること、各々の石器の所属する時期が明らかでないこと、など重要ではあるが解決できない問題をはらんでいる。以上のような弱点のあることを前提として、以下を記す。

分類の第1は狩猟具で、これには石鏃がある。第2は漁労具で、これには石錘があり、打欠石錘と切目石錘に分けられる（なお切目石錘の出現の上限については『上原遺跡Ⅱ』に述べられている）。第3は採集具で、打製石斧である*2。第1～第3までは資源から直接食料を調達するための道具と見ることもできよう。第4は調理具Aで、これには磨石類・石皿がある。第5は調理具Bで、これには刃器（石匙・スクレイパー・ヘラ形石器・RF・UF）である。調理具A・Bは、調達した食料の加工具と見ることもできる。第6は工具で、石錐・楔形石器・磨製石斧・砥石がある。第7はその他で、異形石器・石棒などである。

表11　いじま遺跡出土定型石器用途機能別分類および点数一覧

	狩猟具		漁労具		採集具		調理具A		調理具B		工具		その他		合計
合計	80		113		14		33		458		49		2		749
割合	10.7		15.1		1.9		4.4		61.1		6.5		0.3		
	石鏃	80	石錘	113	打製石斧	14	磨石類	31	石匙	8	石錐	19	異形石器	1	
			打欠石錘	18			石皿	2	スクレイパー	134	楔形石器	24	石棒	1	
			切目石錘	95					ヘラ形石器	12	磨製石斧	5	環状石斧	0	
									RF	158	砥石	1			
									UF	146					

図23のグラフに明らかなように、上記分類におけるいじま遺跡の組成を見てみると次のような特色を指摘することができるのはないだろうか。第1に調理具B（刃器）が最も多い。第2に食料調達のための石器のうち、採集具が少ない。図24は発掘調査報告書を刊行している徳山地区の主な縄文遺跡について、上記分類の割合をグラフ化し、定型石器の量の多い順に配置したものである。これで見るといじま遺跡のグラフは、調理具B（刃

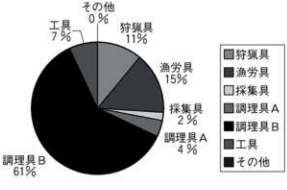


図23　いじま遺跡出土定型石器用途機能別割合

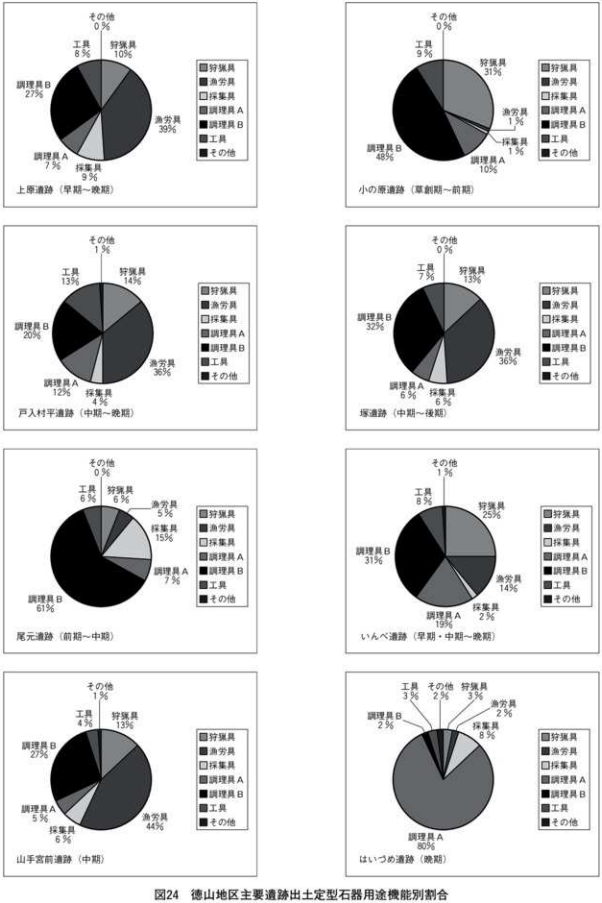


図24　徳山地区主要遺跡出土定型石器用途機能別割合

器）が突出して目立ち、小の原遺跡・尾元遺跡・檀原神向遺跡とよく似ているが、食料調達に関わる3種の分類の多寡を見てみると違いがあることが分かる。また中期の拠点的集落とされる上原遺跡や戸入村平遺跡と比較してもその違いは明瞭である。この相違は遺跡の位置や規模などに関わる可能性が想像されるが、上記した弱点による制約によってよく分からない。

2いじま遺跡の変遷　遺構・遺物から時期ごとのいじま遺跡の姿を簡単にまとめたい。

旧石器時代　わずか2点の石器を遺物包含層から採集したのみであり、具体的なことは未詳である。

縄文時代早期　遺構はSI001をはじめとして存在すると思われるが、決め手を欠くことからどのくらいの数があり、どのように遺跡内に分布するか明確にできてはいない。土器は、わずかであるが前半の樋沢式からあり、高山寺式を確認していないが、押型文土器末期の穂谷式がややまとまってみられる。後半の条痕系土器の時期になると、塞ノ神式や鵜ヶ島台式、茅山式宮ノ下式などが見られる。また型式名はないが縄文地に刺突列で文様を描く土器がある。量的には早期末のものがややまとまってみられる。これらのことから、具体的な姿は未詳であるが、断続的にこの場所に人が訪れていた様子がうかがえる。

縄文時代前期　前期末の北白川下層Ⅲ式～大歳山式と判断できるわずかの土器が出土したのみであり、具体的な姿は未詳である。

縄文時代中期　前半は皆無であるが、後葉になると多くの土器が確認できる。まず後葉には船元・里木式第5様式、咲畑・醍醐式第1様式に該当する土器がまとまってみられる。また徳山地区で比較的目立つ、神明式に該当する一群も一定量見られる。しかし、遺構についてはこの時期に明確に属するものを残念ながらあげられない。

次に末葉であるが、この時期に属する遺構・遺物は最も多く、いじま遺跡の最盛期である。竪穴住居跡や配石遺構、立石遺構が確認できた。配石遺構や立石遺構は調査結果からだけではその性格を特定することはできなかったが、一般的な理解から墓的なものも含まれていたと考えられる。従って、中期末葉にはこの地で居住と埋葬が行われていたことが想定できる。

しかし、一転して後期以降は遺構・遺物が残されておらず、早期以来断続的に利用されてきたこの場所から人の営みの痕跡が認められない。なおいつ頃からかは不明であるが、現代の廃村直前までは畑地及び栗林であった。

第2節　櫨原神向遺跡

1調査成果

基本層序　Ⅰ～Ⅴ層に分かれ、Ⅰ・Ⅱ層は廃村直前までの水田の耕作土とそれを造成するために盛られた土、Ⅲ・Ⅳ層は縄文時代の遺物包含層、Ⅴ層は段丘礫層若しくはその直上に堆積した土である。縄文時代の遺物包含層およびⅤ層は、場所によって開田時に削平されており、全体的に見ると遺跡の残存状況は決して良好といえる状態ではなかった。遺構検出面は、Ⅳ層上面とⅤ層上面である。ただし遺構はⅣ層の残存状況やⅣ層上面での遺構検出の困難さから、実際の検出面と本来の検出面が同じであるとは限らない。

遺構　焼土（SF）4基、配石・集石遺構（SI）6基、土坑（SK）97基の合計107基の遺構を確認した。遺構の時期については、検出状況や遺物を伴わないものが大半であることから判然としない。おおむね縄文時代に属すると思われ、出土土器から早期若しくは中・後期に属すると考えられる。特徴的な遺構を簡単に見ると、多くの遺構が性格など不明である中で、SI02は焼礫を浅い土坑内に集積したいわゆる焼礫集積遺構で、集石炉と解釈される。土器が伴っていないため詳細な時期は不明であるが、徳山地区でみつかった同様の遺構の時期と、本遺跡の出土土器の時期から早期に属すると判断される。また埋土中から鬼界アカホヤ火山灰（およそ7,300年前）を検出したSK100は、深さ1ｍの土坑で性格は分からないが、早期のものと判断できる。SK050は、後期前半の縁帯文系土器の丸底浅鉢が埋土中から出土した円形土坑である。

土器　接合後の破片数で145点出土した。型式学的に見て、そのうち2点が中期、4点が後期に属する他は139点が縄文早期のものである。中期とした土器は、可能性は高いと思われるが、残存状況が悪くよく分からない。後期は先述したSK050出土のものである。早期については、型式名でいうと早期前半押型文土器の樋沢式→細久保式新→高山寺式と連続してあり、早期後半条痕文系土器の粕畑式が見られる。樋沢式と思われるものが多く、それ以外は数点止まりである。

石器　522点出土した。このうち定型石器は220点で約42%である。これをいじま遺跡の例にならって分類すると下のようになる。

表12　櫨原神向遺跡出土定型石器用途機能別分類および点数一覧

	狩猟具		漁労具		採集具		調理具A		調理具B		工具		その他		合計
合計	11		3		21		38		126		20		1		220
割合	5.0		1.4		9.5		17.3		57.3		9.1		0.5		
	石鏃	11	石錘	3	打製石斧	21	磨石類	38	石匙	1	石錐	5	異形石器	0	
			打欠石錘	1			石皿	0	スクレイパー	52	楔形石器	15	石棒	0	
			切目石錘	2					ヘラ形石器	0	磨製石斧	0	環状石斧	1	
									RF	38	凹石	0			
									UF	35					

調理具Bが過半を占める点はいじま遺跡に似るが、狩猟具・漁労具が少なく、代わって採集具や調理具Aが目立つ。打製石斧は中期以降のものであり、遺構や土器から見た遺跡の中心的な時期とはズレが見られる。この場所は、早期には人の生活の場であったが、中期以降は採集の場となったと見る

ことができるのであろう。

2槌原神向遺跡の変遷　遺構・遺物から槌原神向遺跡の時期ごとの姿を簡単にまとめたい。

縄文時代早期　前半の押型文土器のうち、樋沢式から高山寺式まで連続して土器が確認できる。ただし細久保式新と高山寺式はわずかである。後半は粕畑式がわずかに見られる程度である。早期の遺構としては焼礫集石遺構や土坑がある。なお検出した遺構のほとんどは遺物を伴っておらず、所属時期を明確にしがたい。

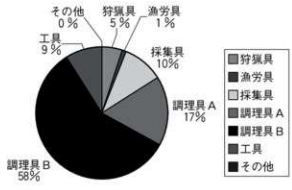


図25　槌原神向遺跡出土定型石器用途機能別割合

縄文時代中期　中期と思われる土器片があるが、小片であり他時期の可能性もある。

縄文時代後期　縁帯文土器が出土した土坑SK50があるのみである。石器のうち打製石斧は中期後半以降、この時期に属するものであろう。おそらく先述したように生活の場ではなく採集の場であったのであろう。

その後、近代に至って開田されるまでの状態はよく分からない。

3環状石斧について　槌原神向遺跡からは徳山地区では2例目となる環状石斧（1046）が出土した。包含層からの出土であるが、同じく包含層から出土した土器のうち、早期前半の押型文土器（細久保式新～高山寺式）に伴うと考えられる[*3]。徳山地区出土のもう一例は、小の原遺跡から出土している（図26[*4]）。小の原例は直径12.0cm、厚さ3.4cmで、約半分程欠損している。石材は砂岩である。穿孔の周囲はよく磨かれており、刃部は打ち欠いて作り出されている。刃部については1046と同様に磨かれ稜が不明瞭になった部分がある。

1046と小の原例を比較すると、1046が直径13.9cmとやや大きいが、穿孔部・刃部の状態などよく似ている。小の原報告書では特に所属時期については記されていないが、同遺跡出土土器は草創期～前期がほとんどであり、石器も多くがその時期に属すると考えられている。1046に似ることから、小の原例についても、早期前半の押型文期に所属する可能性が高いと考えられる[*5]。

環状石斧は、その機能がよく分からない石器の一つである。中央の孔に棒を差し込んで斧として使用したという考え方もあるが、〈状となる断面からそれには従いがたい。現代の感覚から見ると、あまり実用的なものに見えないことから、儀器のようなものであろうかと思うがよく分からない。

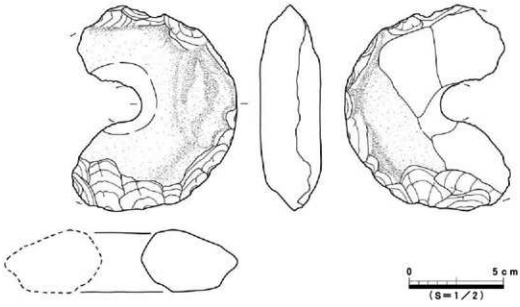


図26　小の原遺跡出土環状石斧

*1 『上原遺跡Ⅱ』においても機能面からの組成の分析が行われている。しかし今回行った調理具B以下については対象となっていない。

*2 土掘具と解釈し、根菜類に採集に使用したとした。ただしそれ以外の機能を否定するものではないが、代表的な機能としてそれを考えた。

*3 矢野健一氏の御教示による。

*4 今回、比較のため、櫨原神向遺跡出土例の観察方法により、再度実測図を作製し、また写真を掲載した。

*5 矢野健一氏より、小の原遺跡の土器のあり方から、穂谷式に伴うものと見てよいのではないかと、御教示をいただいた。

参考・引用文献

網谷克彦　1989「北白川下層式土器様式」『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
泉拓良　1988「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観３　中期Ⅱ』小学館
1988「咲畑・醍醐式土器様式」『縄文土器大観３　中期Ⅱ』小学館
1989「縁帯文土器様式」『縄文土器大観４　後期　晩期　続縄文』小学館
岐阜県教育委員会　1989『はいづめ遺跡』
岐阜県教育委員会　1991『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』
（徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第２集）
可児通宏　1989「押型文系土器様式」『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
京都大学文学部博物館　1991『先史時代の北白川』
日下部善己　1995「環状石斧」『縄文文化の研究７　道具と技術』雄山閣出版株式会社
小林行雄　1964『古代の技術』
㈶岐阜県文化財保護センター　1994『戸入村平遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第11集）
㈶岐阜県文化財保護センター　1999『上開田村平遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第25集）
㈶岐阜県文化財保護センター　1998『塚遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第27集）
㈶岐阜県文化財保護センター　1997『山手宮前遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第28集）
㈶岐阜県文化財保護センター　2001『寺屋敷遺跡・磯谷口遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第35集）
㈶岐阜県文化財保護センター　1998『上原遺跡Ⅰ』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第36集）
㈶岐阜県文化財保護センター　2000『上原遺跡Ⅱ』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第54集）
㈶岐阜県文化財保護センター　2000『いんべ遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第55集）
㈶岐阜県文化財保護センター　2000『戸入村平遺跡Ⅱ』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第64集）
㈶岐阜県文化財保護センター　2003『深橋前遺跡』
（岐阜県文化財保護センター調査報告書第79集）
㈶岐阜県教育文化財団文化財保護センター　2003『尾元遺跡』
（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第82集）
佐原真　1981「特論　－　縄文施文方入門」『縄文土器大成　第３巻　後期』講談社
鈴木道之助　1991『図録　石器入門辞典　－縄文－』柏書房

谷口康浩　1989「条痕文系土器様式」『縄文土器大観1　草創期　早期　前期』小学館
徳山村教育委員会　1986『大昔の徳山村　縄文人の息吹きを追って』
徳山村の歴史を語る会　1984『徳山村のあけぼのを求めて』
西村勝弘　2000「濃尾平野北部における旧石器時代の石器編年　－調査・研修の到達点－」『岐阜史学』岐阜史学会
水資源開発公団徳山ダム建設所　1987『美濃徳山の地名』
宮下健司　1989「東海条痕文系土器様式」『縄文土器大観1　草創期　早期　前期』小学館

表

【いじま遺跡】

表13　いじま遺跡竪穴住居跡一覧

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模（m）					床面積（㎡）	主軸方位	埋土出土遺物（　）内は点数	備考（切り合い関係など）
					上面		下面		深さ				
					長軸	短軸	長軸	短軸					
SB001	1区	F3	Ⅲ層上面	円形	4.32	4.1	(3.36)	(3.16)	0.53	(8.3)	N98°E	土器：早期(1)、C1(1)、C4(17)、C5(18)、その他(3)。石器：剥片(1)	
SB002	1区	C6	Ⅲ層上面	円形	3.55	3.13	(3.22)	(2.85)	0.27	(7.2)	N110°E	土器：早期(56)、C1(4)、C3(3)、C4(8)、C5(31)。石器：剥片(3)、石鏃(1)、石錐(1)、楔形石器(1)、スクレイパー(5)、RF(4)、UF(5)、石鏃未製品(1)。磨石類(2)、切目石錘(5)	〉SB003
SB003	1区	C5	Ⅲ層上面	不整円形？	—	—	—	—	0.2	(11.1)	N111°E	土器：早期(41)、C1(1)、C3(4)、C4(12)、C5(16)。石器：剥片(4)、石鏃(1)、スクレイパー(1)	〈SB002
SB004	1区	E6	Ⅲ層基底面	隅丸方形	4.98	4.93	4.71	4.7	0.41	19.8	N140°E	土器：早期(10)、C1(17)、C2(36)、C3(82)、C4(1126)、C5(1047)、底部(107)、その他(27)。石器：石核(4)、剥片(101)、石鏃(13)、石錐(1)、楔形石器(5)、石匙(1)、スクレイパー(2)、ヘラ状石器(2)、RF(10)、UF(16)、打斧(1)、異形石器(1)、石鏃未製品(5)、分類不能(3)、磨斧(3)、磨石類(7)、打欠石錘(1)、切目石錘(16)	
SB005	1区	B7	Ⅲ層基底面	隅丸方形	3.28	3.08	3.08	2.76	0.12	7.9	N160°E	土器：早期(1)、C3(2)、C4(34)、C5(64)、底部(3)、その他(4)。石器：剥片(4)、石鏃(1)、スクレイパー(1)、RF(2)、UF(1)、分類不能(1)	
SB006	1区	D7	Ⅲ層基底面	円形	4.08	(3.28)	3.82	(2.98)	0.27	(9.1)	N174°E	土器：早期(5)、C1(2)、C2(1)、C3(3)、C4(10)、C5(12)、底部(1)。石器：石核(4)、剥片(8)、石鏃(1)、RF(1)、UF(2)	

※出土遺物の「C 1」や「C 2」は縄文土器中期のC 1群、C 2群を表す。以下同じ。

表14　いじま遺跡　炉跡一覧

遺構No.	地区	検出面	平面形	規模(m)					主軸方位	出土遺物（　）内は点数	備　考（切り合い関係など）
				上面		下面		深さ			
				長軸	短軸	長軸	短軸				
SF001	F1・F2	Ⅲ層上面	不整形	1.15	0.39	1.12	0.38	0.32			地床炉？
SF002	F1・F2	Ⅲ層上面	円形	0.42	0.4	0.37	0.32	0.18			地床炉？
SF003	F3		方形	0.63	0.58	0.51	0.45	0.11	N24°E	C4(52)	SB001の炉。石囲い炉。土器が伏せてある。
SF004									N38°E		欠番
SF005	B7		方形	0.73	0.64	—	—	0.18	N23°W	土器：C4(22)、C5(5)	SB005の炉。石囲い炉。土器が伏せてある。
SF006	E6		方形？	0.85	0.78	0.78	0.7	0.18		土器：C4(34)、C5(3)。石器：剥片(3)	SB004の炉。石囲い炉。

表15　いじま遺跡　ピット一覧(１)

遺構№	調査区	地　区	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 ( )内は点数	備　考 (切り合い関係など)
SP001	1区	SB001床面	円形	0.20	0.19	0.13	0.13	0.24	N86°W		
SP002	1区	SB001床面	楕円形	0.40	0.33	0.14	0.13	0.43	—		
SP003	1区	SB001床面	楕円形	0.31	0.23	0.22	0.12	0.12	N26°W		
SP004	1区	SB001床面	楕円形	0.45	0.34	0.37	0.26	0.42	—		
SP005	1区	SB001床面	円形	0.24	0.23	0.23	0.21	0.09	N0°E		
SP006	1区	SB001床面	円形	0.24	0.24	0.17	0.11	0.18	N47°E		
SP007	1区	SB001床面	円形	0.21	0.21	0.13	0.13	0.17	N50°E		
SP008	1区	SB001床面	楕円形	0.44	0.37	深0.42 浅0.18	深0.33 浅0.14	0.22	—	土器:C4(1)、C5(2)	
SP009	1区	SB001床面	楕円形	0.40	0.30	0.30	0.26	0.09	N33°E		
SP010	1区	SB001床面	円形	0.20	0.19	0.15	0.14	0.11	N40°E		
SP011	1区	SB001床面	円形	(0.20)	(0.18)	0.13	0.18	0.24	N41°W		
SP012	1区	SB001床面	不明	—	—	0.15	0.15	0.03	—		
SP013	1区	SB002床面	楕円形	0.41	0.30	0.27	0.19	0.13	N51°E		
SP014	1区	SB002床面	円形	0.28	0.26	0.26	0.20	0.05	—		
SP015	1区	SB003床面	楕円形	0.42	0.35	0.37	0.29	0.20	N62°W	土器:C5(1)	
SP016	1区	SB003床面	円形	0.33	0.32	0.27	0.22	0.14	N14°W		
SP017	1区	SB003床面	円形	0.34	0.30	0.28	0.23	0.11	—	土器:早期(1)、石器:剥片(1)	
SP018	1区	SB003床面	円形	0.27	0.25	0.16	0.12	0.33	—		
SP019	1区	SB003床面	円形	0.30	0.27	0.17	0.11	0.16	N10°W		
SP020	1区	SB003床面	楕円形	0.39	0.36	0.29	0.21	0.24	N20°W		
SP021	1区	SB003床面	円形	0.32	0.29	0.21	0.17	0.12	—		〉SP22
SP022	1区	SB003床面	円形	0.58	0.50	(0.50)	0.38	0.15	N73°E	土器:C4(2)、C5(1)、底部(1)、石器:RF(1)	〈SP21
SP023	1区	SB006床面	楕円形	0.32	0.21	0.20	0.15	0.14	N28°W		
SP024	1区	SB006床面	円形	0.37	0.33	0.30	0.26	0.14	N26°W		
SP025	1区	SB006床面	円形	0.39	0.39	0.34	0.29	0.21	—		
SP026	1区	SB006床面	楕円形	0.32	0.26	0.23	0.19	0.16	N70°E		
SP027	1区	SB006床面	楕円形	0.27	0.21	0.24	0.14	0.12	N45°E		
SP028	1区	SB006床面	楕円形	0.46	0.33	0.36	0.27	0.13	N57°E		
SP029	1区	SB006床面	円形	0.34	0.33	0.21	0.19	0.16	—		
SP030	1区	SB006床面	円形	0.21	0.21	0.17	0.17	0.13	—		
SP031	1区	SB006床面	円形	(0.23)	(0.23)	(0.17)	0.13	0.19	—		
SP032	1区	SB005床面	円形	0.28	0.26	0.20	0.20	0.12	N62°E		
SP033	1区	SB005床面	不明	—	—	(0.13)	0.12	0.26	—		
SP034	1区	SB005床面	円形	0.25	0.24	0.18	0.12	0.12	N48°E		〉SP36
SP035	1区	SB005床面	円形	0.53	0.46	0.39	0.35	0.15	N23°W		〉SP36
SP036	1区	SB005床面	円形	0.51	(0.47)	0.41	(0.40)	0.11	N86°E	土器:C5(2)	〈SP34,SP35
SP037	1区	SB005床面	楕円形	0.25	0.20	0.15	0.09	0.25	N10°W		
SP038	1区	SB005床面	楕円形	0.57	0.47	0.29	0.29	0.37	N88°W	土器:早期(1)、C4(1)	
SP039	1区	SB005床面	円形	0.34	0.33	0.29	0.22	0.22	—	土器:C2(2)、C5(4)	
SP040	1区	SB005床面	楕円形	0.75	0.54	0.56	0.43	0.26	N22°E	土器:C5(3)	
SP041	1区	SB005床面	円形	0.41	0.36	0.36	0.33	0.10	N26°E	土器:C5(1)	
SP042	1区	SB005床面	楕円形	0.41	0.35	0.30	0.28	0.16	N73°E	土器:C4(1)	
SP043	1区	SB005床面	楕円形	0.35	0.28	0.31	0.21	0.13	N38°E		
SP044	1区	SB004床面	楕円形	0.52	0.44	0.23	0.23	0.38	N89°E	土器:C5(4)	
SP045	1区	SB004床面	円形	0.52	0.47	0.27	0.27	0.32	N54°E	土器:C2(1)。石器:スクレイパー(1)、打斧(1)	
SP046	1区	SB004床面	不整円形	0.64	0.61	0.42	0.30	0.48	N49°W	土器:C4(1)、C5(2)、C5(1)、石器:石鏃未製品(1)、UF(1)	
SP047	1区	SB004床面	円形	0.50	0.45	0.30	0.29	0.24	N70°W	土器:C4(1)、C5(1)	
SP048	1区	SB004床面	円形	0.49	0.44	0.39	0.27	0.27	N67°W		
SP049	1区	SB004床面	楕円形	0.48	0.41	0.30	0.30	0.25	N70°W	土器:C4(2)、C5(1)	

表16　いじま遺跡　ピット一覧（2）

遺構No.	調査区	地　区	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 （　）内は点数	備　考 （切り合い関係など）
SP050	1区	SB004床面	円形	0.58	0.52	0.47	0.31	0.20	—	土器：C4(2)、C5(2)	
SP051	1区	SB004床面	円形	0.30	0.28	0.21	0.20	0.12	—	土器：C5(2)	
SP052	1区	SB004床面	不整円形	0.55	0.54	0.29	0.22	0.41	N75°E	土器：C4(1)	
SP053	1区	SB004床面	円形	0.57	0.49	0.51	0.35	0.32	N12°E		
SP054	1区	SB004床面	円形	0.63	0.59	深0.51 浅0.34	深0.52 浅0.25	深0.40 浅0.26	N24°W	土器：C4(7)、C5(6)。石器：剥片(1)、石錘(1)、石鏃(1)、RF(1)	
SP055	1区	SB004床面	不定形	0.64	0.35	0.51	0.22	0.14	N5°E		
SP056	1区	SB004床面	不整円形	0.59	0.54	0.24	0.20	0.30	N67°E	土器：C4(4)、C5(3)。石器：剥片(2)	⟨SP60
SP057	1区	SB004床面	円形	0.52	0.47	0.42	0.33	0.21	—		
SP058	1区	SB004床面	楕円形	0.61	0.21	0.45	0.32	0.31	N42°E	土器：C4(2)、C5(10)。石器：石核(1)、UF(1)、切目石錘(1)	
SP059	1区	SB004床面	不定形	1.41	0.59	1.19	0.49	0.23	N67°E	土器：早期(2)、C4(27)、C5(10)、底部(1)。石器：切目石錘(1)	⟨SF6
SP060	1区	SB004床面	円形	0.37	(0.32)	0.19	0.19	0.44	N71°E		⟩SP56

表17　いじま遺跡　配石・集石遺構一覧

遺構No.	調査区	地区	検出面	土　坑 平面形	土坑規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	長軸方位	出土遺物 （　）内は点数	備　考 （切り合い関係など）
SI001	1区	D4	Ⅱ層基底面	長楕円形	1.38	0.98	1.19	0.78	0.17	N33°E		
SI002	1区	D5・D6	Ⅱ層基底面	不定形	0.76	0.49	0.37	0.28	0.39	N26°E	土器：C2(2)、C4(1)、C5(8)、底部(1)	
SI003	1区	B7・C7	Ⅱ層基底面	不定形	0.86	0.56	0.47	0.45	0.15	N50°E	土器：早期(2)、C5(11)	
SI004	1区	E5	Ⅲ層基底面	不定形	1.16	0.93	0.70	0.64	0.34	N38°E	土器：早期(1)	
SI1001	2区	J8・J9・K8・K9	Ⅳ層基底面	楕円形	1.16	0.96	1.06	0.85	0.30	—	土器：早期(2)	

表18　いじま遺跡　土坑一覧（1）

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模（m） 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 （　）内は点数	備　考 （切り合い関係など）
SK001	1区	D04	Ⅱ層基底面	楕円形	0.59	0.49	0.57	0.45	0.08	N76°E		⟩SK2　⟩SK3
SK002	1区	D04	Ⅱ層基底面	楕円形	0.60	0.47	0.35	0.28	0.18	N28.5°W	土器：C4(1)	⟨SK1　⟩SK3
SK003	1区	D04	Ⅱ層基底面	円形	(0.50)	0.48	0.39	0.38	0.19	—		⟨SK1　⟨SK2
SK004	1区	D3・D4	Ⅱ層基底面	楕円形	0.39	0.32	0.20	0.18	0.19	—		
SK005	1区	E2・E3	Ⅱ層基底面	楕円形	0.37	0.27	0.33	0.23	0.10	N20°E		
SK006	1区	E3・E4	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.67	0.39	0.59	0.31	0.10	N46°E		⟩SK7
SK007	1区	E3・E4	Ⅱ層基底面	不明	(0.75)	0.33	—	0.33	0.12	N70°E		⟨SK6
SK008	1区	E04	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.48	0.33	0.34	0.25	0.08	N89°E		
SK009	1区	E4・E5	Ⅱ層基底面	不定形	1.43	0.91	1.27	0.83	0.14	N51.5°E		⟩SK10
SK010	1区	E4・E5・F4	Ⅱ層基底面	長楕円形	1.10	(0.48)	1.06	0.52	0.10	N43.5°E	土器：C2(1)	⟨SK9
SK011	1区	F04	Ⅱ層基底面	円形	0.29	0.28	0.23	0.19	0.07	N44.5°E		
SK012	1区	F0Ⅱ	Ⅱ層基底面	円形	0.57	0.57	0.55	0.53	0.18	N73.5°E		⟩SK13
SK013	1区	F2・G2	Ⅱ層基底面	円形	(0.50)	0.49	0.47	0.39	0.25	N63°W		⟨SK12
SK014	1区	E04	Ⅱ層基底面	楕円形	0.44	0.34	0.24	0.14	0.10	N70°E		

表19　いじま遺跡　土坑一覧(２)

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 ( )内は点数	備　考 (切り合い関係など)
SK0015	1区	E04	Ⅱ層基底面	楕円形	0.65	0.46	0.59	0.35	0.14	N40°E		
SK0016	1区	E04	Ⅱ層基底面	円形	0.49	0.44	0.39	0.33	0.09	—		
SK0017	1区	F1-G1	Ⅱ層基底面							N°E	石器:RF(1)	
SK0018	1区	E05	Ⅱ層基底面	円形	0.46	0.44	0.45	0.34	0.12	—		
SK0019	1区	E05	Ⅱ層基底面	円形	0.46	0.44	0.44	0.40	0.17	—	土器:C4(1)	
SK0020	1区	E06	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.62	0.39	0.62	0.37	0.19	N42°W		
SK0021	1区	E06	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.80	0.45	(0.70)	0.40	0.22	N47°E	土器:C4(4)。石器:剥片(1)	
SK0022	1区	F02	TP12底面	円形	0.20	0.17	0.13	0.10	0.07	—		
SK0023	1区	F02	TP12底面	長楕円形	0.22	0.14	0.16	0.10	0.10	—		
SK0024	1区	F02	TP12底面	円形	0.10	0.09	0.05	0.04	0.13	—		
SK0025	1区	B07	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.74	0.46	0.68	0.56	0.17	N89°E	土器:早期(1)、C4(4)、C5(5)	
SK0026	1区			不定形	0.76	0.47	0.61	0.44	深0.23 浅0.15	N°E	土器:C4(15)、C5(10)、底部(2)	
SK0027	1区	B7･C7	Ⅱ層基底面	楕円形	0.77	0.62	0.55	0.44	0.66	—	土器:C2(1)、C4(2)、C5(1)。石器:剥片(1)	〉SK28 〉SK29
SK0028	1区	B07	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.56	(0.36)	0.40	0.29	0.31	N78°W	土器:C2(1)、C4(2)、C5(1)	〈SK27
SK0029	1区	B7･B7	Ⅱ層基底面	円形	0.54	0.50	(0.50)	0.27	0.68	N24°W	土器:早期(5)。石器:スクレイパー(2)	〈SK27
SK0030	1区	C06	Ⅱ層基底面	楕円形	0.50	0.42	0.45	0.31	0.10	N62°E	土器:C4(2)、C5(4)	〉SB2
SK0031	1区	C06	Ⅱ層基底面	円形	0.46	0.43	0.37	0.35	0.18	N38.5°E	土器:C5(1)	〉SK32
SK0032	1区	C06	Ⅱ層基底面	長楕円形	(0.78)	0.49	(0.70)	0.40	0.23	N32°E	土器:C2(2)、C5(21)。石器:剥片(1)、石鏃(1)、切目石錘(2)	〈SK31
SK0033	1区											欠番
SK0034	1区	C07		楕円形	1.04	0.76	0.80	0.62	0.66	N26°W	土器:早期(2)、C2(2)、C4(19)、C5(7)、底部(1)。石器:石鏃(1)、石錐(1)、スクレイパー(1)、打欠石錘(2)、切目石錘(4)	〈SK35
SK0035	1区	C07	Ⅱ層基底面	楕円形	0.61	0.51	0.45	0.41	0.28	N40°E	土器:C4(4)、C5(6)。石器:剥片(1)	〉SK34
SK0036	1区	C7･C8 ･D7･D8	Ⅱ層基底面	楕円形	0.75	0.51	深0.18 浅0.73	深0.10 浅0.40	深0.30 浅0.17	N°E	石器:剥片(1)	〉SK37 〉SR1
SK0037	1区	C7･C8 ･D7･D8	Ⅱ層基底面	楕円形	(0.55)	0.42	(0.34)	0.27	0.20	N52°E	土器:C5(1)	〈SK36
SK0038	1区	D07	Ⅱ層基底面	楕円形	(0.55)	0.41	—	—	0.16	N10°W	土器:C4(1)	〈SK39 〈SR1
SK0039	1区	D07	Ⅱ層基底面	楕円形	1.08	(0.83)	0.89	0.70	0.30	N71°E	土器:C5(3)。石器:石鏃(1)	〉SK38
SK0040	1区	D06	Ⅱ層基底面	楕円形	0.36	0.29	0.32	0.25	0.12	N°E		〉SK41
SK0041	1区	D06	Ⅱ層基底面	楕円形	(0.76)	0.60	0.67	0.55	0.13	N49°E	土器:C1(1)、C5(2)	〈SK40
SK0042	1区	D06	Ⅱ層基底面	不明	—	—	—	—	0.21	—		
SK0043	1区	D7･D8	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.54	0.35	0.48	0.31	0.21	N50°E		
SK0044	1区	B06	Ⅱ層基底面	楕円形	0.57	(0.44)	0.48	0.17	0.24	N35°E		〈SB2
SK0045	1区	D08	Ⅱ層基底面	楕円形	0.49	0.43	0.43	0.38	0.12	N7°E		
SK0046	1区	E07	Ⅱ層基底面	楕円形	0.74	(0.56)	深0.23 浅0.54	深0.10 浅0.51	深0.37 浅0.25	N23°E		
SK0047	1区	D07	Ⅱ層基底面	楕円形	0.66	0.45	0.46	0.21	0.41	N50°E	土器:C2(1)、C4(1)、C5(10)。	
SK0048	1区	E07	Ⅱ層基底面	楕円形	0.88	0.63	0.81	0.55	0.11	N81°W	土器:C4(2)、C5(14)。石器:剥片(1)	

表20　いじま遺跡　土坑一覧(３)

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 ( )内は点数	備　考 (切り合い関係など)
SK0049	1区	E07	Ⅱ層基底面	不定形	1.09	0.57	0.77	0.31	0.38	N84°E	石器:破片(1)、石鏃(1)、スクレイパー(1)、UF(2)	〉SK54
SK0050	1区											欠番
SK0051	1区											欠番
SK0052	1区	D8･E8	Ⅱ層基底面	円形	0.65	0.65	0.38	0.27	0.25	N9°E		
SK0053	1区	D08	Ⅱ層基底面	不定形	0.52	0.37	0.38	0.25	0.1	N23°E		
SK0054	1区	E07	Ⅱ層基底面	長楕円形	(0.56)	0.37	(0.35)	0.27	0.34	—		〈SK49
SK0055	1区	E08	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.32	0.19	0.21	0.08	0.12	N47°W		
SK0056	1区	E08	Ⅱ層基底面	楕円形	0.36	0.32	0.27	0.25	0.28	N45°E		
SK0057	1区	E08	Ⅱ層基底面	円形	0.27	0.27	0.26	0.22	0.08	—		
SK0058	1区	E09	Ⅱ層基底面	円形	0.73	0.63	0.70	0.54	0.20	N49°W		
SK0059	1区	F07･F08	Ⅱ層基底面	円形	0.64	0.54	0.54	0.46	0.14	N87°E		
SK0060	1区	F08	Ⅱ層基底面	円形	0.90	0.78	0.70	0.52	0.18	N84°E		
SK0061	1区	F08	Ⅱ層基底面	楕円形	1.29	0.98	0.78	0.63	0.37	N14°E	土器:早期(4)、C1(2)、C2(1)、C4(2)、C5(3)。石器:切目石錘(1)	
SK0062	1区	F08	Ⅱ層基底面	不定形	0.86	0.66	0.98	0.78	0.40	N50°E	土器:C1(1)	
SK0063	1区	F08	Ⅱ層基底面	楕円形	0.37	0.30	0.24	0.17	0.17	N61.5°E	石器:切目石錘(1)	
SK0064	1区	F08	Ⅱ層基底面	楕円形	0.52	0.36	0.43	0.31	0.12	N47°E	土器:早期(4)、C2(2)、C5(9)。石器:石錘未製品(1)、磨石類(1)	
SK0065	1区	F08･F09	Ⅱ層基底面	楕円形	1.19	1.02	0.80	0.74	0.36	N14°W	土器:早期(5)、C2(2)、C5(9)。石器:石錘未製品(1)、磨石類(1)	
SK0066	1区	F09	Ⅱ層基底面	楕円形	1.53	1.43	0.32	0.28	0.17	N64.5°W		〉SK67
SK0067	1区	F09	Ⅱ層基底面	円形	(0.48)	0.46	(0.39)	0.34	0.20	N87°E		〈SK66
SK0068	1区	F09	Ⅱ層基底面	不整円形	1.02	0.93	0.90	0.73	0.27	N21°W	土器:C4(1)、C5(1)	
SK0069	1区	F09･G09	Ⅱ層基底面	不明	(0.90)	0.64	—	—	0.22	—	土器:C4(4)、C5(1)、その他(1)	
SK0070	1区	E07	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.67	0.39	0.61	0.33	0.11	—		〉SK71
SK0071	1区	E07	Ⅱ層基底面	不整円形	0.81	0.76	0.76	0.74	0.28	—		〈SK70 〉SK73
SK0072	1区	E07･F07	Ⅱ層基底面	円形	0.67	0.65	0.49	0.40	0.31	—	土器:C5(1)	〉SK73
SK0073	1区	E07	Ⅱ層基底面	円形	(0.50)	0.45	(0.54)	0.37	0.22	N72.5°W		〈SK71,72
SK0074	1区	E07	Ⅱ層基底面	長楕円形	0.92	0.61	0.70	0.55	0.14	N78°E		
SK0075	1区	F08	Ⅱ層基底面	楕円形	0.66	0.51	0.60	0.44	0.22	N85°W	土器:C5(1)	
SK0076	1区	F07	Ⅱ層基底面	円形	0.46	0.46	0.36	0.33	0.15	N41°E		
SK0077	1区	D05	Ⅱ層基底面	円形	0.54	0.51	0.46	0.32	0.52	N26°E		
SK0078	1区	E03	Ⅲ層基底面	楕円形	(0.55)	0.38	(0.51)	0.26	0.08	N35°W		
SK0079	1区	D03･E03	Ⅲ層基底面	不明	(0.80)	0.51	—	(0.50)	0.07	N76°W		〉SK81
SK0080	1区	E03	Ⅲ層基底面	楕円形	0.54	0.48	深0.40 浅0.30	深0.38 浅0.15	深0.28 浅0.11	N53°E		〉SK81
SK0081	1区	E03	Ⅲ層基底面	楕円形	0.55	0.44	0.54	0.51	0.11	—		〈SK79,80
SK0082	1区	E03･E04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.55	0.42	0.48	0.32	0.08	N6°W		
SK0083	1区	E04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.45	0.38	0.26	0.23	0.15	N3°E		〉SK84
SK0084	1区	E03	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.98	0.63	0.83	0.50	0.16	N64°W		〈SK83
SK0085	1区	E03	Ⅲ層基底面	楕円形	1.31	1.10	0.99	0.70	0.31	N76°E	土器:C5(2)	〉SK86、SK87
SK0086	1区	E03	Ⅲ層基底面	楕円形	1.10	0.88	(0.98)	0.70	0.22	N75°W		〈SK85、 〉SK87
SK0087	1区	E03	Ⅲ層基底面	不明	0.87	0.76	—	—	0.14	—	土器:C5(2)	〈SK85,SK86
SK0088	1区	E03･E04	Ⅲ層基底面	楕円形	1.16	0.81	0.72	0.46	0.28	N21°E	土器:C5(1)。石器:RF(1)	

表21　いじま遺跡　土坑一覧(4)

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 ( )内は点数	備考 (切り合い関係など)
SK0089	1区	F03・F04	Ⅲ層基底面	長楕円形	1.63	0.77	1.05	0.55	0.26	N75°E	土器:C5(1)	
SK0090	1区	E04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.49	0.38	0.35	0.22	0.24	N11°E		
SK0091	1区	F04	Ⅲ層基底面	円形	0.20	0.18	0.18	0.18	0.12	N89.5°W		
SK0092	1区	F04	Ⅲ層基底面	円形	0.27	0.26	0.17	0.14	0.12	N49°E		
SK0093	1区	E04	Ⅲ層基底面	長楕円形	1.65	0.82	1.49	0.46	0.37	N9°E		
SK0094	1区	F05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.55	0.47	0.47	0.44	0.08	N51°W		
SK0095	1区	D04	Ⅲ層基底面	円形	0.25	0.24	0.14	0.12	0.19	N42°W		
SK0096	1区	D04	Ⅲ層基底面	円形	0.48	0.48	0.27	0.16	0.22			〈SK3
SK0097	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.74	0.50	0.31	0.17	0.22	N22°W		
SK0098	1区	D04・E04	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.69	0.40	0.64	0.36	0.10	N45°E		
SK0099	1区	E04	Ⅲ層基底面	円形	0.35	0.35	0.23	0.15	0.18	N84°E		
SK0100	1区	E04	Ⅲ層基底面	楕円形	(0.36)	0.26	0.33	(0.17)	0.16	N11°E		
SK0101	1区	D04・D05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.53	0.43	0.24	0.24	0.34	N33°E		
SK0102	1区	D04・D05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.29	0.21	0.16	0.14	0.14			
SK0103	1区	D05	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.30	0.20	0.20	0.17	0.15	N24°W		
SK0104	1区	D05	Ⅲ層基底面	円形	0.24	0.21	0.12	0.11	0.20	N45°E		
SK0105	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.25	0.21	0.14	0.14	0.08	—		
SK0106	1区	D04	Ⅲ層基底面	不整円形	0.28	0.27	0.09	0.07	0.20	N26°E		
SK0107	1区	D04	Ⅲ層基底面	不整円形	0.35	0.32	0.23	0.14	0.24	N25°E		
SK0108	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.27	0.21	0.11	0.08	0.24	N58°W		
SK0109	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.45	0.32	0.08	0.07	0.18	N29°E		
SK0110	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.33	0.26	0.33	0.22	0.12	N47°E		
SK0111	1区	D04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.38	0.31	0.17	0.13	0.08	N52°E		
SK0112	1区	D04・E04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.49	0.40	0.35	0.21	0.19	N7°W		〉SK113
SK0113	1区	D04・E04	Ⅲ層基底面	不定形	0.55	0.25	0.53	(0.15)	0.11	N72°E		〈SK112
SK0114	1区	D05	Ⅲ層基底面	不整円形	0.37	0.34	0.26	0.22	0.23	N62°E	土器:C4(1)	
SK0115	1区	D05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.46	0.36	0.24	0.20	0.18	N14°E		
SK0116	1区	E05	Ⅲ層基底面	不定形	0.61	0.33	0.44	0.17	0.19	N42°E	土器:C5(1)	
SK0117	1区	E05	Ⅲ層基底面	円形	0.44	0.42	0.22	0.35	0.24	N19°E		
SK0118	1区	E04	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.66	0.42	0.36	0.27	0.26	N38°E		〉SK118・121
SK0119	1区	E04	Ⅲ層基底面	楕円形	0.62	(0.53)	0.44	0.38	0.20	N85°W		〈SK118,〉SK120・121
SK0120	1区	E04	Ⅲ層基底面	不明	0.72	(0.50)	—	—	0.14	N85°W		〈SK119
SK0121	1区	E04	Ⅲ層基底面	楕円形	1.15	(0.88)	1.07	0.81	0.18	—		
SK0122	1区	E05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.31	0.24	0.25	0.20	0.08	N25°W		
SK0123	1区	E05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.28	0.22	0.13	0.13	0.08	N0°E		
SK0124	1区	F07	Ⅲ層基底面	長楕円形	1.29	0.66	0.75	0.28	0.32	N39°E	土器:早期(3)、C1(1)、C4(11)、C5(19)。石器:剥片(1)、石鏃(1)	
SK0125	1区	C06	Ⅲ層基底面	円形	0.22	0.20	0.17	0.13	0.11	N25°W		
SK0126	1区	D05	Ⅲ層基底面	楕円形	0.32	0.23	0.25	0.18	0.08	N42°E		
SK0127	1区	D05・D06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.31	0.26	0.19	0.15	0.14	—		
SK0128	1区	D06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.39	0.33	0.34	0.29	0.06	N81°W	土器:C5(2)	
SK0129	1区	D06	Ⅲ層基底面	不明	—	0.21	—	—	0.10	—		(試掘坑(TP6)
SK0130	1区	D06	Ⅲ層基底面	不明	—	0.25	—	0.17	0.18	—	土器:C5(4)。石器:剥片(1)、UF(1)	
SK0131	1区	C06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.21	0.18	0.16	0.15	0.07	N43°E		
SK0132	1区	C07	Ⅲ層基底面	不整円形	0.68	0.59	0.31	0.23	0.44	N41°E	土器:C4(6)、C5(8)、底部(1)。石器:スクレイパー(1)	
SK0133	1区	C06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.37	0.25	0.30	0.18	0.08	N82°E	土器:C5(2)。石器:切目石錘(2)	

表22　いじま遺跡　土坑一覧(5)

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物 ( )内は点数	備考 (切り合い関係など)
SK0134	1区	C06・D06	Ⅲ層基底面	不整円形	0.37	0.32	0.27	0.16	0.08	N26°E		
SK0135	1区	C06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.98	0.76	0.60	0.48	0.33	N4°W	土器:C2(1)、C4(5)、C5(7)	〉SK136
SK0136	1区	C06	Ⅲ層基底面	不明	(0.35)	0.27	0.32	0.19	0.10	N35°E		〈SK135
SK0137	1区	D06	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.50	0.30	0.43	0.26	0.07	N19°E	土器:C5(1)	
SK0138	1区	D06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.39	0.32	0.33	0.23	0.05	N22°E		
SK0139	1区	D06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.44	0.34	0.19	0.12	0.10	N52°E	土器:C5(2)	
SK0140	1区	D06	Ⅲ層基底面	不定形	0.36	0.26	0.18	0.08	0.14	N69°W		〉SK141
SK0141	1区	D06	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.50	0.30	0.20	0.10	0.16	N81°E		〈SK140
SK0142	1区	D06	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.65	0.34	0.18	0.18	0.27	N15°W	土器:C4(3)、C5(5)。石器:剥片(1)	〉SK143
SK0143	1区	D06	Ⅲ層基底面	長楕円形	(0.40)	0.23	0.20	0.19	0.10	N76°E	土器:C5(1)	〈SK142
SK0144	1区	D06	Ⅲ層基底面	円形	0.34	0.29	0.16	0.15	0.23	N9°E	土器:C5(1)	〉SK145
SK0145	1区	D06・D07	Ⅲ層基底面	長楕円形	1.27	0.67	1.10	0.40	0.23	N29°W	土器:C5(1)、その他(2)。石器:剥片(1)、RF(1)	〈SK144、〉SK146
SK0146	1区	D06	Ⅲ層基底面	不定形	(0.70)	0.36	深(0.62) 浅0.27	深0.23 浅0.23	深0.28 浅0.15	N43°W		〈SK145
SK0147	1区	C07	Ⅲ層基底面	楕円形	1.11	0.88	0.18	0.58	0.22	N33°E	土器:C4(5)、C5(2)。石器:剥片(1)	
SK0148	1区	B07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.46	0.34	0.24	0.17	0.16	N39°W		
SK0149	1区	C07	Ⅲ層基底面	不整円形	0.50	0.47	0.43	0.32	0.34	N40°W		
SK0150	1区	C07	Ⅲ層基底面	不定形	0.69	0.58	0.36	0.32	0.50	N56°W	土器:早期(1)、C4(1)。石器:UF(1)	〉SK163
SK0151	1区	C07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.50	(0.35)	0.23	0.21	0.20	N9°E		〈SK156
SK0152	1区	D07	Ⅲ層基底面	楕円形	1.09	0.82	0.97	0.15	0.20	N70°E	土器:C4(8)、C5(3)。石器:剥片(2)、スクレイパー(2)	
SK0153	1区	D07	Ⅲ層基底面	不整円形	0.43	0.42	0.23	0.23	0.21	N29°W		
SK0154	1区	D07	Ⅲ層基底面	円形	0.25	0.25	0.20	0.17	0.09	N63°E	土器:C5(1)	
SK0155	1区	D06・D07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.43	0.37	0.15	0.13	0.12	—	土器:C4(3)	〉SR6
SK0156	1区	C07	Ⅲ層基底面	円形	1.20	1.09	0.98	0.90	0.20	N29°E	石器:石棒(1)	〉SK151
SK0157	1区	D07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.90	0.73	0.59	0.57	0.34	N16°E	土器:早期(1)、C1(1)、C4(3)、C5(9)、底部(3)。石器:剥片(2)、ヘラ状石器(1)、UF(2)、切目石錘(2)	
SK0158	1区	E07	Ⅲ層基底面	楕円形	1.07	0.86	(0.95)	0.68	0.16	N43°W	土器:C4(2)、C5(6)。石器:剥片(3)、石錐(1)	
SK0159	1区	B06	Ⅲ層基底面	楕円形	0.30	0.24	0.16	0.14	0.21	N63°E	土器:C4(2)、C5(3)	
SK0160	1区	B07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.30	0.25	0.16	0.13	0.28	N89°W	土器:C3(8)、C4(1)、C5(4)。石器:磨斧(1)	
SK0161	1区	B07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.38	0.29	0.22	0.13	0.14	N68°E		
SK0162	1区	B07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.40	0.35	0.34	0.26	0.19	N21°E	土器:C4(1)、C5(1)	
SK0163	1区	C07	Ⅲ層基底面	不整円形	(0.79)	0.70	(0.66)	0.60	0.26	N86°W		〈SK150
SK0164	1区	B06	Ⅲ層基底面	不明	(0.90)	(0.65)	—	—	0.47	N44°E		〈SK165
SK0165	1区	B06・B07	Ⅲ層基底面	長楕円形	1.04	(0.55)	0.62	(0.46)	0.27	—	土器:C4(1)	〉SK164
SK0166	1区	A07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.48	0.35	0.41	0.30	0.13	N35°E	土器:C4(1)	
SK0167	1区	E07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.82	0.64	0.61	0.44	0.30	N58°E	土器:C4(1)	

表23　いじま遺跡　土坑一覧（6）

遺構No.	調査区	地区	検出面	平面形	規模（m）					主軸方位	出土遺物（　）内は点数	備　考（切り合い関係など）
					上面		下面		深さ			
					長軸	短軸	長軸	短軸				
SK0168	1区	B07	Ⅲ層基底面	円形	0.62	0.61	0.44	0.40	0.24	—	土器:C1(2)、C2(2)、C4(2)、C5(7)	
SK0169	1区	D06	Ⅲ層基底面	円形	0.38	0.34	0.24	0.23	0.17	—	土器:C5(2)	
SK0170	1区	F07	Ⅲ層基底面	楕円形	0.62	0.50	0.46	0.36	0.21	N81°W		
SK0171	1区	C06		不定形	0.09	0.06	0.02	0.02	0.04	—		
SK0172	1区	F09		不定形	0.95	0.70	0.85	0.53	0.14	—		
SK1001	2区	J08	Ⅳ層基底面	楕円形	0.55	0.43	0.45	0.40	0.12	N6°W	土器:C4(1)	〉SK1002
SK1002	2区	J08	Ⅳ層基底面	楕円形	0.64	0.44	0.62	0.33	0.20	N37°W	土器:C4(1)	〈SK1001
SK1003	2区	J08	Ⅳ層基底面	円形	0.55	0.53	0.42	0.33	0.62	—		
SK1004	2区	J09	Ⅳ層基底面	楕円形	0.81	0.69	0.70	0.62	0.16	N70°W		〉SK1005、SK1007
SK1005	2区	J09	Ⅳ層基底面	不明	1.55	—	—	—	0.22	N3°W		〈SK1004
SK1006	2区	J09・J10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.80	0.66	0.75	0.56	0.13	—		〉SK1009
SK1007	2区		Ⅳ層基底面	楕円形	0.87	0.69	0.74	0.66	0.18	N30°W		〈SK1004、SK1006
SK1008	2区	J10	Ⅳ層基底面	円形	0.56	0.53	0.50	0.46	0.13	—		〉SK1009
SK1009	2区	J10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.89	0.62	0.71	0.52	0.15	N60°E		〈SK1008
SK1010	2区	J08	Ⅳ層基底面	不定形	0.59	0.50	0.50	0.47	0.42	N84°W		
SK1011	2区	K10	Ⅳ層基底面	円形	0.53	0.48	0.48	0.38	0.11	N42°E	土器:C4(5)、C5(3)	
SK1012	2区	K09・K10	Ⅳ層基底面	円形	0.41	0.38	0.38	0.34	0.18	N48°W		
SK1013	2区	L09	Ⅳ層基底面	不定形	0.56	0.46	0.44	0.33	0.16	N65°E		
SK1014	2区											欠番
SK1015	2区	L09	Ⅳ層基底面	不定形	0.41	0.33	0.28	0.23	0.15	N72°E		
SK1016	2区											欠番
SK1017	2区											欠番
SK1018	2区											欠番
SK1019	2区	K10		長楕円形	0.18	0.12	0.06	0.06	0.10	—		

表24　いじま遺跡　立石遺構一覧

遺構No.	調査区	地区	検出面	土坑平面形	土坑規模（m）					長軸方位	出土遺物（　）内は点数	備　考（切り合い関係など）
					上面		下面		深さ			
					長軸	短軸	長軸	短軸				
SR001	1区	D7・D8	Ⅱ層基底面	楕円形	1.38	0.91	1.08	0.79	0.46	N29°E	土器:C5(2)	
SR002	1区	D7	Ⅱ層基底面	円形	0.59	0.52	0.54	0.47	0.17	—	土器:C5(1)	
SR003	1区	F8	Ⅱ層基底面	不整形	0.90	0.79	0.79	0.57	0.30	N77°E	土器:早期(2)、C5(2)	
SR004	1区	G9	Ⅱ層基底面	楕円形	0.92	0.56	0.80	0.38	0.40	N29°E		
SR005	1区	E8・F8	Ⅱ層基底面	円形	0.67	0.58	0.38	0.29	0.22	N19°E		
SR006	1区	D6	Ⅲ層基底面	楕円形	0.99	0.73	0.89	0.79	0.35	N27°E	土器:早期(3)、C2(1)、C4(7)、C5(9)、底部(1)。石器:剥片(3)、切目石錘(1)	
SR007	1区	C7	Ⅲ層基底面	楕円形	0.43	0.33	0.33	0.26	0.16	N38°E	土器:C5(2)。石器:UF(1)	

表25　いじま遺跡土器観察表（1）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文　様	胎　土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備　考
1	A3845-74	SB001		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	粗　砂粒多い 石英含む	橙色／にぶい橙色／にぶい橙色	16	15	SB001出土土器に同一個体有り。10と同一個体の可能性有り。
2	B0084他	SB001		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（RL） 沈線（棒状工具）	密　砂粒多い 石英含む	橙色／灰褐色／灰褐色	16	14	外面炭化物付着
3	B0448	SB002	③	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文（羽状 RL・LR）	密　砂粒少ない	黒褐色／赤褐色／褐灰色	16	15	外面炭化物付着
4	B0449他	SB002	④	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文（不明）	密　砂粒少ない 石英含む	黒褐色／にぶい赤褐色／にぶい赤褐色	16	15	
5	B0447	SB002		縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	刺突（竹管）	密　砂粒少ない 石英含む	褐色／明褐色／黒褐色	16	15	
6	B0444-4	SB002		縄文土器	深鉢	底部	早期	ナデ／ナデ		密　砂粒少ない 石英含む	橙色／明褐色／明褐色	16	15	
7	B0384-2	SB002	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 隆帯	粗　砂粒多い	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰色	16	15	
8	A0789	SB002	①	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／橙色／褐灰色	16	15	SB002出土土器に同一個体有り。10と同一個体の可能性有り。
9	B0245	SB002	①	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	条線　沈線（棒状工具） 隆帯　刺突（棒状工具）平行沈線	粗　砂粒多い 長石　石英　雲母含む	明褐色／明赤褐色褐色／にぶい黄橙色	16	15	
10	B0289	SB002	①	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　刺突（棒状工具）平行沈線	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／褐灰色／明褐色	16	15	7と同一個体か？
11	A1479他	SB002	①	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	刺突（竹管） 沈線（棒状工具） 条線	粗　砂粒多い 長石　石英　雲母含む	明赤褐色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	16	15	SB002出土土器に同一個体有り。
12	01日1-34	SB003		縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	押し引き そうめん状隆帯	密　砂粒少ない 長石　石英含む	にぶい褐色／にぶい橙色／黄灰色	16	15	SB003部分の試掘坑から出た。出土状況から SB003出土と判断した。
13	B0165-3	SB003		縄文土器	深鉢	頸部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR） 隆帯　沈線	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／橙色／にぶい黄橙色	16	15	
14	B0520	SB003		縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	縄文（結節）	密　砂粒少ない	黒褐色／褐色／褐色	16	15	15-16と同一個体
15	B0520-5	SB003		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文（羽状 RL・LR）	密　砂粒少ない	黒褐色／黒褐色／黒褐色	16	15	14-16と同一個体
16	A3690	SB003		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文（羽状）	密　砂粒少ない	黒褐色／黒褐色／黒褐色	16	15	14-15と同一個体
17	B0221	SB003	①	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 爪形文	密　砂粒少ない 石英含む	褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	16	15	
18	B0504	SB003	④	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	沈線　刺突	密　砂粒多い 石英含む	橙色／灰黄褐色／灰黄褐色	16	15	外面炭化物付着
19	A0499	SB003	②	縄文土器	深鉢	底部	早期	ナデ／ナデ		密　砂粒多い 石英含む	橙色／灰黄褐色／褐色／灰黄褐色	16	15	SB003出土土器に同一個体有り
20	B1576	SB004	②	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ		密　砂粒多い	にぶい赤褐色／にぶい赤褐色／褐灰色	16	16	
21	B1075他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	粗　砂粒多い	橙色／にぶい橙色／にぶい赤褐色	16	16	
22	B0777	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	粗　砂粒多い	橙色／明赤褐色／にぶい橙色	16	16	
23	B2775-4	SB004	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	縄文　コンパス文　爪赤文	密　砂粒多い	明黄色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	16	16	
24	B2725	SB004	①	縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	平行沈線　コンパス文　爪赤文	密　砂粒少ない	明赤褐色／灰赤色／褐灰色	16	16	
25	B0735	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	押し引き 沈線　隆帯	密　砂粒多い	にぶい赤褐色／灰褐色／褐灰色	16	16	外面炭化物付着
26	B2599	SB004	①	縄文土器	深鉢	口縁部上段	C2	ナデ／ナデ	押し引き ソーメン状隆帯	粗　砂粒多い	褐灰色／黒色／灰褐色	16	16	
27	B1831	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部下段	C2	ナデ／ナデ	C字形爪形文 沈線（棒状工具） そうめん状隆帯 縄文（RL）	密　砂粒多い 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	16	16	
28	B2413他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 隆帯　縄文（RL）	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／褐灰色／灰色	16	16	
29	B0782	SB004	①	縄文土器	深鉢	口縁部下段	C3	ナデ／ナデ	沈線　隆帯　縄文（RL）	密　砂粒多い 長石・雲母含む	橙色／褐灰色／にぶい橙色	16	16	
30	B1176-1他	SB004	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線　刺突	密　砂粒多い	にぶい橙色／浅黄橙色／褐灰色	16	16	
31	A3955他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 刺突（棒状工具） 隆帯	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい橙色／褐灰色	17	16	外面炭化物付着。SB004出土土器に同一個体有り
32	B2281他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	C3	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	灰黄褐色／褐灰色／褐灰色	17	12	

表26　いじま遺跡土器観察表（２）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文　様	胎　土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備　考
33	B0731他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁～胴部	C3	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具・板状工具）　隆帯　キザミ	粗　砂粒少ない 石英・長石含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰白色	17	13	
34	B1670他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 隆帯	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黒褐色	17	16	
35	01JJ2-2	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部（肥手）	C3	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 隆帯	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	17	16	SB004出土土器に同一個体有り
36	B0588	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	隆帯　キザミ	密　砂粒少ない	にぶい赤褐色／にぶい橙色／灰黄褐色	17	16	孔有り、SB004出土土器に同一個体有り
37	B2136	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突	密　砂粒多い 石英・雲母含む	黒褐色／灰黄褐色／褐灰色	17	17	外面炭化物付着
38	B2760	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	17	17	外面炭化物付着
39	A2314	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具）	粗　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／灰色／オリーブ黒色	17	17	SB004出土土器に同一個体有り
40	B1534	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰黄褐色	17	17	
41	B2049	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 隆帯（貼付）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／灰黄色／灰色	17	17	外面炭化物付着
42	B2290	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 縄文（LR）	密　砂粒少ない 長石含む	灰黄褐色／灰黄褐色／褐灰色	18	16	外面炭化物付着
43	B2266他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 縄文（RL）　隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／黒褐色	18	12	内外面炭化物付着
44	B1713	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（竹管or縄文or？） 縄文（LR）	密　砂粒少ない 長石含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	18	17	
45	B1953他	SB004	①	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（竹管）	粗　砂粒多い 石英含む	にぶい橙色／にぶい橙色／暗灰色	18	17	
46	B1365	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（LR）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／橙色／にぶい褐色	18	17	
47	B2056	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	18	17	外面炭化物付着
48	B0611他	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　縄文（RL）	密　砂粒少ない 長石含む	にぶい赤褐色／にぶい赤褐色／にぶい赤褐色	18	13	外面炭化物付着　49と同一個体　孔有り
49	B2623他	SB004	④	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　縄文（RL）	密　砂粒少ない 長石含む	にぶい赤褐色／にぶい赤褐色／にぶい赤褐色	18	13	外面炭化物付着　48と同一個体
50	B1530他	SB004		縄文土器	深鉢	底部～胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 隆帯　刺突（竹管） 縄文（RL）	密　砂粒少ない	明赤褐色／明赤褐色／明赤褐色	18	13	底部外面に網代痕　外面炭化物付着
51	B2553他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	灰褐色／にぶい橙色／褐灰色	18	17	
52	A0027-8	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	灰黄褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	18	17	SB004出土土器に同一個体有り
53	B737-1他	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突	粗　砂粒多い 石英含む	にぶい褐色／灰白色／暗灰色	18	17	外面炭化物付着
54	B2288他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁～胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（LR）　隆帯	粗　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／橙色	19	17	外面炭化物付着
55	01JJ2-1他	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 隆帯	密　砂粒少ない 石英・長石含む	にぶい橙色／橙色／橙色	19	17	SB004出土土器に同一個体有り　外面に炭化物付着
56	B2101他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁～胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 隆帯　刺突（竹管）	密　砂粒少ない 石英含む	灰褐色／橙色／褐灰色	19	17	外面炭化物付着
57	B2456	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線　縄文（RL）	密　砂粒多い	明赤褐色／橙色／にぶい橙色	19	18	外面炭化物付着
58	B2818他	SB004	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線　刺突　条線	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／浅黄橙色	19	18	外面炭化物付着
59	01JJ2-5	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（竹管）	密　砂粒多い 石英・長石含む	にぶい褐色／にぶい黄橙色／黄灰色	19	18	外面炭化物付着
60	B1382他	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 条線	密　砂粒多い 石英・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／オリーブ黒色	19	18	

表27　いじま遺跡土器観察表（3）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
61	B2695-6 他	SB004	④	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具）	密　砂粒多い	にぶい褐色／にぶい赤褐色／灰褐色	19	18	外面一部炭化物付着
62	01J2-6	TP 7		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突（格状工具） 沈線（竹管） 縄文（LR）	粗　砂粒多い 長石含む	灰黄褐色／灰褐色／褐色灰	19	18	SB004出土土器に同一個体有り　外面炭化物付着
63	A1750	D07	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 条線	粗　砂粒多い 雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい橙色／褐灰色	19	18	SB004出土土器に同一個体有り。
64	B1170	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	19	18	循状把手
65	B2691	SB004	④	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具）	密　砂粒多い 石英・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰色	19	18	外面炭化物付着
66	B0737-2 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR）	密　砂粒少ない 石英・長石含む	橙色／灰黄褐色／にぶい橙色	19	18	内面炭化物付着
67	B1374	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（格状工具） 条線	密　砂粒少ない	黒褐色／褐色／灰褐色	19	18	
68	B1292-2	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 条線	密　砂粒少ない 石英・長石含む	にぶい褐色／にぶい褐色／灰褐色	19	18	
69	B1436 他	SB004	②③	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（竹管）　条線	密　砂粒多い 石英含む	灰褐色／にぶい黄橙色／灰色	19	18	外面炭化物付着
70	A3637 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 刺突（竹管）　隆帯	密　砂粒少ない	にぶい褐色／にぶい黄橙色／暗灰色	19	18	SB004出土土器に同一個体有り
71	B2266-48	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（？）	密　砂粒多い 石英・雲母含む	褐灰／にぶい黄橙色／褐灰	19	18	
72	A4227-2	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（RL） コンパス文	密　砂粒多い 石英・雲母含む	橙色／橙色／橙色	19	19	SB004出土土器に同一個体有り　外面炭化物付着
73	B2354 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR） 沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／橙色／橙色	19	19	外面炭化物付着
74	B2402-2 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色にぶい黄橙色／灰黄褐色	19	18	
75	B2547-7 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（LR）	粗　砂粒多い 石英含む	灰黄褐色／褐灰／褐灰色	20	19	外面炭化物付着
76	B0604-2 他	SB004		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR）　沈線（格状工具）　刺突（格状工具）　隆帯	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／にぶい黄橙色	20	19	外面炭化物付着
77	B2436 他	SB004	④	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　沈線（格状工具）	密　砂粒多い	灰黄褐色／褐灰色／黒褐色	20	20	炭化物付着
78	B2048-2	SB004	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR）	粗　砂粒少ない	にぶい褐色／にぶい橙色／褐灰色	20	19	
79	B2027	SB004	②	縄文土器	深鉢	口縁部、胴部、底部の一部欠損	C5	ナデ／ナデ	縄文（L）	粗　砂粒多い 長石・石英・雲母含む	にぶい赤褐色／にぶい褐色／橙色	20	12	内外面炭化物付着
80	B2657 他	SB004	①	縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい橙色／褐灰色	21	19	外面炭化物付着 同一個体と思われる胴部片には沈線が施されている
81	A4548	SB004		縄文土器	深鉢	口縁部	C6	ナデ／ナデ	隆帯　平行沈線	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰色	21	19	SB004出土土器に同一個体有り
82	A3829 他	SB004		縄文土器	台付鉢	口縁部・胴部・底部	C6	ナデ／ナデ	隆帯　平行沈線 爪形文　縄文（LR ？）	密　砂粒少ない 長石・石英含む	橙色／にぶい褐色／にぶい褐色	21	14	内面一部炭化物付着
83	B1760 他	SB004		縄文土器	深鉢	脚台	底部	ナデ／ナデ	沈線（格状工具）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／灰黄褐色／褐灰色	21	12	内面炭化物付着　孔有り（5ヵ所）
84	B0593	SB004		縄文土器	深鉢	脚台	底部	ナデ／ナデ	沈線（格状工具）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／橙色／橙色	21	20	孔有り
85	B1043 他	SB004		縄文土器	深鉢	脚台	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／橙色	21	20	孔有り
86	B2572- 他	SB004		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（LR）	密　砂粒少ない 石英含む	明黄褐色／橙色／褐灰色	21	12	平底
87	A1791	SB004		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	沈線（格状工具） 縄文（RL）	密　砂粒少ない 長石・石英含む	明赤褐色／にぶい橙色／橙色	21	20	平底　SB004出土土器に同一個体有り
88	1963 他	SB004		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	縄文（LR）	密　砂粒少ない	にぶい赤褐色／にぶい橙色／灰褐色	21	12	平底
89	B0795	SB004	④	縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	？	密　砂粒多い 長石・石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／灰色	21	20	平底
90	B1329	SB004	③	縄文土器	深鉢	底部、胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文（LR） 沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／橙色／灰黄色	22	13	

表28　いじま遺跡土器観察表（４）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文　様	胎　土	色調 外／内／断面		図版	写真図版	備　考
91	B1163	SB004		縄文土器	土製円盤	-	-	ナデ／ナデ	縄文(RL)	密　砂粒少ない	にぶい橙色／にぶい橙色／灰色		22	19	
92	B2966	SB004＊SP006		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　条線	密　砂粒多い　長石・石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／オリーブ黒色		22	20	外面炭化物付着
93	B2932	SB004＊SP004		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　沈線（棒状工具）　刺突（棒状工具）	密　砂粒少ない	灰褐色／にぶい黄橙色／褐灰色		22	20	外面炭化物付着
94	B2865	SB004＊SP056		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	縄文(RL)　沈線	密　砂粒少ない　石英含む	橙色／橙色／橙色		22	17	
95	B2895	SB004＊SP054		縄文土器	深鉢	胴部	C4？	ナデ／ナデ	縄文(RL)	密　砂粒少ない　石英含む	橙色／橙色／黄灰色		22	20	
96	B2855	SB004＊SP054		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　刺突（竹管）　爪赤文	密　砂粒少ない　石英含む	黒褐色／にぶい黄橙色／黄灰色		22	20	
97	B2863	SB004＊SP054		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　縄文(LR)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい褐色／にぶい橙色／にぶい橙色		22	20	外面炭化物付着
98	B2946-8他	SB003＊SP005		縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　縄文(LR)	密　砂粒多い　長石・石英含む	にぶい橙色／橙色／にぶい黄橙色		22	14	
99	B1501	SB005		縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	刺突（棒状工具）　沈線（棒状工具）	密　砂粒少ない	褐色／橙色／にぶい褐色		22	15	
100	B2466	SB005	②	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突（棒状工具）　沈線（棒状工具）　隆帯	密　砂粒多い	褐色／明赤褐色／にぶい橙色		22	15	外面炭化物付着
101	B1502	SB005		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	密　砂粒多い	にぶい橙色／にぶい橙色／灰褐色		22	15	C２群の可能性あり
102	B2805	SB005		縄文土器	深鉢	胴部～胴部	C1	ナデ／ナデ	爪赤文　平行沈線　コンパス文	密　砂粒多い　雲母含む	橙色／橙色／褐灰色		22	15	外面炭化物付着
103	B0706-3	SB005		縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	縄文(L)	密　砂粒多い	灰白色／灰褐色／灰褐色		22	15	
104	B2804	SB005	①	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	爪赤文	粗　砂粒多い　雲母・石英含む	にぶい褐色／灰褐色／にぶい褐色		22	15	
105	B2869	SB002＊SP040		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文(山形文)　押し引き	密　砂粒少ない	橙色／褐灰色／にぶい赤褐色		22	15	
106	B2871	SB002＊SP038		縄文土器	深鉢	口縁部	C2？	ナデ／ナデ	沈線	密　砂粒多い	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／浅黄橙色		22	15	
107	B2189-3	SB006		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	条線	密　砂粒少ない　石英含む	灰褐色／黒色／灰褐色		22	15	内外面炭化物付着
108	B0029	SI002		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　押し引き	粗　砂粒多い　雲母含む	にぶい黄橙色／橙色／にぶい黄橙色		23	20	
109	B0043	SI002		縄文土器	深鉢	胴部	C4？	ナデ／ナデ	縄文(RL)	粗　砂粒多い	橙色／橙色／橙色		23	20	
110	B0047	SI002		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	縄文(RL)　沈線	粗　砂粒多い	明赤褐色／明赤褐色／赤灰色		23	20	
111	B0045	SI002		縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	無文	粗　砂粒多い	橙色／黒褐色／黒色		23	20	内面炭化物付着
112	B1987	SI004		縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	－	密　砂粒少ない	黒褐色／にぶい黄褐色／黒褐色		23	20	
113	B0067	SK021		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	密　砂粒多い	にぶい黄橙色／灰白色／褐灰色		23	21	
114	B0212	SK026		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	縄文(LR)　沈線（棒状工具）	密　砂粒多い	灰褐色／灰黄褐色／褐灰色		23	21	
115	B0121	SK026		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	無文	粗　砂粒多い	浅黄橙色／淡橙色／明褐灰色		23	21	
116	B0331	SK028		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　隆帯	粗　砂粒多い　石英・雲母含む	にぶい橙色／橙色／浅黄橙色		23	21	
117	B0359	SK029		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	刺突（棒状工具）　縄文（不明）	密　砂粒多い　石英含む	褐色／褐色／褐色		23	21	
118	B0258	SK034		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	刺突　沈線（棒状工具）	粗　砂粒多い　雲母含む	橙色／にぶい橙色／黒褐色		23	21	
119	B0387-2他	SK038		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　縄文（不明）	密　砂粒多い　雲母含む	にぶい褐色／にぶい橙色／褐灰色		23	21	
120	B0281	SK041		縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	縄文（縄条縄文）	密　砂粒少ない	にぶい褐色／灰褐色／明褐色		23	21	外面上部炭化物付着
121	B0493	SK062		縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　隆帯	密　砂粒多い	灰黄褐色／浅黄橙色／褐灰色		23	21	
122	B0494	SK065		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）　条線	密　砂粒多い	橙色／黒褐色／褐灰色		23	21	内外面炭化物付着
123	B0511	SOK65		縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文（不明）	密　砂粒多い	明赤褐色／にぶい褐色／褐灰色		23	21	外面炭化物付着
124	B0456	SK061		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	押し引き	密　砂粒多い	にぶい黄橙色／灰黄褐色／黒色		23	21	

表29　いじま遺跡土器観察表（5）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
125	B0495	SK061		縄文土器	深鉢	頸部	C1	ナデ／ナデ	交互刺突　撚糸文	密　砂粒少ない	にぶい橙色／褐灰色／灰褐色	23	21	外面炭化物付着
126	B0501	SK061		縄文土器	深鉢	頸部	C1	ナデ／ナデ	沈線　撚糸文	密　砂粒少ない	灰褐色／にぶい橙色／にぶい橙色	23	21	外面炭化物付着
127	B0537	SK073		縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	縄文(LR)	粗　砂粒多い	にぶい橙色／にぶい橙色／褐灰色	23	21	外面炭化物付着
128	B1224	SK135		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)　縄文(RL)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／灰色	23	21	外面炭化物付着
129	B0663他	SK124		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない　石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい黄褐色／黒灰色	23	21	内外面炭化物付着
130	B2000	SK137		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突(竹管)　沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黒褐色	23	21	内外面炭化物付着
131	B2113	SK154		縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい橙色／褐灰色	23	21	外面炭化物付着
132	B2087	SK158		縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	−	密　砂粒少ない　石英含む	明褐色／褐灰色／褐灰色	23	21	
133	B2177	SK159		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)　隆帯	密　砂粒少ない　石英・雲母含む	にぶい黄褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	23	21	外面炭化物付着
134	B2166	SK159		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)　縄文(LR)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	23	21	内外面炭化物付着
135	B2020他	SK162		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	23	21	外面炭化物付着
136	B2190	SK160		縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒少ない　石英含む	橙色／にぶい橙色／にぶい黄橙色	23	21	外面炭化物付着
137	B0457	SR003		縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文(不明)	粗　砂粒多い	橙色／黒褐色／にぶい橙色	23	20	内面炭化物付着
138	B2164	SR006		縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯	密　砂粒少ない　雲母含む	灰褐色／にぶい橙色／黒褐色	23	20	外面炭化物付着
139	A4727	E4	V	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文(山形文)	密　砂粒少ない	褐色／橙色／橙色	24	22	外面炭化物付着
140	A4294	K7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文	密　砂粒少ない　石英・長石含む	にぶい褐色／橙色／灰色	24	22	
141	A3792	E5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文(山形文)　押引き	密　砂粒多い　石英含む	明赤褐色／赤褐色／明赤褐色	24	22	
142	A3021	E6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文	粗　砂粒多い	明赤褐色／橙色／褐色	24	22	
143	01IJ-51	TP7拡張区	③	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文(山形文)　押し引き 沈線	密　砂粒少ない	にぶい褐色／灰褐色／灰褐色	24	22	
144	A4740	D5	V	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	刺突　凹線	密　砂粒多い	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	24	22	
145	A2941	F5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	沈線	密　砂粒少ない	橙色／にぶい橙色／褐色	24	22	
146	A3794	E5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	刺突(棒状工具)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい褐色／灰黄褐色	24	22	外面炭化物付着
147	A4693	J7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	不明	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	24	22	
148	A3070	B6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	沈線　縄文(不明)	密　砂粒多い	灰褐色／にぶい褐色／褐灰色	24	22	内外面炭化物付着
149	A4732-2他	E5	V	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	−	密　砂粒少ない　石英含む	褐色／褐色／黒褐色	24	22	150と同一個体
150	A4295他	J7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	−	密　砂粒少ない　石英・長石含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	24	22	149と同一個体
151	A0525他	E5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	早期	ナデ／ナデ	刺突(竹管)　縄文(LRL)	密　砂粒少ない　石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／褐色	24	13	内面炭化物付着
152	A3857	B7	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	縄文(不明)	密　砂粒多い　雲母含む	暗赤褐色／明赤褐色／にぶい赤褐色	24	22	外面炭化物付着
153	A2967-2	E5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	縄文(不明)	密　砂粒少ない	暗褐色／暗褐色／褐色	24	22	内外面炭化物付着
154	A4252	D7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文(LR)	密　砂粒多い	にぶい赤褐色／にぶい赤褐色／明赤褐色	24	22	
155	A3688他	C5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	底部	早期	ナデ／ナデ	縄文(LR)	密　砂粒少ない	明赤褐色／にぶい赤褐色／灰褐色	24	22	
156	A4640	A7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文(羽状・RL・LR)	密　砂粒多い　雲母含む	黒褐色／灰褐色／にぶい褐色	24	22	
157	A3972	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	縄文(羽状・RL・LR)	密　砂粒多い	明赤褐色／橙色／にぶい褐色	24	22	
158	A3213	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	前期	ナデ／ナデ	特殊突帯文　縄文(不明)	密　砂粒少ない	明黄褐色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	24	22	

表30　いじま遺跡土器観察表（６）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
159	94J132他	TP6		縄文土器	深鉢	胴部	前期	ナデ／ナデ	縄文(RL)　突帯文	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／橙色／にぶい黄橙色	24	22	
160	94J30他	TP7		縄文土器	深鉢	胴部	前期	ナデ／ナデ	特殊突帯文 縄文(RL)	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄褐色	24	22	
161	94J121他	TP7		縄文土器	深鉢	胴部	前期	ナデ／ナデ	特殊突帯文 縄文(RL)	密　砂粒少ない	灰褐色／にぶい褐色／黒褐色	24	22	
162	A1067	D6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	前期	ナデ／ナデ	爪形文(C字形) 縄文(LR)	密　砂粒少ない	にぶい橙色／橙色／灰黄褐色	24	22	
163	A0079	D5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	コンパス文 撚糸文	粗　砂粒多い 石英含む	にぶい橙色／灰色／灰色	24	23	外面炭化物付着
164	A1838	C7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	撚糸文　平行沈線	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	褐色／褐色／褐色	24	23	
165	94J114他	TP7		縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(棒状工具) 撚糸文	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	24	23	
166	A1535	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(棒状工具) 撚糸文	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	黄灰色／橙色／黄灰色	24	23	
167	A1368	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	コンパス文 撚糸文 平行沈線	密　砂粒多い	暗褐色／褐色／灰色	24	23	
168	94J111他	TP7		縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	撚糸文 平行沈線	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／暗灰色	24	23	外面炭化物付着
169	94J129他	TP7		縄文土器	深鉢	胴部	C2	ナデ／ナデ	隆帯　沈線 押し引き	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／橙色／暗灰色	24	23	
170	A0411	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	隆帯 刺突(棒状工具) 沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄褐色／黒褐色	24	23	171と同一か？
171	A3076	B6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部 下段	C2	ナデ／ナデ	隆帯　刺突(棒状工具)　爪型文	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい褐色／黒褐色	24	23	170と同一か？
172	94J172他	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 縄文(RL)	密　砂粒多い 石英・長石含む	にぶい黄橙色／灰黄色／黒褐色	24	23	
173	A4571他	K10	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C1	ナデ／ナデ	撚糸文　平行沈線	密　砂粒少ない	にぶい橙色／にぶい橙色／にぶい橙色	25	23	
174	A2498	E8	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C1	ナデ／ナデ	隆帯　刺突(竹管) 金線	密　砂粒多い	橙色／褐灰色／にぶい橙色	25	23	外面炭化物付着
175	A3535	C6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	隆帯　ソーメン状隆帯　爪形文 沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい橙色／黒褐色	25	23	
176	A2097	J9	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	25	23	
177	01J11-14	TP13		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	猫状把手 押し引き(棒状工具) 沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない	にぶい褐色／橙色／灰色	25	23	
178	A1610他	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 押し引き　隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	灰褐色／にぶい赤褐色／黒褐色	25	24	
179	A4503	C7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	隆帯　刺突 爪形文	密　砂粒少ない 雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／暗灰色	25	24	
180	A3515他	C7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)	密　砂粒多い 石英含む	暗灰色／褐灰色／暗灰色	25	24	
181	A1472	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(棒状工具)	密　砂粒少ない 雲母・石英含む	にぶい褐色／にぶい橙色／黒褐色	25	24	
182	A0662	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／灰色	25	24	内外面炭化物付着
183	94J124	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／にぶい黄橙色／黒色	25	24	
184	94J132他	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線	密　砂粒少ない 雲母含む	にぶい橙色／にぶい褐色／黒褐色	25	24	
185	94J110	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(竹管)	密　砂粒少ない 石英・長石・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黒色	25	24	
186	A3239	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	刺突(竹管)	密　砂粒少ない 石英含む	黒褐色／橙色／にぶい褐色	25	24	
187	A4511他	C7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	頸部～胴部	C2	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい褐色／暗灰色	25	24	内外面炭化物付着
188	A0641	C7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	沈線　刺突	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／暗灰色	25	24	
189	A3478	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(棒状工具)	密　砂粒少ない 長石含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰色	25	24	
190	A3257他	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	隆帯　キザミ	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい橙色／にぶい橙色／暗灰色	25	24	

表31　いじま遺跡土器観察表（７）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
191	A3601			縄文土器	深鉢	口縁部下段	C3	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 隆帯　押し引き（棒状工具）	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	25	24	C2群の可能性もある
192	A4622他	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 刺突（棒状工具） キザミ（棒状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／灰色	26	24	外面炭化物付着
193	A0809他	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C2	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 押し引き（棒状工具）	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	灰黄褐色／灰黄褐色／黒褐色	26	25	外面炭化物付着
194	94IJ121	TP6		縄文土器	深鉢？	口縁部	C3	ナデ／ナデ	押し引き（棒状工具）	密　砂粒少ない	明赤褐色／黒褐色／黒褐色	26	24	
195	A2583他	D6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C3	ナデ／ナデ	押し引き（棒状工具）沈線（棒状工具） 隆帯	密　砂粒多い 石英・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／オリーブ黒色	26	25	外面炭化物付着
196	A3476他	B7	Ⅲ他	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線　縄文（LR）	密　砂粒多い	灰褐色／明褐色／橙色	26	25	別の同一個体には隆帯あり　外面炭化物付着
197	94IJ170他	TP6		縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 隆帯	粗　砂粒多い 石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／暗灰黄色	26	25	
198	A2979	D6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　縄文（RL）	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／橙色／にぶい黄橙色	26	25	
199	A2463	K10	Ⅲ上	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突（棒状工具） 沈線　隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	浅黄色／黄灰色／黄灰色	26	25	内面炭化物付着
200	A0213	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 縄文（LR）	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	26	25	
201	A0095	D5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 縄文（LR） 刺突（竹管）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい褐色／　にぶい橙色／褐灰色	26	25	外面炭化物付着
202	A2624	E8	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突（棒状工具） 沈線（棒状工具） 隆帯	密　砂粒少ない	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	26	25	
203	A3900-50			縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯 爪形文（半截竹管）	密　砂粒少ない 石英含む	明黄褐色／にぶい黄橙色／灰黄褐色	26	25	
204	A4550	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	隆帯 爪形文（半截竹管） 沈線（半截竹管）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黄灰色	26	25	
205	A2351-1	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	粗　砂粒多い 石英含む	橙色／にぶい黄橙色／褐灰色	26	25	外面炭化物付着
206	A4007	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 縄文（RL）	密　砂粒少ない 石英含む	浅黄色／淡黄色／黄灰色	26	25	
207	A0693-2他	C6他	Ⅱ他	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 刺突（棒状工具） 縄文（RL）	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／にぶい橙色	26	25	内面炭化物付着
208	A3823他	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具） 縄文（RL）	密　砂粒多い 石英含む	明黄褐色／明黄褐色／にぶい黄橙色	26	25	外面炭化物付着
209	A3083	B6	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	C4	ナデ／ナデ	刺突（竹管） 隆帯　沈線	粗　砂粒多い 雲母・石英含む	にぶい橙色／浅黄橙色／黒褐色	26	26	
210	A2024	B6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線　撚糸文	密　砂粒多い	橙色／明褐色／浅黄橙色	26	26	外面炭化物付着
211	A2494	D5	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	密　砂粒多い	灰黄褐色／にぶい黄橙色／褐灰色	26	26	外面炭化物付着
212	A3479	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線（棒状工具）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい褐色／にぶい橙色／褐灰色	26	26	外面炭化物付着
213	A3102	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線　条線	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／にぶい橙色	26	26	外面炭化物付着
214	A4163	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	押し引き	密　砂粒少ない	にぶい橙色／にぶい橙色／にぶい橙色	26	26	
215	A4652	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	隆帯　沈線　条線	密　砂粒多い	橙色／にぶい橙色／褐灰色	26	26	外面炭化物付着
216	A3495-2他	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線　条線	密　砂粒多い 石英含む	灰黄褐色／褐色／にぶい褐色	26	26	内外面炭化物付着
217	A3511	B7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	条線	密　砂粒多い	灰黄褐色／灰黄褐色／褐灰色	26	26	外面炭化物付着
218	A2836-4	F8	表土	縄文土器	深鉢	胴部	C4	ナデ／ナデ	沈線　条線	密　砂粒多い	にぶい橙色／橙色／にぶい橙色	26	26	
219	A0356	D6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	縄文（LR？）	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／暗灰黄色	26	27	
220	A3875-11	B7	表土	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文（L）	密　砂粒少ない	にぶい黄褐色／橙色／にぶい褐色	26	27	
221	A1970-3他	D6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒多い 石英含む	にぶい褐色／にぶい黄褐色／黒褐色	26	27	外面炭化物付着
222	01IJ279他	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	縄文（LR）	密　砂粒多い 雲母含む	にぶい橙色／褐灰色／黒褐色	27	27	

表32　いじま遺跡土器観察表（８）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
223	A0438-2他	D5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文(RL)	粗　砂粒少ない	にぶい黄橙色／橙色／にぶい橙色	27	27	外面炭化物付着
224	A0424	D5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒多い 石英含む	にぶい褐色／にぶい褐色／にぶい褐色	27	27	
225	A2127	D6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい橙色／橙色／浅黄色	27	27	外面炭化物付着
226	A3845-64	B7	表土	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文(縄巻縄文)	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／灰黄褐色／灰黄褐色	27	27	
227	A4212	A7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	縄文(LR)	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい赤褐色／暗灰黄色／黄灰色	27	27	
228	A4602	A7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい褐色／にぶい黄橙色／黒褐色	27	27	
229	A1029	B6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒多い 石英含む	明赤褐色／明黄褐色／褐灰色	27	27	
230	A3114	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒少ない 長石・雲母含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黒褐色	27	26	
231	A3589	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒多い 雲母含む	黒褐色／褐色／黒褐色	27	26	外面炭化物付着
232	A1030	B6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒多い 長石含む	橙色／浅黄色／灰褐色	27	26	
233	A0961他	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒多い 雲母含む	褐色／黒褐色／灰褐色	27	26	外面炭化物付着
234	94J136	TP7		縄文土器	深鉢	口縁部	C5	ナデ／ナデ	無文	密　砂粒多い 長石・石英含む	灰褐色／にぶい褐色／黄灰色	27	26	
235	A1177	E8	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	C6	ナデ／ナデ	隆帯　平行沈線(半截竹管) 爪形文(半截竹管)	密　砂粒多い 石英含む	にぶい橙色／にぶい黄橙色／灰黄色	27	26	
236	94J84	TP6		縄文土器	深鉢	口縁部	C6	ナデ／ナデ	刺突　隆帯	密　砂粒多い 石英含む	橙色／橙色／橙色	27	26	
237	A2916	D5	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	C6	ナデ／ナデ	沈線？ 刺突(棒状工具)	密　砂粒多い 雲母含む	黒褐色／黒褐色／にぶい黄褐色	27	26	
238	A3875-15	B7	表土	縄文土器	深鉢	胴部	C6	ナデ／ナデ	平行沈線　隆帯	密　砂粒多い	にぶい黄橙色／にぶい橙色／明褐色	27	26	
239	A0286	D5	Ⅱ	縄文土器	浅鉢	口縁部	C6	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 刺突(棒状工具) 隆帯	密　砂粒少ない	にぶい黄褐色／灰黄褐色／灰黄褐色	27	26	
240	A4521	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	時期不明	ナデ／ナデ	縄文(LR)　隆帯 刺突(棒状工具)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい褐色／にぶい褐色	27	13	241・242・243と同一個体
241	A0880他	B6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	口縁部	時期不明	ナデ／ナデ	縄文(LR) 刺突(棒状工具)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	褐色／にぶい褐色／褐色	27	13	240・242・243と同一個体 孔有り
242	A3075			縄文土器	深鉢	胴部	時期不明	ナデ／ナデ	縄文(LR)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい褐色／にぶい褐色	27	13	240・241・243と同一個体
243	A4516	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	時期不明	ナデ／ナデ	縄文(LR)	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	にぶい褐色／にぶい褐色／にぶい褐色	27	13	240・241・242と同一個体
244	94J122他	TP6他		縄文土器	浅鉢	口縁部	C6	ナデ／ナデ	沈線(棒状工具) 隆帯	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／にぶい黄橙色	27	26	
245	A3412	B7	Ⅱ	縄文土器	土製円盤	－	－	ナデ／ナデ	撚糸文	密　砂粒少ない 雲母含む	にぶい褐色／にぶい褐色／にぶい褐色	27	27	
246	A1393	O7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／黒色	27	27	平底
247	A2491	E8	Ⅱ	縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい黄橙色／灰黄褐色／灰黄褐色	27	27	内面炭化物付着　平底
248	A0429他	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒多い 石英含む	灰黄褐色／褐灰色／黒色	27	27	平底
249	94J166	TP7		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒少ない	にぶい黄褐色／にぶい黄褐色／黒色	27	27	上げ底
250	A0319	C6	Ⅱ	縄文土器	深鉢	脚台	底部	ナデ／ナデ	隆帯　刺突(？)	密　砂粒少ない 石英含む	橙色／橙色／にぶい橙色	27	12	内面炭化物付着　脚台付き
251	A2916	B7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	脚台	底部	ナデ／ナデ	孔	密　砂粒多い 石英含む	にぶい黄橙色／にぶい黄橙色／浅黄橙色	27	27	脚台
252	94J287他	TP7		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	隆帯	密　砂粒多い	橙色／浅黄橙色／褐灰色	27	27	平底
253	94J204他	TP7		縄文土器	深鉢	底部	底部	ナデ／ナデ	－	密　砂粒少ない	明赤褐色／明赤褐色／明赤褐色	27	27	底部外面にスダレ状圧痕あり　平底　出土状況より SB004と判断した

表33　いじま遺跡旧石器計測表

No.	器種	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量				図版	写真図版	備考
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
254	台形石器	A0084-3	D5	表土	チャート	32	25	7	7.2	28	28	
255	尖頭器	A3785	F2	Ⅳ	チャート	(42)	21	8	6.3	28	28	

表34　いじま遺跡石鏃計測表(未製品も含む)

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量				抉深(mm)	分類	図版	写真図版	備考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)					
256	B0217	SB002		チャート	26	26	6	2.7	1	未製品	28	28	
257	B0476	SB003		チャート	15	16	5	0.9	2	凹基	28	28	
258	B0578	SB004		チャート	20	16	6	1.9	−	平基	28	28	尖頭部欠
259	B1672	SB004	②	チャート	25	18	6	1.7	−	平基	28	28	基部一部欠
260	B0297	SB002	④	チャート	19	18	5	0.9	4	凹基	28	28	先端部欠
261	B0946	SB004	④	チャート	19	14	5	1.1	1	凹基	28	28	
262	B0630	SB004		チャート	(18)	(15)	6	0.6	5	凹基	28	28	脚部一部欠
263	B2740	SB004	②	チャート	(17)	16	3	0.6	5	凹基	28	28	先端部欠
264	B1415	SB004	④	チャート	16	13	5	0.5	3	凹基	28	28	先端部欠
265	B1405	SB004	③	チャート	28	19	4	1.4	5	凹基	28	28	
266	B1293	SB004	④	チャート	(19)	17	4	0.8	4	凹基	28	28	尖頭部欠
267	B2111	SB004	②	チャート	(19)	(17)	4	0.9	4	凹基	28	28	脚部一部欠
268	B0261	SK034		チャート	(20)	14	5	0.9	2	凹基	28	28	尖頭部欠
269	B0389	SK039		チャート	28	17	5	2.0	1	凹基	28	28	
270	B0715	SK124		チャート	17	16	4	0.5	2	凹基	28	28	
271	A4092	B7	Ⅱ	チャート	(32)	20	6	3.3	−	平基	28	28	尖頭部欠
272	A0026-2	J8	表土	チャート	20	15	6	1.3	−	有基	28	28	
273	A0115	K8	表土	安山岩	16	15	4	0.5	4	凹基	28	28	
274	79	TP8		下呂石	16	14	4	0.4	4	凹基	28	28	
275	A2397	D6	Ⅲ上	チャート	18	17	5	0.8	3	凹基	28	28	
276	A1293	K9	Ⅲ	チャート	25	17	6	1.4	2	凹基	28	28	
277	A4772	B7		チャート	31	17	5	1.5	7	凹基	28	28	
278	A1262-2	J10	表土	チャート	27	24	5	4.6	−	未製品	28	28	

表35　いじま遺跡石錐計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法量				図版	写真図版	備考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
279	B0414	SB002	①	チャート	36	15	14	3.0	29	28	先端部摩滅
280	B1791	SB004	③	チャート	25	21	13	3.5	29	28	
281	B2893	SP054		チャート	46	30	9	8.5	29	28	
282	B2508	SB005	①	チャート	29	17	7	3.0	29	28	
283	B2193	SB006	④	チャート	34	16	8	4.3	29	28	先端部欠
284	B0259	SK034		チャート	(27)	17	5	2.0	29	28	先端部摩滅
285	92	94IJ TP9		黒曜石	22	20	7	2.0	29	28	先端部欠
286	A1012	C5	Ⅱ	チャート	26	14	6	2.4	29	28	

表36　いじま遺跡楔形石器計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
287	B0418	SB002	①	チャート	30	29	7	6.9	29	28	
288	B2641	SB004	④	チャート	26	26	8	6.0	29	28	
289	B0699	SB005		チャート	37	52	12	18.5	29	28	
290	B2080	SB004	②	チャート	29	20	11	6.1	29	28	
291	A2403	C7	Ⅲ	チャート	27	28	10	7.3	29	28	
292	A3818	E5	Ⅲ	チャート	30	36	11	10.5	29	28	
293	A3811	E5	Ⅲ	チャート	27	30	11	7.7	29	28	

表37　いじま遺跡石匙計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	形状	法　量				刃部調整	図版	写真図版	備　考
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
294	B1747	SB004	②	チャート	横長	34	43	5	6.7	背面	30	28	
295	A4741	D5	Ⅴ	チャート	横長	30	44	7	5.8	両面	30	28	
296	A2594	E7	Ⅲ上	チャート	横長	40	65	12	21.3	両面	30	28	
297	A4447	D6	Ⅲ	石英斑岩	横長	35	45	10	12.5	両面	30	28	
298	12	94IJ TP6		サヌカイト	横長	(34)	(44)	6	5.8	腹面	30	28	刃部一部欠

表38　いじま遺跡スクレイパー計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	素材	法　量				刃部調整	図版	写真図版	備　考
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
299	B0152	SB002		チャート	縦長	30	20	8	4.4	背面	30	29	
300	B0403	SB002	③	チャート	横長	27	49	9	6.8	背面	30	29	
301	B0519	SB003	③	チャート	縦長	43	47	11	18.2	背面	30	29	
302	B0388	SK049		チャート	縦長	45	29	10	3.8	腹面	30	29	
303	B2400	SB004	④	チャート	縦長	44	27	10	8.1	両面	31	29	
304	B0631	SB004	④	チャート	不明	47	40	15	17.9	背面	31	29	
305	B1291	SB004	③	チャート	横長	34	37	8	9.9	両面	31	29	
306	B1591	SB004	②	チャート	縦長	30	30	11	5.3	背面	31	29	
307	B2904	SP045		チャート	縦長	61	50	19	63.6	腹面	31	29	
308	B0361	SK029		チャート	縦長	80	57	20	101.5	背面	31	29	
309	B0263	SK034		チャート	横長	28	60	11	13.8	両面	31	29	
310	B1996	SK152		チャート	不明	32	31	7	10.8	両面	31	29	
311	A4735	E5	Ⅴ	チャート	横長	53	79	16	41.2	背面	32	29	石匙？
312	A1004-4	J9	表土	チャート	縦長	49	49	15	30.6	両面	32	29	
313	A3182	B7	Ⅲ	チャート	不明	20	25	6	2.7	背面	32	29	
314	A1085	D7	Ⅱ	チャート	縦長	55	56	13	38.0	背面	32	29	
315	A4405	D7	Ⅲ	チャート	縦長	58	61	21	76.3	背面	32	29	
316	94IJ36	TP7		チャート	不明	29	30	9	10.1	両面	32	29	
317	A3445	D6	Ⅲ	チャート	縦長	31	14	4	2.1	腹面	32	29	
318	A0594	D6	Ⅱ	安山岩	横長	61	116	17	119.5	背面	33	29	

表39　いじま遺跡ヘラ形石器計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
319	A2530-1	F7	表土	チャート	21	21	9	3.1	33	29	

表40　いじま遺跡ＲＦ計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
320	B0421	SB002	①	チャート	29	38	11	10.7	33	29	
321	B1898	SB004	①	チャート	19	38	11	4.1	33	29	
322	B1590	SB004	②	チャート	24	29	9	7.2	33	29	
323	B2194	SB006	②	チャート	62	29	12	21.2	33	29	
324	B0531	SP022		チャート	44	40	16	20.8	33	29	

表41　いじま遺跡ＵＦ計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	素材	法　量				図版	写真図版	備　考
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
325	B0407	SB002	①	チャート	横長	40	47	15	16.8	33	29	
326	B0707	SB005		チャート	縦長	35	27	7	6.0	33	29	
327	B1354	SB004	②	チャート	横長	34	38	17	12.1	34	29	
328	B2866	SP058		チャート	不明	22	33	8	5.2	34	29	
329	B2201	SB006		チャート	横長	27	41	10	6.4	34	29	
330	B1582	SK087		チャート	横長	30	44	11	8.0	34	29	
331	B2130	SK150		チャート	横長	37	40	17	16.8	34	29	
332	B2003	SK157		チャート	横長	33	43	15	10.4	34	29	
333	B2143	SR007		チャート	横長	24	39	12	7.7	34	29	

表42　いじま遺跡打製石斧計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法　量				平面形	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
334	12-2	01IJ TP13		安山岩	89	45	26	113.1	バチ	34	30	
335	A3378	B6	Ⅲ	安山岩	119	55	32	216.1	短冊	34	30	
336	A2271	C7	Ⅲ	泥岩	162	75	14	240.9	バチ	35	30	
337	B0903	SB004	④	砂岩	138	64	32	343.9	短冊	35	30	

表43　いじま遺跡異形石器計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
338	B0822	SB004	④	サヌカイト	24	20	5	1.2	35	29	

表44　いじま遺跡石核計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	素材	自然面	打面数	打面状態	作業面	質量(g)	図版	写真図版	備　考
339	B0551	SB004		チャート	自然面を広く有する分割礫	有	4	自然面1 節理面1 剥離面2	3	237.6	35	29	
340	B2746	SB004	④	チャート	分割礫		2	剥離面2	2	17.9	36	29	
341	48	04IJ TP7		チャート	分割礫		1	節理面1	3	13.1	36	29	

表45　いじま遺跡磨製石斧計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
342	B1901	SB004	①	蛇紋岩	107	56	23	197.5	36	30	
343	B1289	SB004	③	蛇紋岩	42	26	9	17.6	36	30	
344	B1722	SB004	②	蛇紋岩	89	40	18	116.8	36	30	
345	A3438	J8	Ⅲ	安山岩	(65)	(53)	18	9.0	36	30	
346	B2032	SK160		蛇紋岩	83	41	17	104.8	36	30	

表46　いじま遺跡磨石・凹石・敲石計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法　量				磨面	凹	敲打痕	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)						
347	A2768	F7	Ⅲ	ドレライト	78	44	26	117.9			1	37	30	
348	B2047	SB004	④	砂岩	86	82	54	508.9		1	1	37	30	
349	B0771	SB004	③	流紋岩質凝灰岩	112	87	56	712.7		1	1	37	30	
350	A2710	E8	Ⅲ	安山岩	149	52	28	315.2	1		1	37	30	

表47　いじま遺跡石皿計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
351	B0264	SK026		安山岩	320	364	72	11800	37	31	
352	54	01IJ TP13 遺構⑧南壁		安山岩	229	351	92	9800	38	31	

表48　いじま遺跡砥石計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
353	B0438	SB002	③	砂岩	75	28	17	55.6	38	31	

表49　いじま遺跡石棒計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
354	48	01IJ TP13 遺構⑧		安山岩	263	136	119	5800	38	28	SK156と考えられる。折れた後被熱

表50　いじま遺跡石錘計測表(1)

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法　量				打欠	切目	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)					
355	B1346	SB004	④	砂岩	(38)	39	15	29.9	○		38	31	
356	B0236	SK034		安山岩	53	40	9	27.8	○		38	31	
357	A2065	D7	Ⅱ	砂岩	39	25	8	10.6	○		38	31	
358	A4587	D7	Ⅲ	安山岩	45	39	16	34.4	○		38	31	
359	B0308	SB002	②	砂岩	45	40	14	33.5		○	39	31	
360	B1056	SB004	①	砂岩	44	35	9	21.0		○	39	31	
361	B1398	SB004	②	砂岩	42	21	12	16.2		○	39	31	
362	B1245	SB004	②	砂岩	31	25	10	10.0		○	39	31	

表51　いじま遺跡石錘計測表（２）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量				打欠	切目	図版	写真図版	備考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)					
363	B2300	SB004	④	砂岩	51	23	8	13.8		○	39	31	
364	B0130	SK032		安山岩	43	25	11	18.2		○	39	31	
365	B0204	SK034		砂岩	43	39	9	20.4	○	○	39	31	
366	B0344	SK047		砂岩	40	28	11	16.0		○	39	31	
367	B0491	SK061		安山岩	60	31	13	32.5		○	39	31	
368	B0467	SK063		砂岩	38	27	13	16.5		○	39	31	
369	B1088	SK133		砂岩	40	26	17	22.7		○	39	31	
370	B2007	SK157		珪質泥岩	36	25	9	11.5		○	39	31	
371	B2116	SR006		砂岩	30	22	12	9.4		○	39	31	
372	A2842-1	F6	表土	ドレライト	55	45	25	80.5		○	39	31	
373	A3051	C6	Ⅲ	砂岩	54	40	13	35.7	○	○	39	31	
374	A0437	D5	Ⅱ	安山岩	67	44	23	57.7		○	39	31	

表

【櫨原神向遺跡】

表52　幡原神向遺跡　焼土一覧

遺構№	地区	検出層位	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物	備　考 (切り合い関係など)
SF001	J11	Ⅲ	円形	0.50	0.46	0.40	0.35	0.20	N42°W		
SF002	O8	Ⅲ	円形	0.58	0.55	0.38	0.34	0.27	N65°W		
SF003											欠番
SF004	H11	Ⅲ	楕円形	0.70	0.53	0.58	0.45	0.15	N65°E		
SF005	H11		楕円形	1.28	0.72	1.10	0.62	0.35	N3°W		

表53　幡原神向遺跡　配石・集石遺構一覧

遺構№	調査区	地区	検出面	土坑平面形	土坑規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	長軸方位	出土遺物	備　考 (切り合い関係など)
SI01	5区	I11	Ⅲ	楕円形	1.58	1.13	1.41	0.97	0.21	N89°W		
SI02	5区	K9	Ⅲ	円形	0.97	0.91	0.90	0.82	0.21	N69°W		
SI03	5区	L8	Ⅲ	楕円形	0.90	0.71	0.86	0.69	0.18	N61°W		
SI04	4区	L6	Ⅲ	円形	1.08	0.93	0.97	0.87	0.14	N9°W	土器:早期(3)	
SI05	4区	L3	Ⅲ	楕円形	1.26	0.84	1.18	0.78	0.12	N35°W		
SI06	4区	J5	Ⅲ	楕円形	2.51	1.78	2.46	1.74	0.09	N60°E		

表54　幡原神向遺跡　土坑一覧(1)

遺構№	調査区	地区	検出面	平面形	規模(m) 上面 長軸	上面 短軸	下面 長軸	下面 短軸	深さ	主軸方位	出土遺物	備　考 (切り合い関係など)
SK001	5区	I12	Ⅲ層基底面	円形	0.63	0.60	0.37	0.15	0.28	N78°W		
SK002												欠番
SK003												欠番
SK004	5区	I13	Ⅲ層基底面	円形	0.65	0.60	0.57	0.47	0.15	N45°W		
SK005	5区	K12	Ⅲ層基底面	円形	0.52	0.39	0.39	0.31	0.69	N°E		
SK006	5区	O12	Ⅲ層基底面	不整円形	1.58	1.14	1.44	1.01	0.27	N55°W		
SK007	5区	K11	Ⅲ層基底面	楕円形	0.71	0.57	0.54	0.42	0.26	N34°E		
SK008	5区	J10	Ⅲ層基底面	楕円形	0.78	0.58	0.68	0.51	0.31	N31°E		
SK009	5区	J10	Ⅲ層基底面	円形	0.46	0.42	0.35	0.27	0.37	N6°E		
SK010	5区	J10	Ⅲ層基底面	円形	0.77	0.68	0.61	0.56	0.39	N19°E		
SK011	5区	J10	Ⅲ層基底面	円形	0.54	0.52	0.43	0.36	0.28	N48°W		
SK012	5区	J10	Ⅲ層基底面	円形	0.37	0.33	0.28	0.27	0.26	N61.5°W		
SK013	5区	K10	Ⅲ層基底面	円形	0.61	0.60	0.27	0.25	0.26	N90°E		
SK014	5区	M09	Ⅲ層基底面	楕円形	0.59	0.46	0.46	0.34	0.24	N83°E		
SK015	5区	M08	Ⅲ層基底面	円形	0.46	0.42	0.34	0.31	0.10	N61°W		
SK016	5区	M09	Ⅲ層基底面	円形	0.77	0.67	0.69	0.60	0.16	N50°E		
SK017	5区	L08	Ⅲ層基底面	円形	0.45	0.42	0.25	0.11	0.23	N5°W		
SK018	5区	M08	Ⅲ層基底面	円形	1.15	0.97	1.09	0.90	0.09	N5°W		
SK019												欠番
SK020												欠番
SK021	4区	L07	Ⅲ層基底面	不定形	2.51	0.72	2.14	0.58	0.48	N20°E		
SK022												欠番
SK023	4区	J07	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.52	0.34	0.16	0.07	0.21	N40°E		
SK024	6区	Q08	Ⅲ層基底面	楕円形	0.48	0.40	0.17	0.14	0.12	N77°W		
SK025	6区	Q09	Ⅲ層基底面	円形	0.47	0.42	0.44	0.35	0.09	N16°E		
SK026	3区	H11	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.87	0.55	0.37	0.34	0.41	N37°E		
SK027	3区	G11	Ⅲ層基底面	円形	0.57	0.54	0.20	0.15	0.40	N54°W		
SK028	3区	G11	Ⅲ層基底面	楕円形	0.42	0.35	0.15	0.11	0.29	N62°W		
SK029	3区	G12	Ⅲ層基底面	円形	0.48	0.42	0.37	0.29	0.20	N20°W		
SK030	3区	H12	Ⅲ層基底面	楕円形	0.38	0.28	0.30	0.20	0.26	N16°W		
SK031	3区	G11	Ⅲ層基底面	長楕円形	0.58	0.42	0.24	0.08	0.30	N78°E		
SK032	3区	G12	Ⅲ層基底面	楕円形	0.58	0.46	0.46	0.39	0.18	N55°W		
SK033	3区	G12	Ⅲ層基底面	円形	0.52	0.48	0.36	0.24	0.22	N32°W		
SK034	3区	H11	Ⅲ層基底面	楕円形	1.00	0.78	0.56	0.54	0.86	N57°W		
SK035	2区	C11	Ⅲ層基底面	円形	0.68	0.58	0.50	0.42	0.44	N67°W		
SK036	2区	C12	Ⅲ層基底面	楕円形	0.66	0.50	0.58	0.42	0.49	N49°E		
SK037	3区	G12	Ⅲ層基底面	円形	0.48	0.36	0.58	0.26	0.22	N72°E		
SK038	3区	H12	Ⅲ層基底面	円形	0.42	0.36	0.34	0.28	0.10	N88°E		
SK039	3区	H12	Ⅲ層基底面	円形	0.38	0.34	0.22	0.20	0.18	N75°W		
SK040	3区	H11	Ⅲ層基底面	円形	0.31	0.29	0.26	0.22	0.28	N81°W		
SK041	3区	H11	Ⅲ層基底面	円形	0.34	0.32	0.08	0.34	0.20	N22°W		
SK042	3区	H11	Ⅲ層基底面	楕円形	0.35	0.26	0.18	0.16	0.29	N5°E		

表55　幡原神向遺跡　土坑一覧（２）

遺構№	調査区	地区	検出面	平面形	規模（m）					主軸方位	出土遺物	備　考（切り合い関係など）
					上面		下面		深さ			
					長軸	短軸	長軸	短軸				
SK043	3区	G11	Ⅲ層基底面	不整円形	0.58	0.34	0.32	0.16	0.28	N61.5°W		
SK044	3区	TP24	Ⅳ層基底面	不整円形	0.48	0.24	0.32	0.13	0.20	N84°E		
SK045	3区	TP24	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.35	0.23	0.21	0.14	0.14	N67°E		
SK046	1区	TP18	Ⅳ層基底面	不整円形	0.72	0.45	0.52	0.45	0.17	N78°W		
SK047	5区	TP35	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.46	0.26	0.37	0.18	0.06	N49°E		
SK048	5区	TP35	Ⅳ層基底面	円形	0.20	0.20	0.16	0.13	0.08	N81°E		
SK049	5区	TP36	Ⅳ層基底面	円形	0.35	0.32	0.12	0.08	0.34	N63°E		
SK050	5区	L10	Ⅲ層基底面	円形	0.27	0.26	0.20	0.19	0.14	N78°W	土器：後期(1)	
SK051～SK065												欠番
SK066	5区	J10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.37	0.30	0.30	0.24	0.19	N76°W		
SK067	5区	J10	Ⅳ層基底面	円形	0.55	0.48	0.27	0.14	0.14	N25°E		
SK068	5区	J10	Ⅳ層基底面	円形	0.34	0.33	0.28	0.16	0.14	N45°E		
SK069	5区	K10	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.52	0.35	0.41	0.19	0.16	N71°W		
SK070	5区	K09	Ⅳ層基底面	円形	0.25	0.22	0.17	0.10	0.09	N51°E		
SK071	5区	K10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.33	0.24	0.26	0.18	0.13	N40°W		
SK072	5区	K10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.23	0.17	0.12	0.10	0.11	N27°W		
SK073	3区	K10	Ⅳ層基底面	楕円形	0.30	0.24	0.24	0.18	0.09	N28°W		
SK074	5区	K11	Ⅳ層基底面	楕円形	0.54	0.42	0.14	0.10	0.26	N20°W		
SK075	5区	K10	Ⅳ層基底面	円形	0.20	0.19	0.16	0.13	0.10	N゜		
SK076	5区	K11	Ⅳ層基底面	楕円形	0.44	0.35	0.36	0.22	0.16	N72°W		
SK077	5区	K10	Ⅳ層基底面	円形	0.27	0.25	0.20	0.19	0.18	N68°E		
SK078	5区	K08	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.52	0.30	0.28	0.16	0.12	N16°W		
SK079	5区	K08	Ⅳ層基底面	円形	0.50	0.42	0.40	0.32	0.12	N11°E		
SK080	5区	L08	Ⅳ層基底面	楕円形	0.58	0.44	0.24	0.14	0.11	N18°W		
SK081	5区	L07	Ⅳ層基底面	楕円形	0.68	0.46	0.60	0.40	0.10	N1°E		
SK082	5区	K07	Ⅳ層基底面	円形	0.48	0.46	0.42	0.40	0.10	N77°E		
SK083	5区	K07	Ⅳ層基底面	楕円形	0.50	0.38	0.12	0.08	0.30	N64°W		
SK084	5区	K07	Ⅳ層基底面	円形	0.42	0.36	0.34	0.32	0.09	N゜		
SK085	5区	K07	Ⅳ層基底面	円形	0.39	0.37	0.34	0.33	0.11	N24°W		
SK086	5区	K07	Ⅳ層基底面	楕円形	0.48	0.34	0.39	0.28	0.70	N74°E		
SK087	5区	K07	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.58	0.36	0.16	0.15	0.50	N45°E		
SK088	5区	K07	Ⅳ層基底面	円形	0.48	0.46	0.40	0.38	0.10	N゜		
SK089	5区	K07	Ⅳ層基底面	円形	0.64	0.56	0.60	0.48	0.08	N17°E		
SK090	5区	K07	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.43	0.25	0.39	0.21	0.07	N80°W		
SK091	5区	J07	Ⅳ層基底面	楕円形	0.38	0.30	0.14	0.08	0.26	N80°E		
SK092	5区	J07	Ⅳ層基底面	円形	0.40	0.38	0.32	0.30	0.12	N15°W		
SK093	3区	F13	Ⅳ層基底面	円形	0.56	0.48	0.48	0.40	0.09	N55°W		
SK094	3区	F13	Ⅳ層基底面	長楕円形	1.06	0.68	1.01	0.62	0.14	N67°E		
SK095	3区	G13	Ⅳ層基底面	楕円形	0.96	0.68	0.88	0.58	0.10	N76°E		
SK096	3区	F13	Ⅳ層基底面	楕円形	0.44	0.33	0.32	0.31	0.13	N゜		
SK097	3区	G13	Ⅳ層基底面	円形	0.52	0.46	0.28	0.26	0.18	N24.5°E		
SK098	3区	G13	Ⅳ層基底面	円形	0.54	0.48	0.14	0.09	0.20	N13°E		
SK099												欠番
SK100	3区	H13	Ⅳ層基底面	円形	1.28	1.13	0.64	0.42	1.06	N゜		
SK101	3区	F12	Ⅳ層基底面	円形	0.49	0.46	0.36	0.34	0.14	N15°W		
SK102	5区	K08	Ⅳ層基底面	楕円形	0.74	0.54	0.64	0.49	0.12	N72°W		
SK103	5区	L08	Ⅳ層基底面	円形	0.29	0.25	0.29	0.22	0.10	N27°W		
SK104	5区	L08	Ⅳ層基底面	円形	0.22	0.20	0.18	0.16	0.18	N55°E		
SK105	5区	M08	Ⅳ層基底面	楕円形	0.22	0.17	0.18	0.10	0.09	N00°		
SK106	5区	L10	Ⅳ層基底面	円形	0.30	0.27	0.16	0.14	0.18	N81°W		
SK107	5区	L10	Ⅳ層基底面	円形	0.39	0.34	0.28	0.20	0.20	N55°W		
SK108	5区	L10	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.41	0.26	0.14	0.10	0.12	N58°W		
SK109	5区	L11	Ⅳ層基底面	長楕円形	0.51	0.32	0.28	0.25	0.26	N43°W		
SK110	5区	L11	Ⅳ層基底面	円形	0.28	0.26	0.16	0.15	0.22	N68°W		
SK111	5区	L11	Ⅳ層基底面	円形	0.26	0.22	0.18	0.14	0.18	N26°E		
SK112	5区	M11	Ⅳ層基底面	楕円形	0.54	0.38	0.28	0.20	0.20	N72°E		
SK113	5区	N09	Ⅳ層基底面	楕円形	1.12	0.80	0.86	0.68	0.36	N75°E		
SK114	5区	M10	Ⅳ層基底面	円形	0.42	0.36	0.26	0.24	0.18	N゜		
SK115	5区	L10	Ⅳ層基底面	楕円形	1.30	0.68	1.20	0.62	0.22	N69°E		
SK116	6区	R07	Ⅳ層基底面	円形	1.30	0.68	1.20	0.62	0.22	N64.5°E		
SK117	4区	L04	Ⅳ層基底面	円形	0.30	0.28	0.20	0.18	0.14	N88°W		

表56　樋原神向遺跡土器観察表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	種別	器種	部位	分類	調整 外面／内面	文様	胎土	色調 外／内／断面	図版	写真図版	備考
1001	A0691他	O7	Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文	密　砂粒少ない	灰褐色／にぶい褐色／灰褐色	45	35	
1002	A0569	J7	Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	密　砂粒少ない	褐色／褐色／褐色	45	35	外面炭化物付着
1003	A0571-3	K7	Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	密　砂粒少ない	暗褐色／褐色／褐色	45	35	外面炭化物付着
1004	A0203	M8	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	密　砂粒少ない	にぶい赤褐色／にぶい赤褐色／灰黄褐色	45	35	
1005	A0582	K7	Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文（山形文）	密　砂粒少ない	褐色／褐色／褐色	45	35	外面炭化物付着
1006	A0686	M8	Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文（楕円文）	密　砂粒多い 石英含む	暗褐色／明褐色／灰色	45	35	外面炭化物付着
1007	A0728	P8	Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	押型文（楕円文）	密　砂粒多い 石英含む	にぶい褐色／にぶい褐色／暗灰色	45	35	
1008	A507	I11	Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	押型文（楕円文）沈線（格状工具）	密　砂粒多い 石英含む	暗褐色／暗褐色／暗褐色	45	35	
1009	A0749	K3	Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	燃糸文	密　砂粒少ない 石英含む	明褐色／にぶい褐色／灰色	45	35	
1010	A0669	M8	Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	早期	ナデ／ナデ	系形文　凹線文	密　砂粒少ない 石英含む	褐色／褐色／褐色	45	35	
1011	A0384	L7	Ⅲ	縄文土器	深鉢	口縁部	早期	ナデ／ナデ	条痕　沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英含む	にぶい褐色／にぶい褐色／灰色	45	35	
1012	B0113	SK50		縄文土器	鉢形	丸底 浅鉢	口縁部	後期	ナデ／ナデ	刺突（格状工具）沈線（格状工具）	密　砂粒少ない 石英・雲母含む	暗褐色／黒褐色／にぶい黄褐色	45	35	赤色顔料が外面に付着

表57　樋原神向遺跡石鏃計測表（未製品も含む）

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	抉深(mm)	分類	図版	写真図版	備考
1013	A0385	K5	Ⅲ	チャート	20	12	4	0.7	5	凹基	46	36	
1014	27-2	TP34 遺構⑦		チャート	20	15	3	0.7	7	凹基	46	36	
1015	A0568	E5	Ⅳ	チャート	17	13	4	0.5	2	凹基	46	36	
1016	－	H6　No.9	－	チャート	24	16	4	0.9	4	凹基	46	36	
1017	A0218	K8	Ⅲ	チャート	38	19	5	2.0	－	未製品	46	36	

表58　樋原神向遺跡石錐計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	図版	写真図版	備考
1019	49-1	TP6 拡張部	不明	チャート	(20.5)	10	4	0.8	46	36	先端部摩滅
1020	A0179	O7	Ⅲ	チャート	18	21	6	1.7	46	36	

表59　樋原神向遺跡楔形石器計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	図版	写真図版	備考
1018	A0026	J12	Ⅲ	チャート	36	24	11	12.6	46	36	
1021	A0377	－	Ⅲ	チャート	33	24	10	5.8	46	36	

表60　樋原神向遺跡石匙計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	素材	法量 長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部調整	図版	写真図版	備考
1022	A0102-6		表土	チャート	横長	43	44	8	14.9	背面	46	36	

表61　幡原神向遺跡スクレイパー計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	素材	法　量				刃部調整	図版	写真図版	備　考
						長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
1023	B0003	SK014		チャート	縦長	67	41	13	50.8	両面	46	36	
1024	A0382-1	L7	表土	チャート	縦長	56	26	12	18.9	背面	46	36	
1025	A0187	P8	Ⅲ	チャート	縦長	90	33	8	26.9	背面	46	36	
1026	A0006	O7	Ⅲ	石英	縦長	36	28	9	8.9	両面	46	36	
1027	A0682	N9	Ⅳ	チャート	横長	14	22	6	1.7	腹面	46	36	

表62　幡原神向遺跡ＲＦ計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
1028	A0386	H11	Ⅲ	チャート	47	58.5	18	49.4	47	36	
1029	A0476	M9	Ⅲ	チャート	59	31	7	14.6	47	36	

表63　幡原神向遺跡ＵＦ計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石　材	法　量				図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
1030	46	TP42		チャート	28	36	7	8.1	47	36	
1031	A0246	M5	Ⅲ	チャート	25	28	9	7.2	47	36	

表64　幡原神向遺跡石核計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	素材	自然面	打面数	打面状態	作業面	質量(g)	図版	写真図版	備　考
1032	B0117	SK113		チャート	分割礫	有	2	節理石2	3	28.2	47	36	
1033	A0330	H13	表土	チャート	分割礫		3	剥離石3	4	265.6	47	36	

表65　幡原神向遺跡石錘計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法　量				打欠	切目	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)					
1035	B0001	SF001		砂岩	45	40	17	6.2	○		47	36	
1034	A0117	N11	Ⅲ	砂岩	44	29	12	26.4		○	47	36	

表66　幡原神向遺跡打製石斧計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法　量				平面形	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
1036	A0684	J11	覆土	珪質泥岩	105	50	11	77.2	バチ	48	36	
1037	36	TP39	－	珪質泥岩	54	25	8	13.1	短冊	48	36	
1038	A0676	M10	Ⅳ	砂岩	131	68	15	168.6	バチ	48	37	
1039	A0505	I14	Ⅳ	砂岩	142	91.5	24	389.8	バチ	48	37	
1040	A0232	L9	Ⅲ	泥岩	123	53	17	167.7	分銅	49	36	
1041	A0419	H11	Ⅲ	ホルンフェルス	121	47	14	105.2	短冊	49	36	

表67　櫨原神向遺跡磨石・凹石・敲石計測表

No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量				磨面	凹	敲打痕	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)						
1042	A0308	K3	Ⅲ	砂岩	104	77	54	569.8	1	1	2	49	37	
1043	B0025	SI002		砂岩	80	109	36	351.7	2			49	37	半欠
1044	A0628	F12	Ⅳ	安山岩	115	87.5	52	666.1		1	1	50	37	
1045	A0551	K8	Ⅳ	砂岩	105	83	42	535.5	2			50	37	

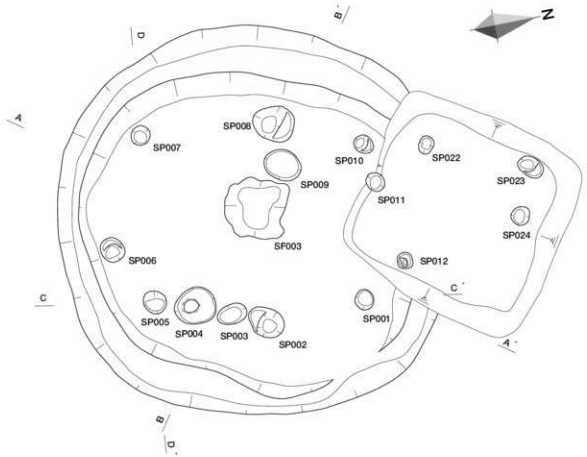
表68　櫨原神向遺跡環状石斧計測表

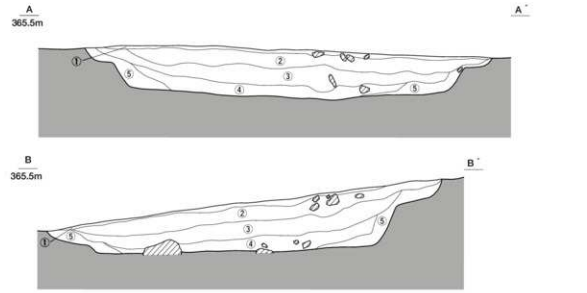
No.	取上No.	地区・遺構	層位	石材	法量				穿孔径(mm)	図版	写真図版	備　考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)				
1046	A0383-5	−	−	安山岩	139	69	29	376.2	22	50	38	半欠
参考		小の原遺跡		砂岩	118	89	30	284.3	19	挿図26	38	半欠

図　版

【いじま遺跡】

図版1　いじま遺跡SB001実測図（1）

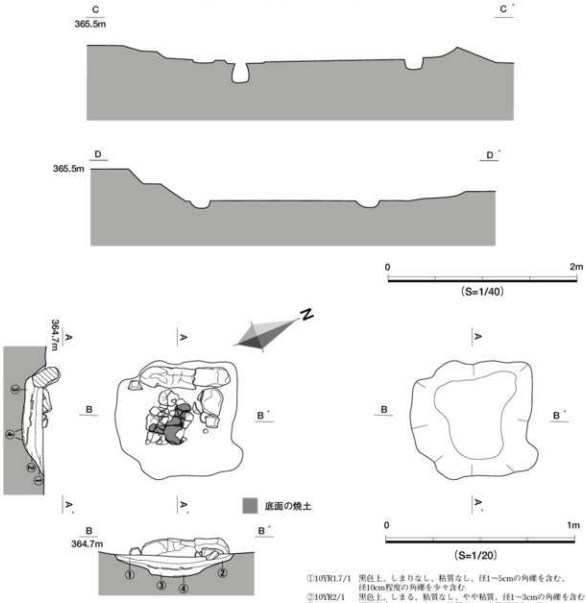




①10YR2/1　黒色土、しまりなし、粘質なし
②10YR1.7/1　黒色土、ややしまる、やや粘質、径1～5cmの角礫を含む、径5～10cmの角礫を少々含む
③10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし、径1～5cmの角礫をわずかに含む
④10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし、径1～5cmの角礫を含む、⑤よりやや明るい色
⑤10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし、径1～3cmの角礫を含む

0　2m
（S=1/40）

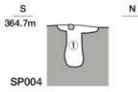
図版２　いじま遺跡SB001実測図（２）



SB001炉跡（SF003）

SB001ピット（SP001～SP003）

図版３　いじま遺跡SB001実測図（３）SB002・SB003実測図（１）



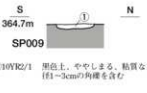
①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
　径10cm程度の角礫を少々含う

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～2cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫をわずかに含む
②10YR2/2　黒褐色土、やや しまる、粘質なし
　径1～2cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/3　黒褐色土、やや しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、やや しまる、粘質なし
　径1～2cmの角礫を含む



①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫をわずかに含む
②10YR2/2　黒褐色土、やや しまる、粘質なし
　径1～2cmの角礫をわずかに含む

①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　径1～2cmの角礫をわずかに含む、ほとんどが土
②10YR2/2　黒褐色土、やや しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫をわずかに含む、ほとんどが土

①10YR2/1　黒色土、やや しまる、粘質なし
　ほとんどが土（とりあえず残っていた埋土）

SB001ピット（SP004～SP012）

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む、径10cm程度の角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む、径10～20cmの角礫を少々含む

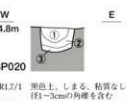
SB002ピット（SP013・SP014）

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

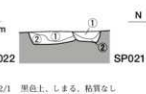
①10YR2/1　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む、径5～10cmの角礫を少々含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む



①10YR1.7/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
③10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む



SP021
①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
SP022
①10YR2/1　黒色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む、径3cm程度の角礫を少々含む

SB003ピット（SP015～SP022）

0　2m

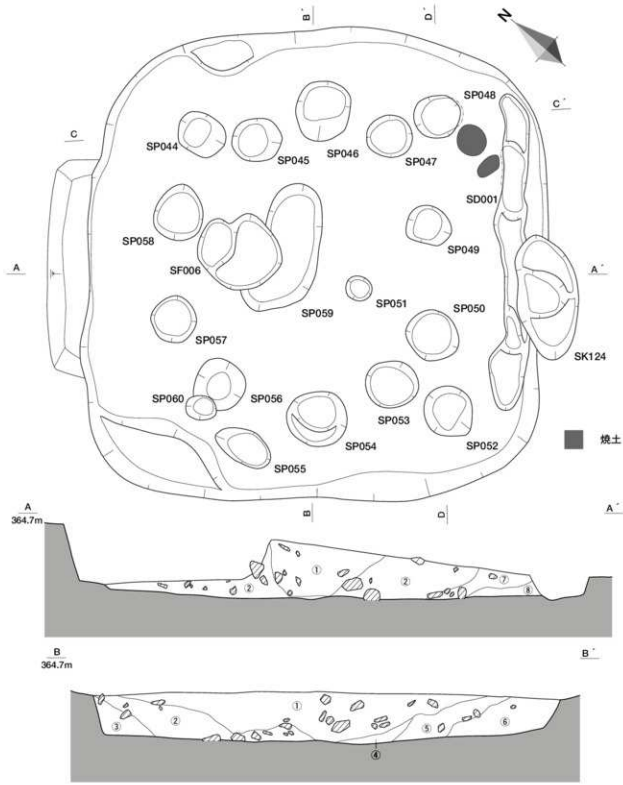
（S=1/40）

図版4　いじ迫遺跡SB002・SB003実測図（2）

SB002　①10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を含む
②10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を含む。径5～10cmの角礫を少々含む
③10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。径1～3cmの角礫を含む。径5～10cmの角礫を少々含む

SB003　④10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を含む。径5～10cmの角礫を少々含む
⑤10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を含む。径5～30cmの亜角礫・亜円礫を含む

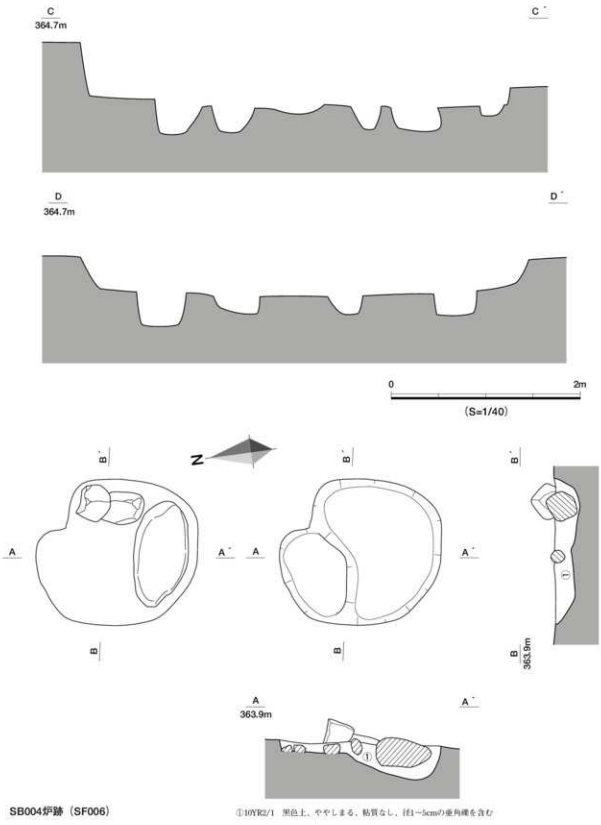
図版５　いじま遺跡SB004実測図（１）



①10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。やや粘質。[径1～5cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～30cmの亜角礫・亜円礫を少々含む
②10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。[径1～10cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～30cmの亜角礫・亜円礫を少々含む
③10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。[径1～5cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～30cmの亜角礫・亜円礫を少々含む
④10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。[径1～5cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～10cmの角礫を少々含む
⑤10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。[径1～10cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～30cmの亜角礫・亜円礫を少々含む
⑥10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。[径1～5cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～30cmの亜角礫・亜円礫を少々含む
⑦10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし。[径1～5cmの角礫・亜角礫・亜円礫を多く含む。[径5～10cmの角礫を少々含む
⑧10YR1/3　暗褐色土。しまる。粘質なし。[径1～5cmの角礫・亜角礫を多く含む

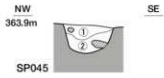
0　2m
(S=1/40)

図版6　いじま遺跡SB004実測図（2）

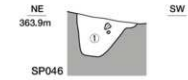


図版７　いじま遺跡SB004実測図（３）

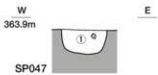
①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫を含む



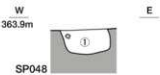
①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫を含む
②10YR2/3　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫を含む
　　径5～10cmの角礫を少々含む



①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～3cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を少々含む

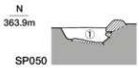


①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を
　　少々含む

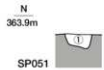


①10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、
　　亜円礫を含む

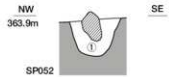
①10YR2/　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの亜角礫を少々含む
②10YR2/3　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの亜角礫を含む



①10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫を含む

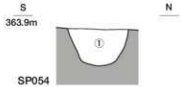


①10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの亜角礫を含む



①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を少々含む
　　30cm大の角礫1つ

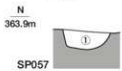
①10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を
　　少々含む



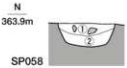
①10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を
　　少々含む

①10YR2/3　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの亜円礫を含む
　　径5～10cmの亜円礫を少々含む

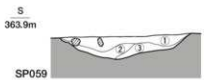
①10YR1.7/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～3cmの亜角礫を含む
　　径10～20cmの亜角礫を少々含む
②10YR3/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの亜角礫を含む
　　亜角礫を含む



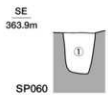
①10YR2/2　黒褐色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫を含む



①10YR2/2　黒褐色土、しまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫をわずかに含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫を少々含む
②10YR2/3　黒褐色土、しまる、粘質なし
　　径1～5cmの角礫、亜角礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫を含む



①10YR1.7/1　黒色土、しまりなし、やや粘質
　　径1～5cmの角礫、亜角礫、亜円礫を含む
　　径5～10cmの角礫、亜角礫、亜円礫を少々含む
②10YR2/2　黒褐色土、しまりなし、やや粘質
　　径1～5cmの角礫を含む
③10YR2/1　黒色土、しまりなし、やや粘質
　　径1～5cmの角礫を含む

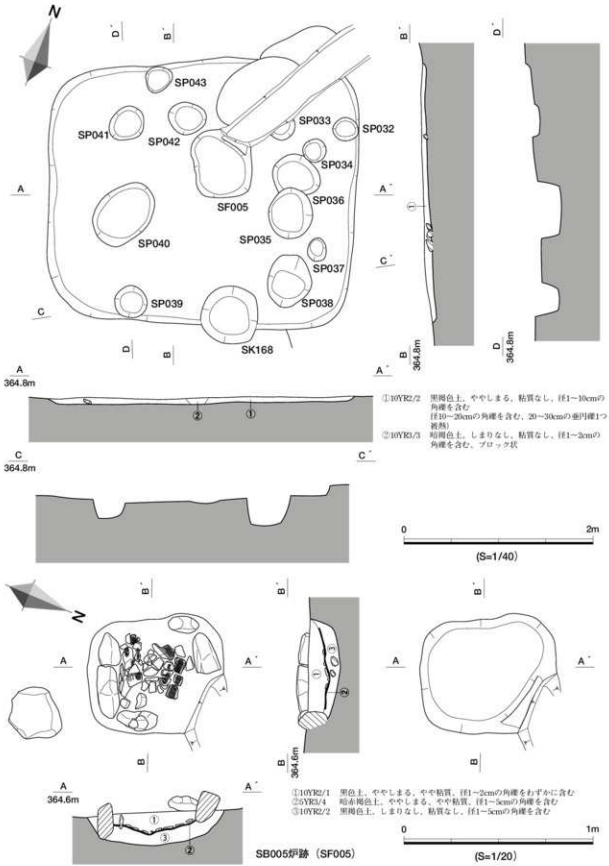


①10YR2/1　黒色土、ややしまる、粘質なし
　　径1～5cmの亜角礫を含む

0　　2m

(S=1/40)

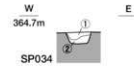
図版8　いじま遺跡SB005実測図（1）



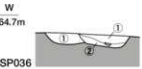
図版９　いじま遺跡SB005実測図（２）SB006実測図（１）

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの角礫をわずかに含む

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む



①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
　径5～10cmの角礫を少々含む

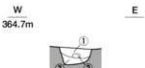


SP035　①10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの赤色礫を含む
　②10YR2/3　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの赤色礫を含む

SP036　①10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

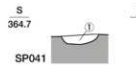
①10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの赤色礫を含む
　径5～10cmの角礫を少々含む



①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む
③10YR2/3　暗褐色土。やや しまる。粘質なし
　ほとんどが土。礫含まず

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
　径5～10cmの角礫を少々含む



①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/1　黒色土。やや しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/2　黒褐色土。しまりなし。粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む

SB005ピット（SP032～SP043）

①10YR2/1　黒色土。しまりなし。粘質なし
　径5～10cm程度の赤角礫を含む
　径1～3cmの赤角礫を少々含む

①10YR2/2　黒褐色土。しまりなし。粘質なし
　径1～3cmの赤角礫をわずかに含む
　径5～10cmの赤角礫を含む

①10YR2/2　黒褐色土。しまりなし。粘質なし
　径1～3cmの赤角礫を含む

①10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの角礫を含む
　径5～10cmの角礫を少々含む

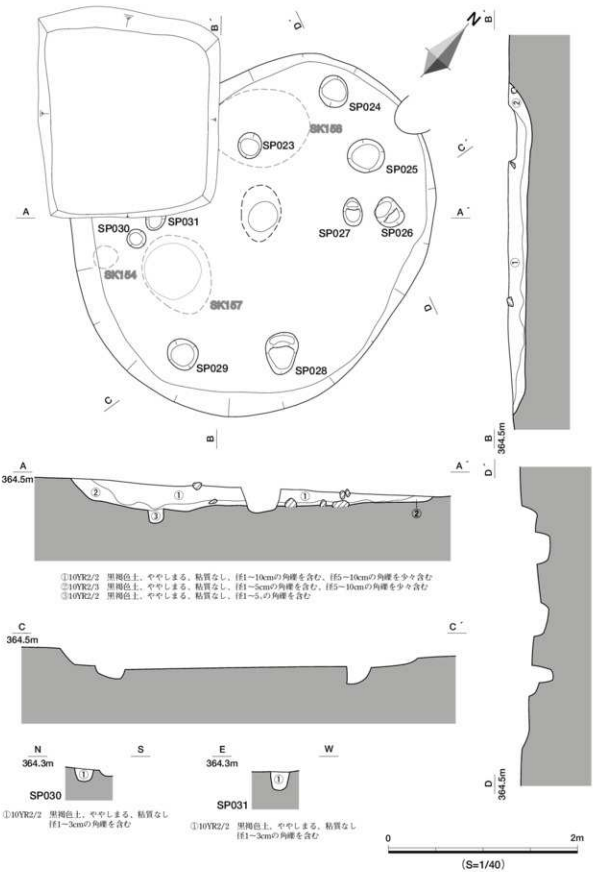
①10YR2/2　黒褐色土。しまる。粘質なし
　径1～3cmの角礫を含む

①10YR2/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの赤角礫を含む
②10YR3/2　黒褐色土。やや しまる。粘質なし
　径1～5cmの赤角礫を含む

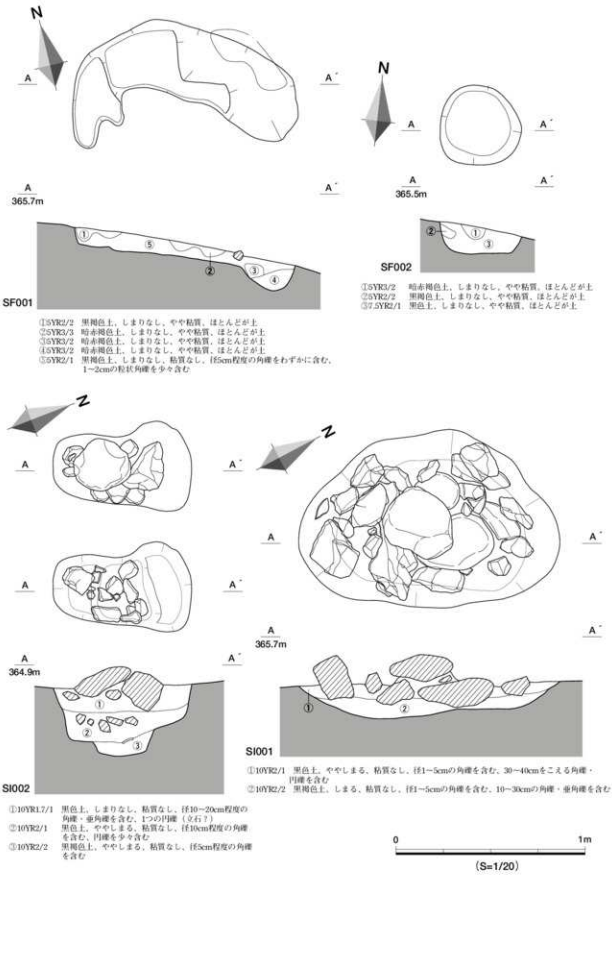
（S=1/40）

SB006ピット（SP023～SP029）

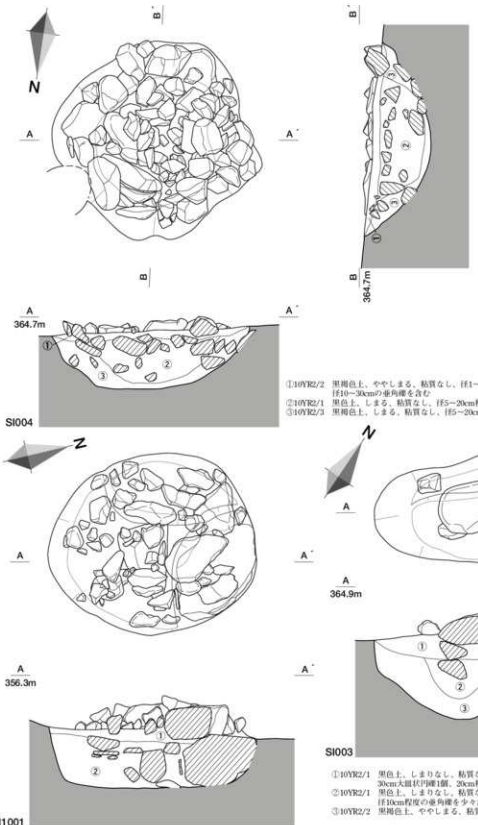
図版10　いじま遺跡SB006実測図（２）



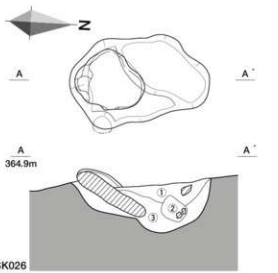
図版11　いじま遺跡SF001・SF002・SI001・SI002実測図



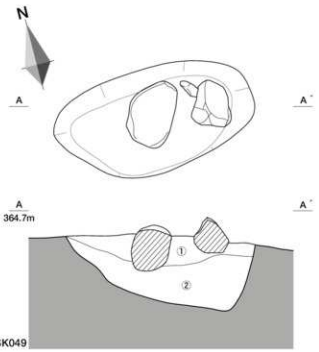
図版12　いじま遺跡SI003・SI004・SI1001実測図



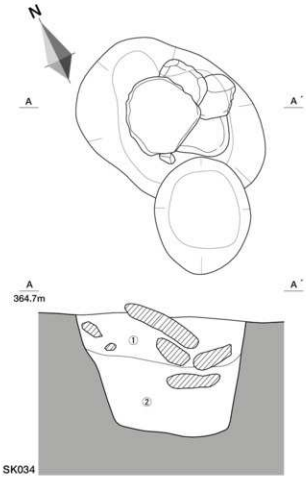
図版13　いじま遺跡SK026・SK034・SK049・SK062実測図



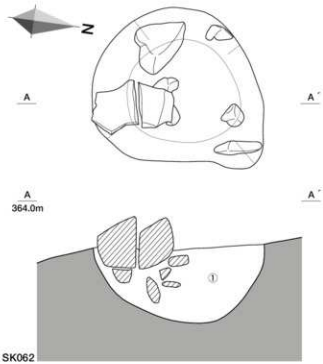
①10YR1.7/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～3cmの角礫を含む
②10YR2/1　黒色土。しまりなし。粘質なし。径1～3cmの角礫を含む
③10YR2/2　黒褐色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの角礫を含む



①10YR2/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～3cmの角礫を含む。
　径50cm大の円礫を1個、30cm大の亜角礫を1個伴う
②10YR1.7/1　黒色土。しまりなし。粘質なし。径1～2cmの角礫を含む



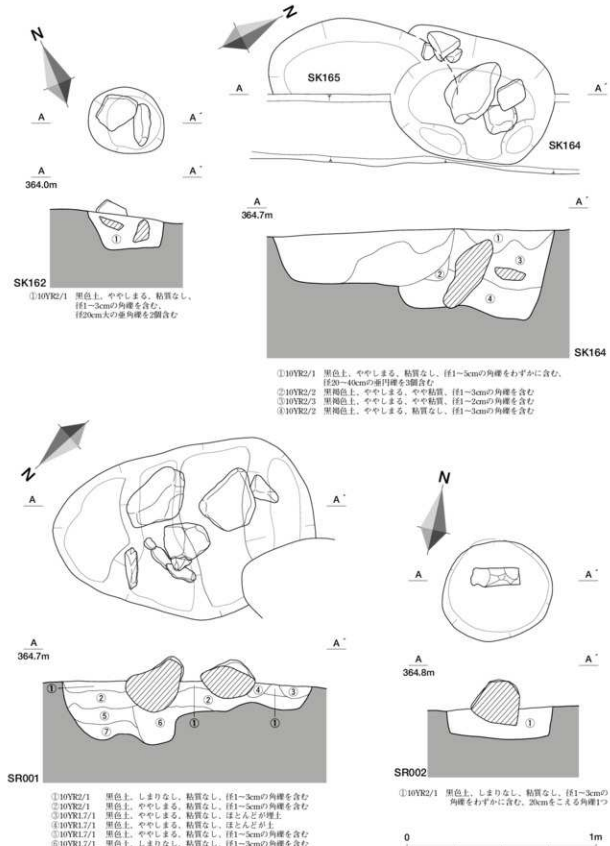
①10YR2/1　黒色土。しまりなし。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む
②10YR2/2　黒褐色土。しまりなし。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む。
　径10～20cmの角礫・亜角礫を少々含む



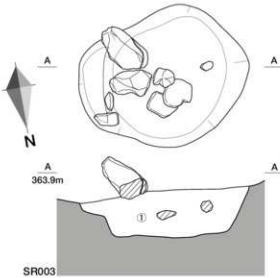
①10YR2/1　黒色土。しまりなし。粘質なし。径1～10cmの亜角礫を含む。
　径20～40cmの亜角礫を少々含む

（S=1/20）

図版14　いじま遺跡SK162・SK164・SR001・SR002実測図

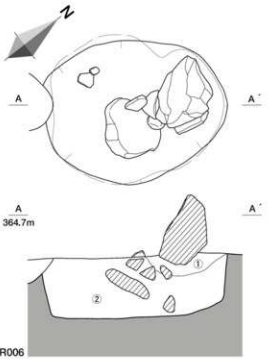


図版15　いじま遺跡SR003～SR007実測図



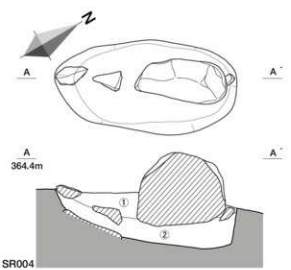
SR003

①10YR2/2　黒褐色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む、径5～10cmの亜角礫を少々含む



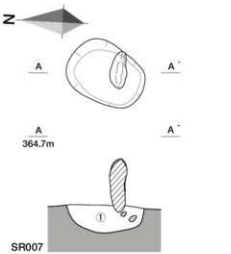
SR006

①10YR1.7/1　黒色土。しまる。粘質なし。径1～3cmの角礫を含む
10cm程度の角礫を含む。40cm大の角礫1つ
②10YR2/1　黒色土。しまる。粘質なし。径1～10cmの角礫を含む



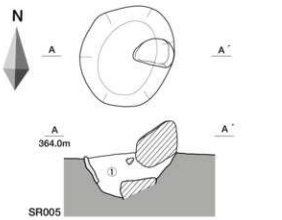
SR004

①10YR2/1　黒色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む。
径5～10cmの亜角礫を少々含む



SR007

①10YR2/2　黒褐色土。ややしまる。粘質なし。
径1～3cmの角礫を含む



SR005

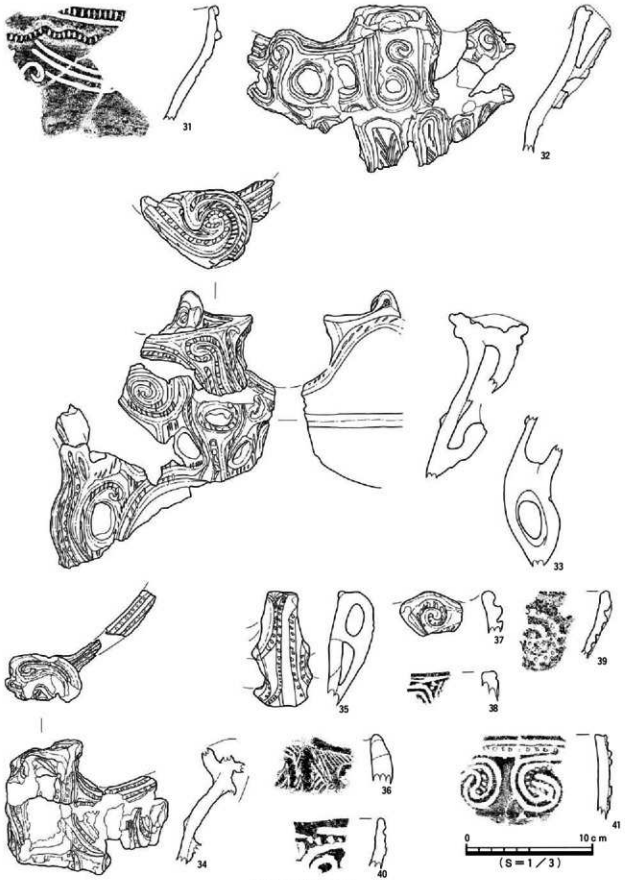
①10YR2/2　黒褐色土。ややしまる。粘質なし。径1～5cmの亜角礫を含む
径5～10cmの亜角礫を少々含む。20cm大の円礫（立石）

（S=1/20）

図版16　いじま遺跡土器実測図(1)　SB

SB001：1・2　SB002：3～11　SB003：12～19　SB004（1）：20～30

図版17　いじま遺跡土器実測図(2)　SB

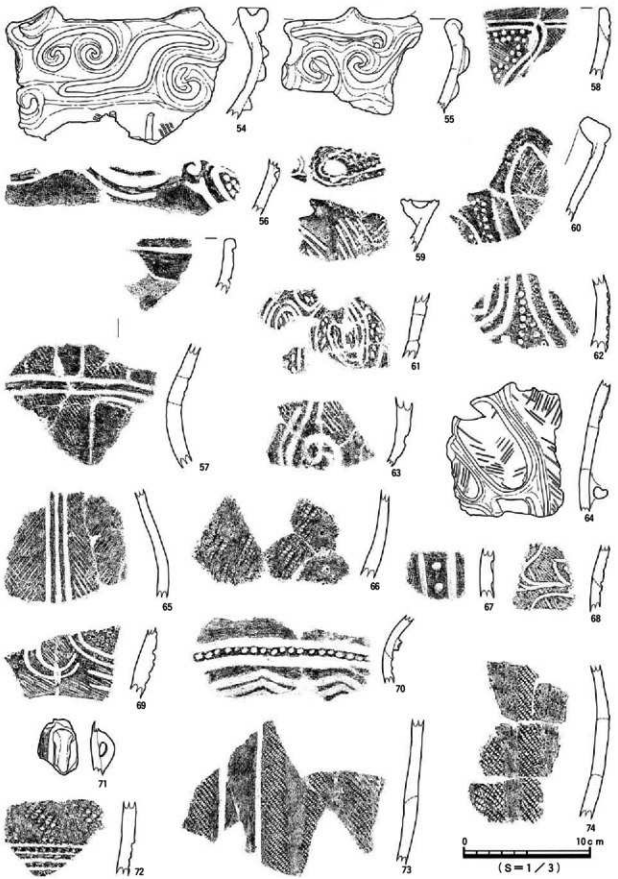


SB004（2）：31～41

図版18　いじま遺跡土器実測図(3)　SB

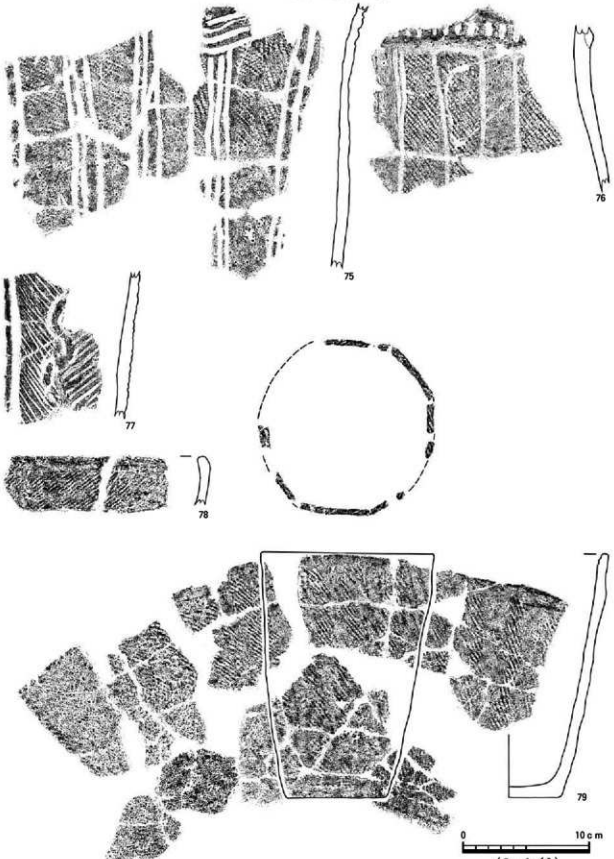
SB004（3）：42～53

図版19　いじま遺跡土器実測図(4)　SB



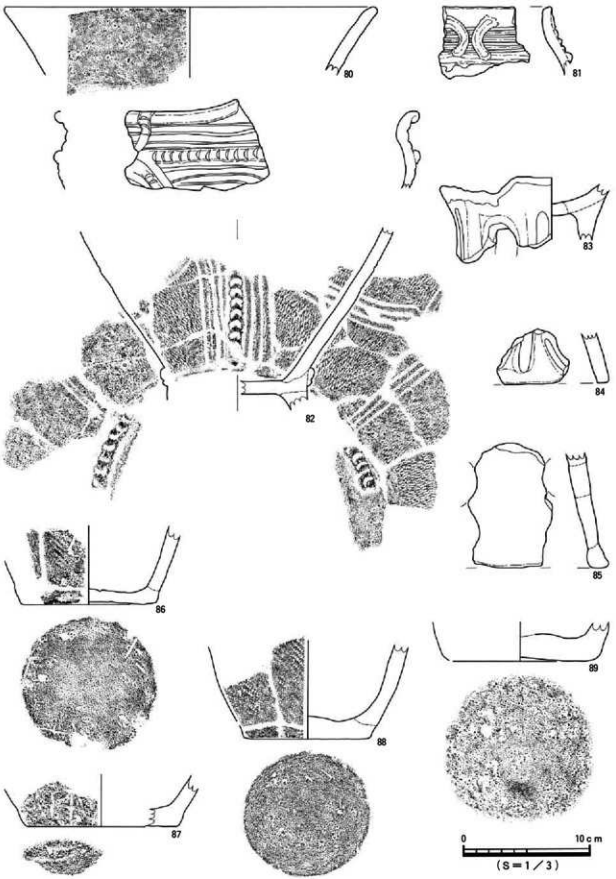
SB004（5）：54～74

図版20　いじま遺跡土器実測図(5)　SB



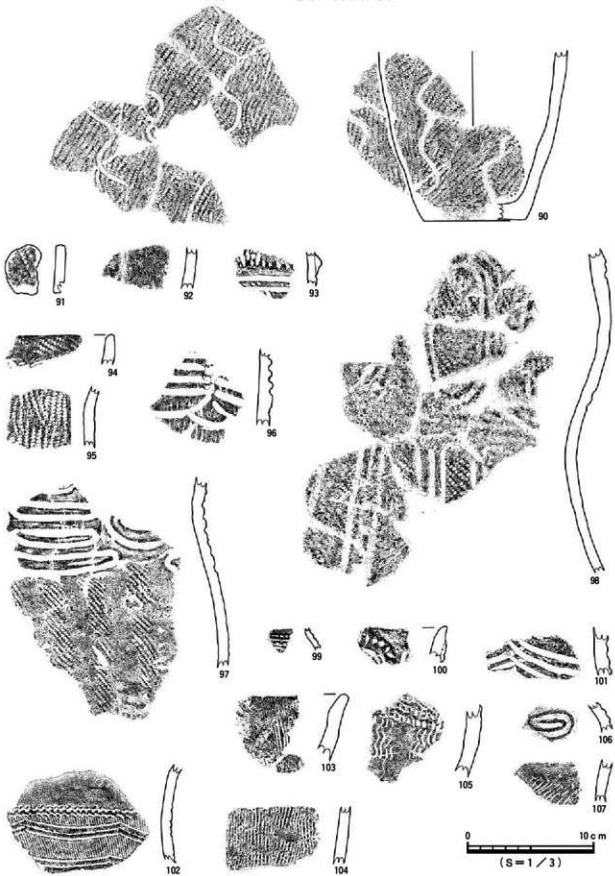
SB004（5）：75～79

図版21　いじま遺跡土器実測図(6)　SB



SB004（6）：80～89

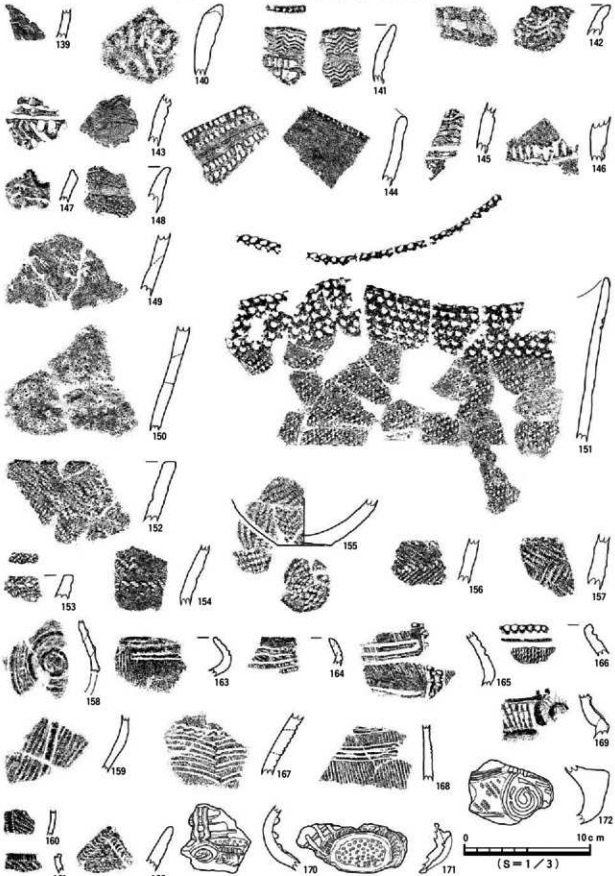
図版22　いじま遺跡土器実測図(7)　SB



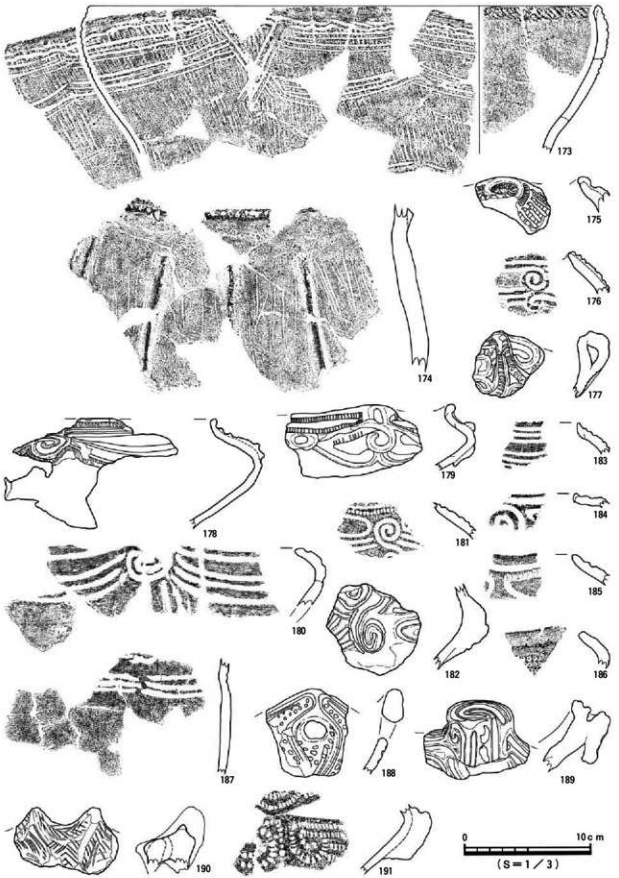
SB004（7）：90～97　SB005：98～106　SB006：107

図版23　いじま遺跡土器実測図(8)　SI　SK　SR

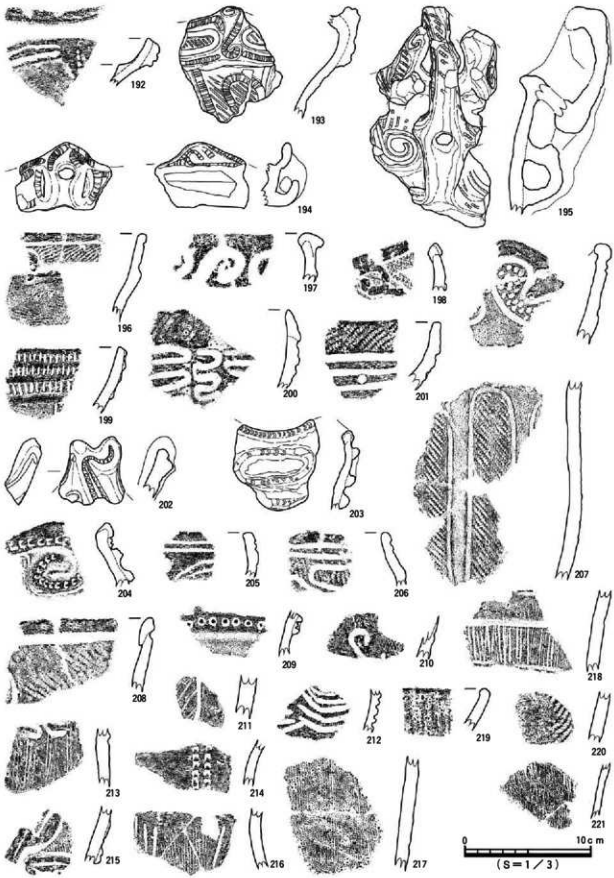
図版24　いじま遺跡土器実測図(9)　遺物包含層



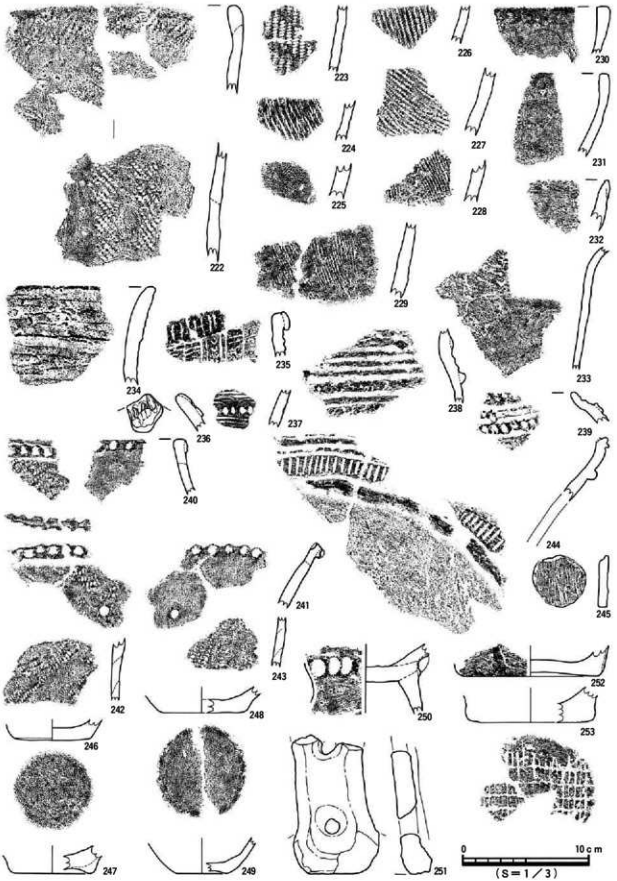
図版25　いじま遺跡土器実測図(10)　遺物包含層



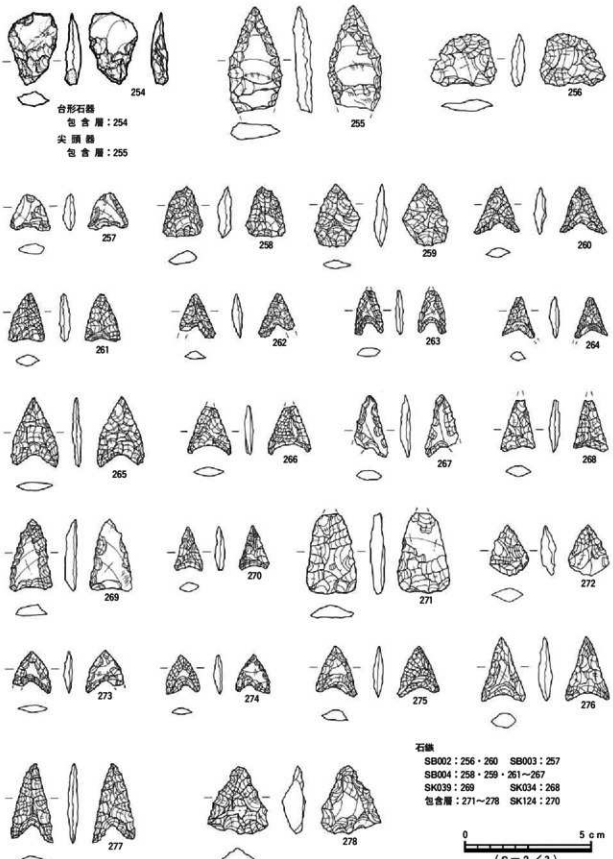
図版26　いじま遺跡土器実測図(11)　遺物包含層



図版27　いじま遺跡土器実測図(12)　遺物包含層



図版28　いじま遺跡石器実測図(1)　台形石器　尖頭器　石鏃

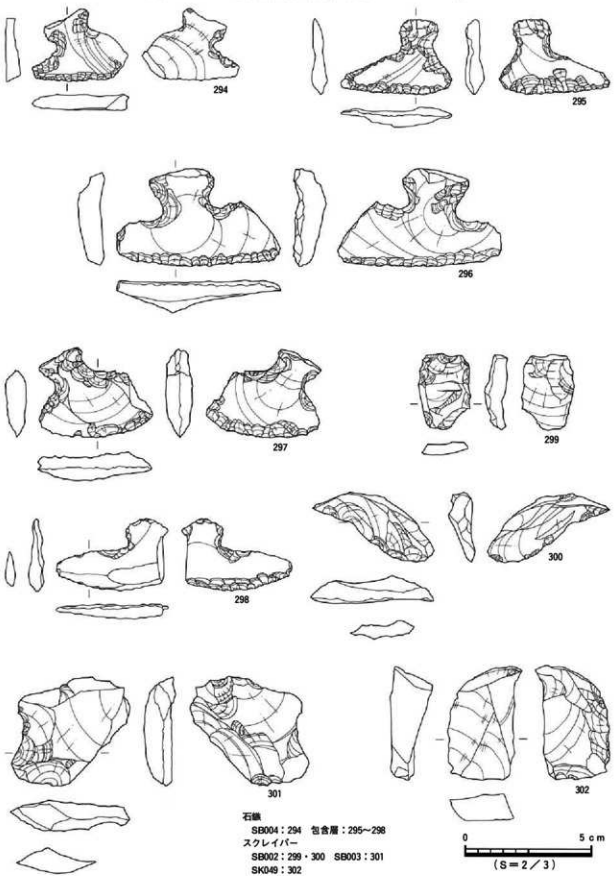


図版29　いじま遺跡石器実測図(2)　石鏃　楔形石器

石鏃
SB002：279　SB004：280　SB004（SP054）：281
SB005：282　SB006：283　SK034：284
包含層：285・286
SB002：287　SB004：288・290　SB005：289
包含層：291・292・293

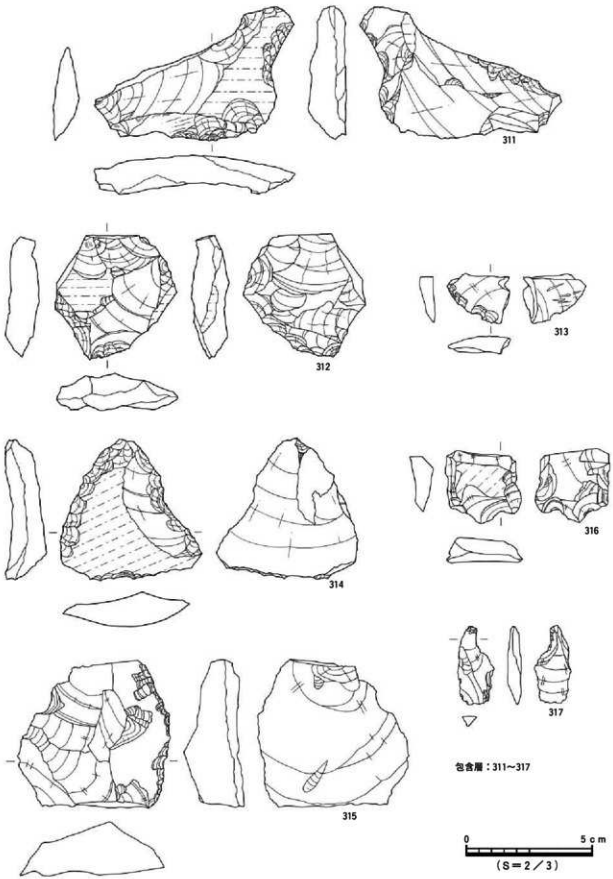
0　5cm
（S＝2／3）

図版30　いじま遺跡石器実測図(3)　石匙　スクレイパー(1)

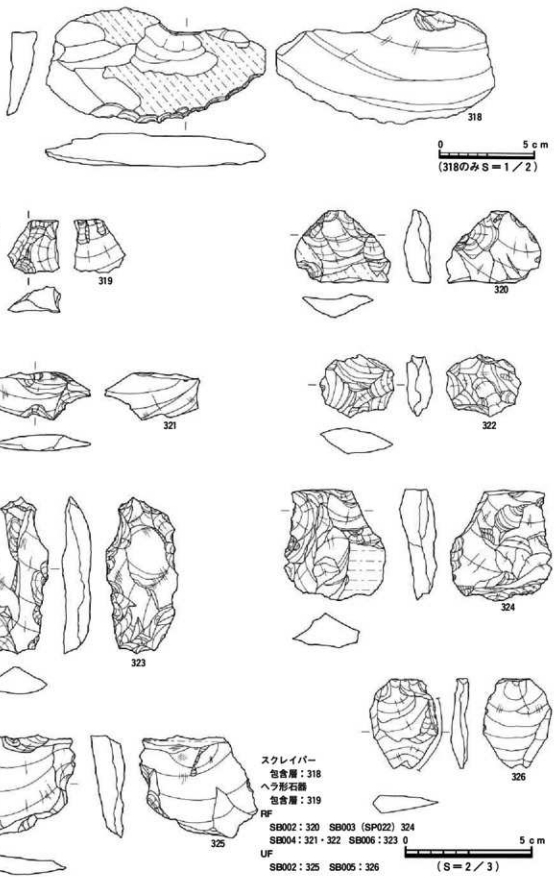


図版31　いじま遺跡石器実測図(4)　スクレイパー(2)

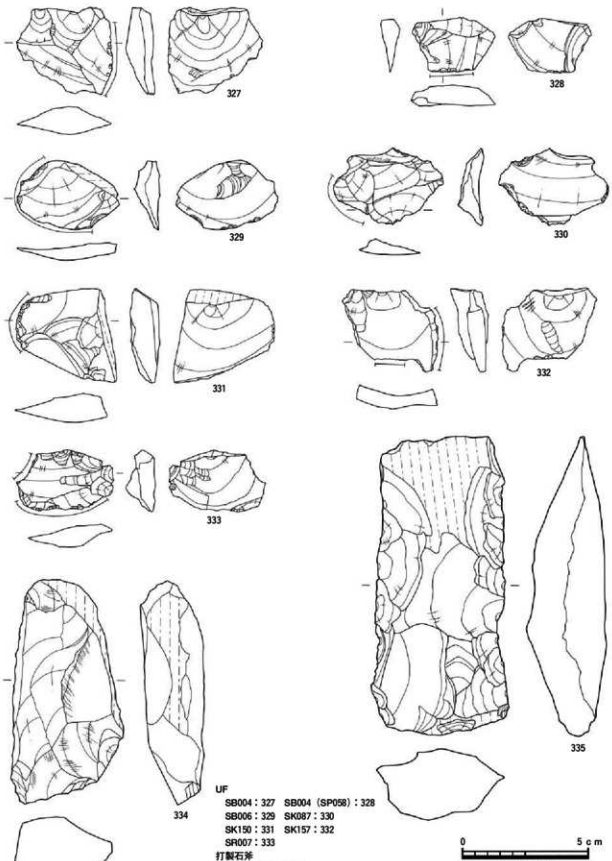
図版32　いじま遺跡石器実測図5）　スクレイパー(3)



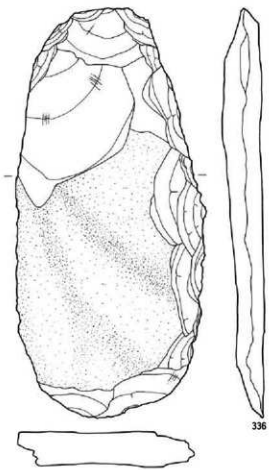
図版33　いじま遺跡石器実測図(6)　スクレイパー(4)　ヘラ形石器　RF　UF(1)

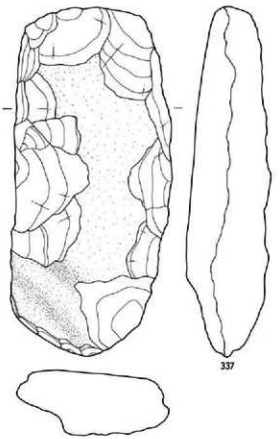


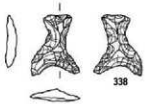
図版34　いじま遺跡石器実測図(7)　UF(2)　打製石斧(1)

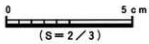


図版35　いじま遺跡石器実測図(8)　打製石斧(2)　異形石器　石核(1)

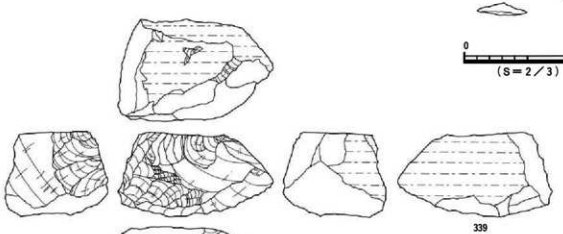








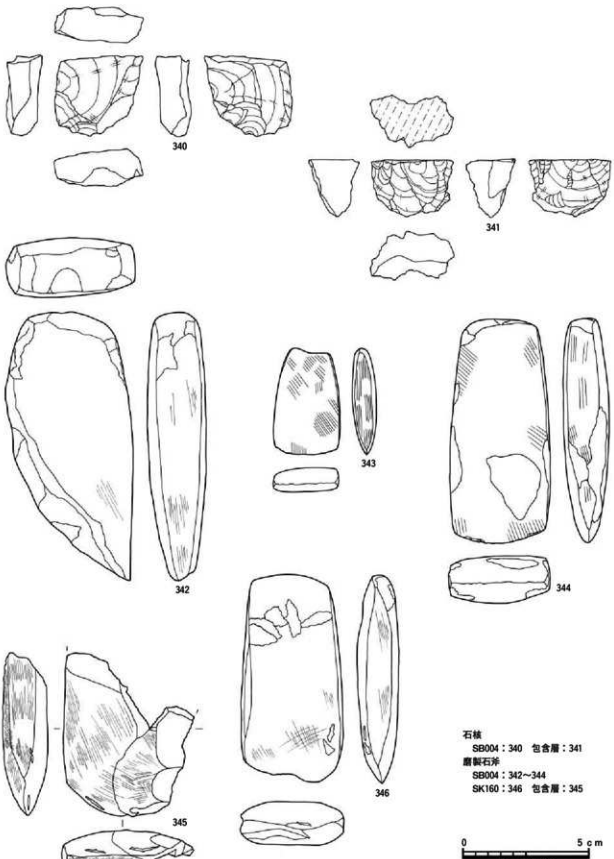
（S＝2／3）



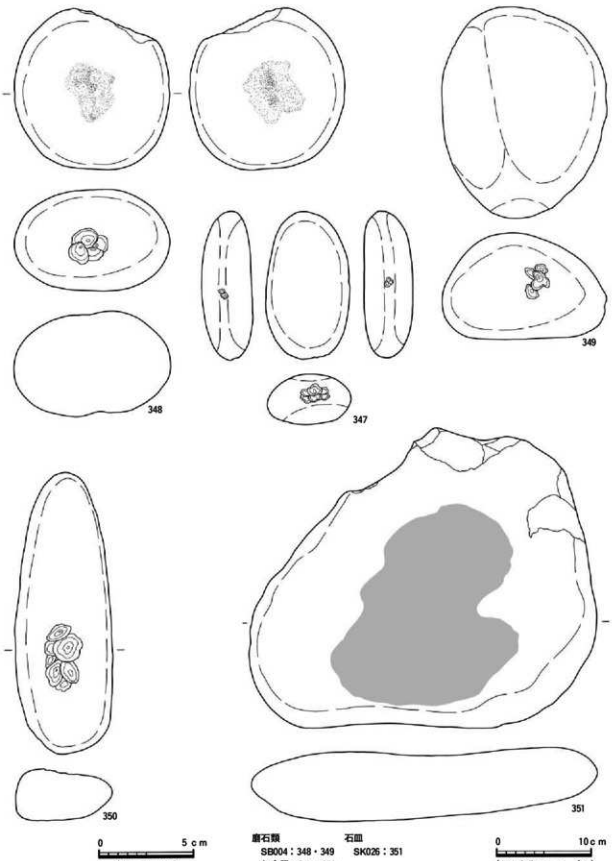
打製石斧
　包含層：336　SB004：337
異形石器
　SB004：338
石核
　SB004：339

（339のみ S＝1／2）

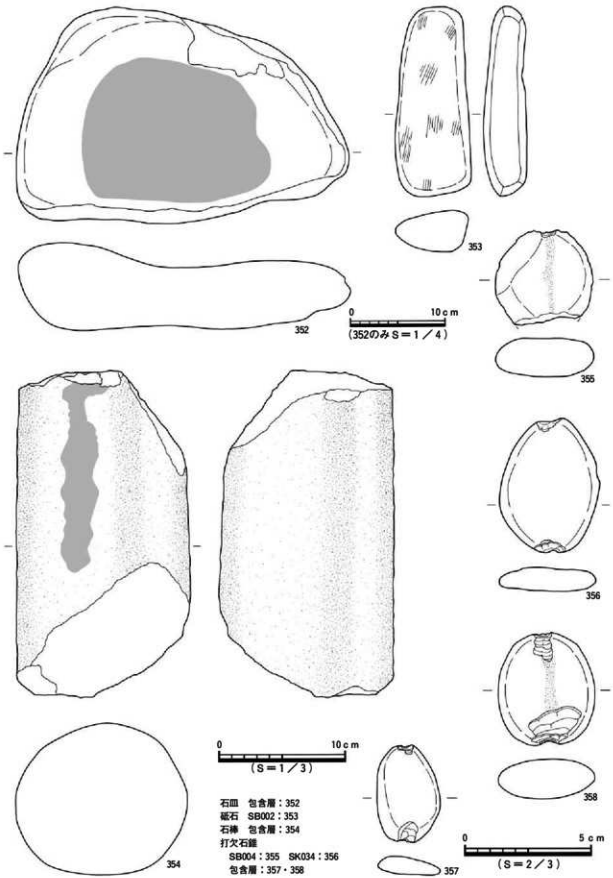
図版36　いじま遺跡石器実測図(9)　石核(2)　磨製石斧



図版37　いじま遺跡石器実測図(10)　磨石類　石皿(1)



図版38　いじま遺跡石器実測図(11)　石皿(2)　砥石　石棒　打欠石錘



石皿　包含層：352
砥石　SB002：353
石棒　包含層：354
打欠石錘
SB004：355　SK034：356
包含層：357・358

図版39　いじま遺跡石器実測図(12)　切目石錘

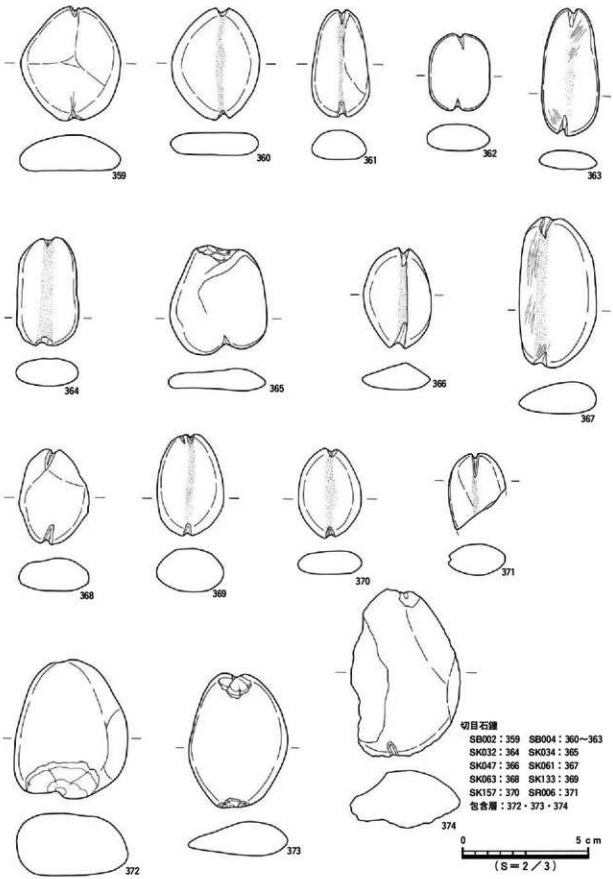
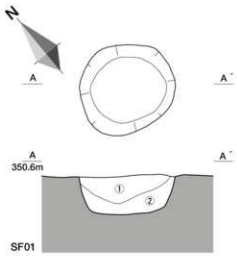


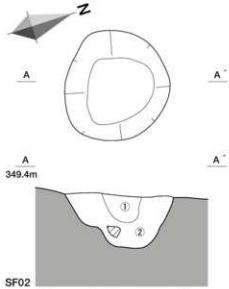
図　版

【櫨原神向遺跡】

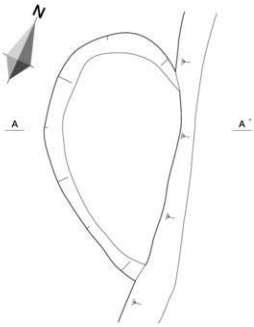
図版40　橿原神向遺跡SF01・SF02・SF04・SF05実測図



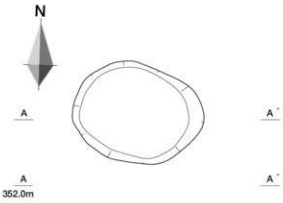
①5YR2/2　黒褐色土。しまりややあり。粘質ややあり
②10YR2/3　黒褐色土。しまりあり。粘性あり
礫の混じりなし。炭なし



①10YR2/2　黒褐色土。しまりあり。粘質あり
②10YR2/3　黒褐色土。しまりあり。粘質あり
検出面に焼土あるが薄い



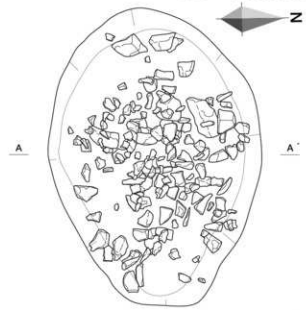
①5YR3/2　暗赤褐色土。しまりなし。粘質なし

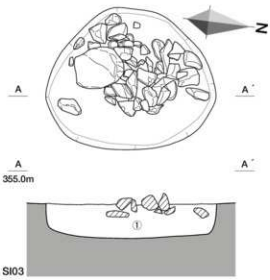


①7.5YR2/3　極暗褐色土。しまりあり。粘質あり

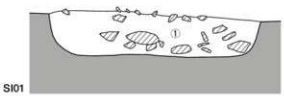
(S=1/20)

図版41　檜原神向遺跡SI01～SI04実測図

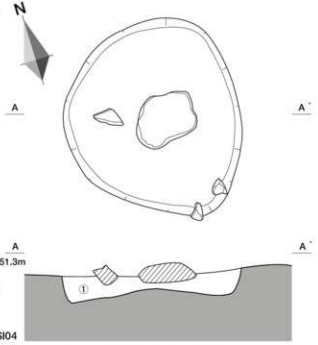




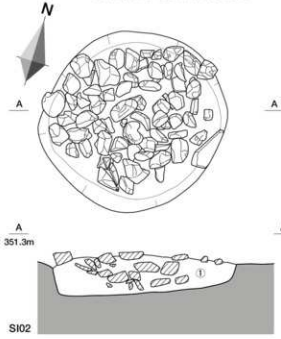
①10YR2/1　黒色土、しまりあり、粘質あり
平面上には焼けた礫をたくさん確認できるが、
断面を見る限り何層も積まれたものではないことがわかる



①10YR2/3　黒褐色土、しまりあり、粘質あり
集まっている礫は一段のみで、何層になるものでない、
また、周りの土にも焼けたような痕跡もない

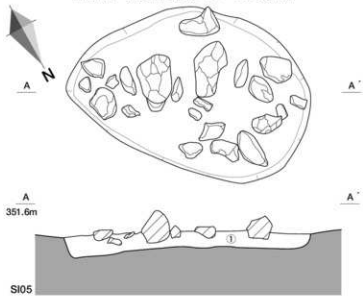


①10YR2/2　黒褐色土、しまりあり、粘質あり

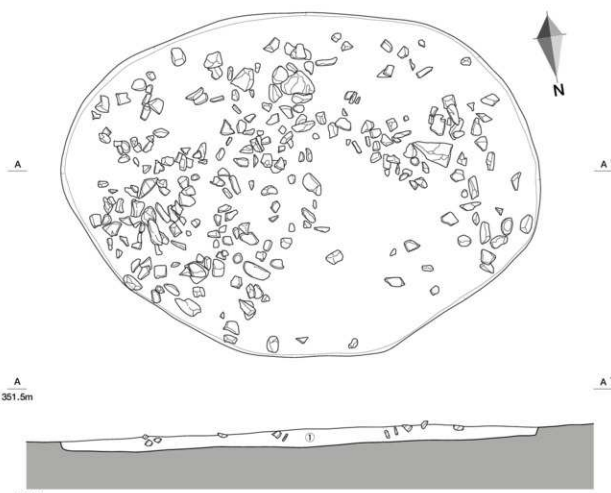


①10YR2/3　黒褐色土、しまりあり、粘質あり
焼けた礫が何層にも積まれている、ただし炭化物はほとんどない

図版42　樋原神向遺跡SI05・SI06実測図



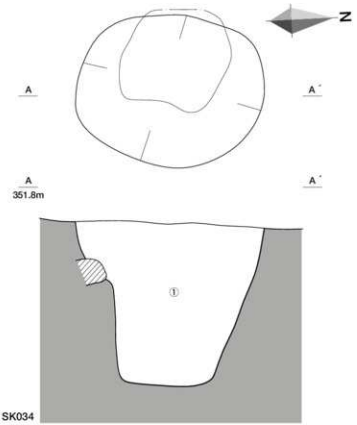
①10YR2/3　黒褐色土。しまりあり。粘質あり



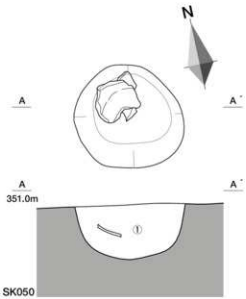
①10YR2/3　黒褐色土。しまりあり。粘質あり
遺構プランが不明瞭であったため、焼礫の拡がりからプランを決定した
焼礫は積まれたものではなく、ばらまかれたかのようにほとんど
平面上でしか確認できなかった

0　1m
(S=1/20)

図版43　檀原神向遺跡SK034・SK050実測図



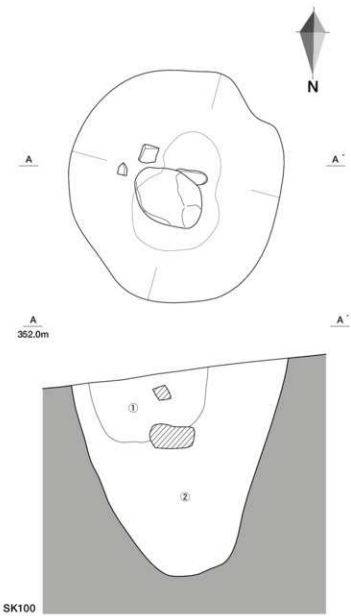
①10YR2/2　黒褐色土．しまりあり，粘質あり
時期を特定できる遺物の検出はないが，地山の見えるほぼ1m下まで，
上記黒褐色で埋められる 礫の混じりもない



①10YR2/2　黒褐色土．しまりあり，粘質あり
断面に土器が見られる．ただし右端は見られない

(S=1/20)

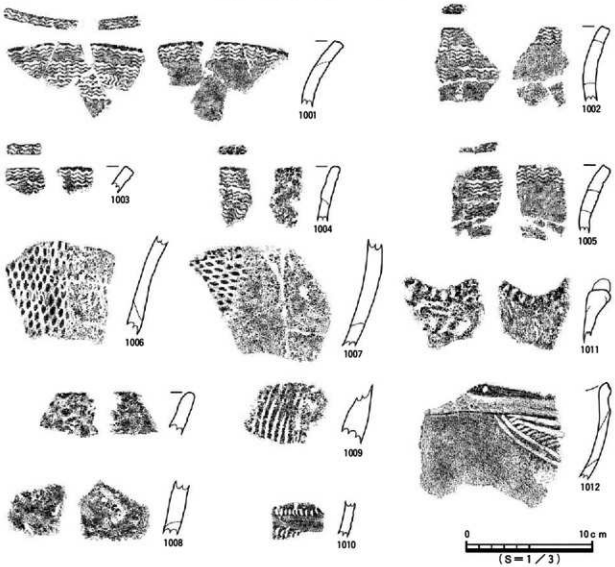
図版44　櫨原神向遺跡SK100実測図



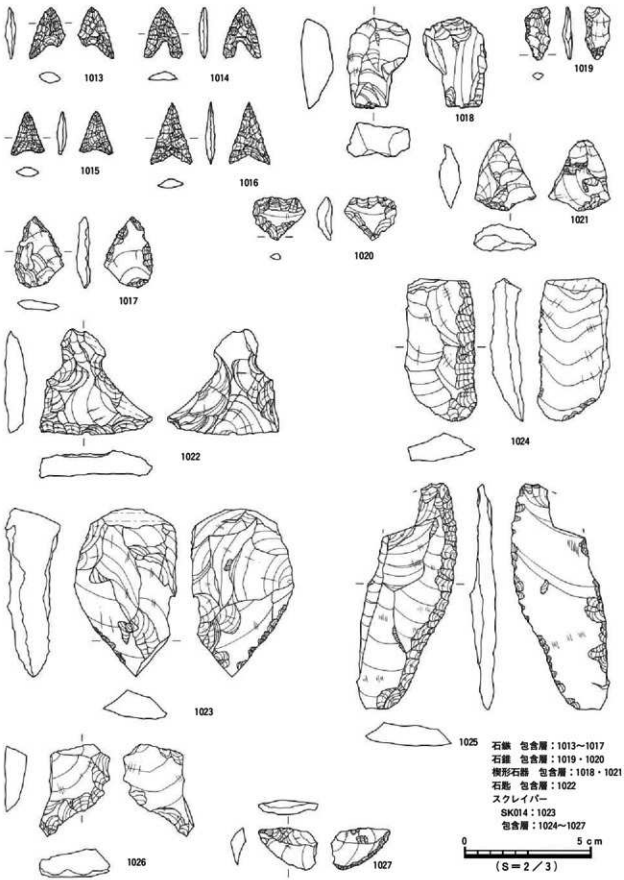
①　10YR1.7/1　黒色土、しまりあり、粘質あり
　　明らかに周囲の色と違い真っ黒
②　10YR2/3　黒褐色土、しまりあり、粘質あり
　　両層とも細かな礫の混じりなし

0　1m
(S=1/20)

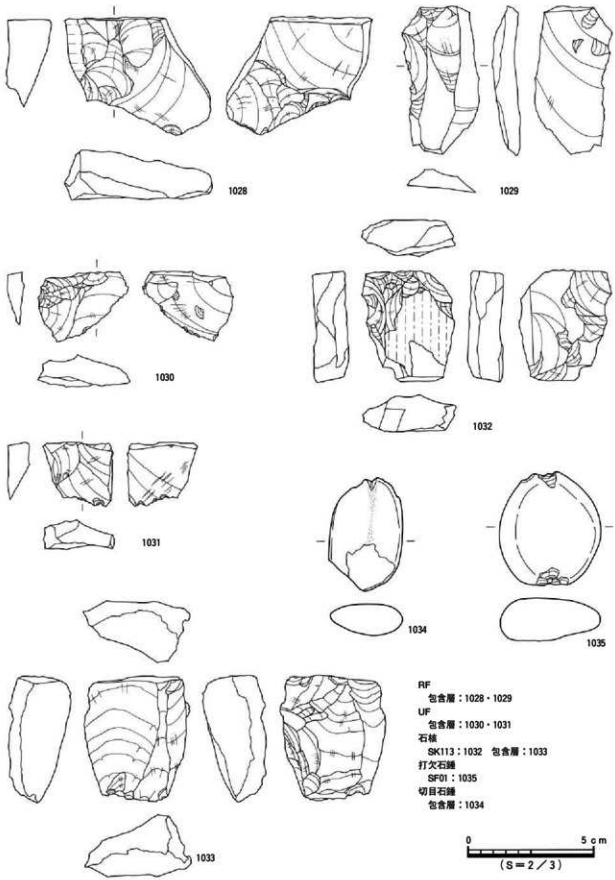
図版45　幡原神向遺跡土器実測図



図版46　橿原神向遺跡石器実測図(1)　石鏃　石錐　楔形石器　石匙　スクレイパー



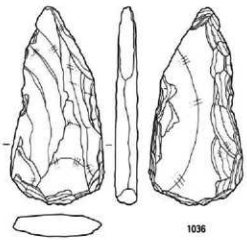
図版47　櫨原神向遺跡石器実測図(2)　RF　UF　石核　打欠石錘　切目石錘

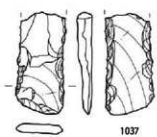


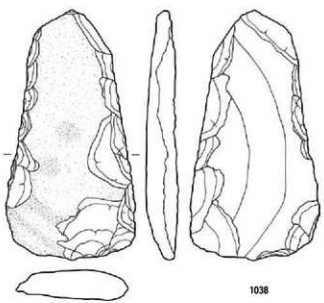
RF
　包含層：1028・1029
UF
　包含層：1030・1031
石核
　SK113：1032　包含層：1033
打欠石錘
　SF01：1035
切目石錘
　包含層：1034

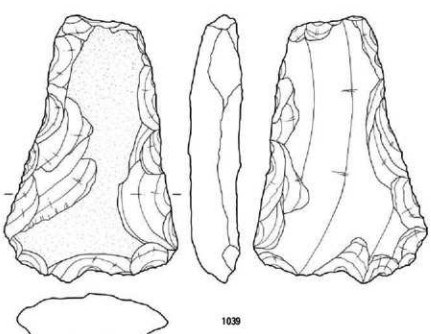
0　5cm
(S＝2／3)

図版48　幡原神向遺跡石器実測図(3)　打製石斧(1)


1036

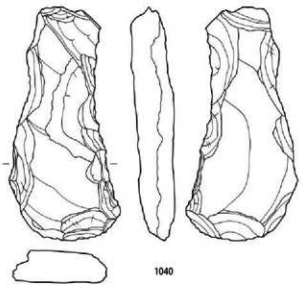

1037

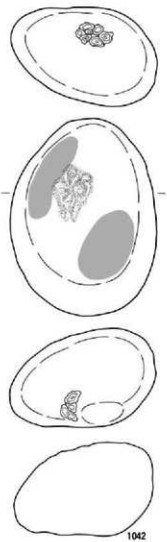

1038

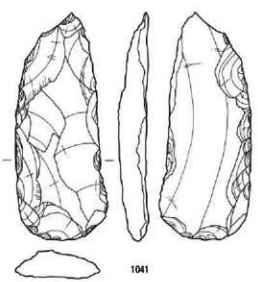

1039

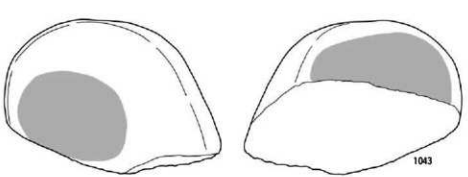
包含層：1036・1037・1038・1039

図版49　幡原神向遺跡石器実測図(4)　打製石斧(2)　磨石類(1)





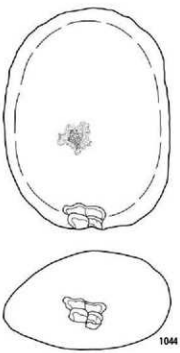


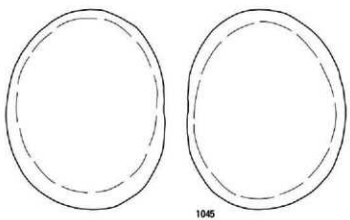


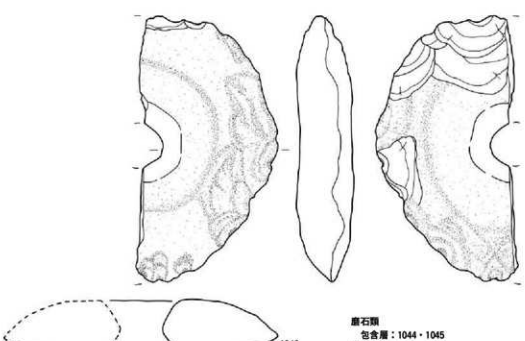
打製石斧
包含層：1040・1041
磨石類
SI02：1043
包含層：1042

0　5cm
（S＝1／2）

図版50　橿原神向遺跡石器実測図(5)　磨石類2)　環状石斧



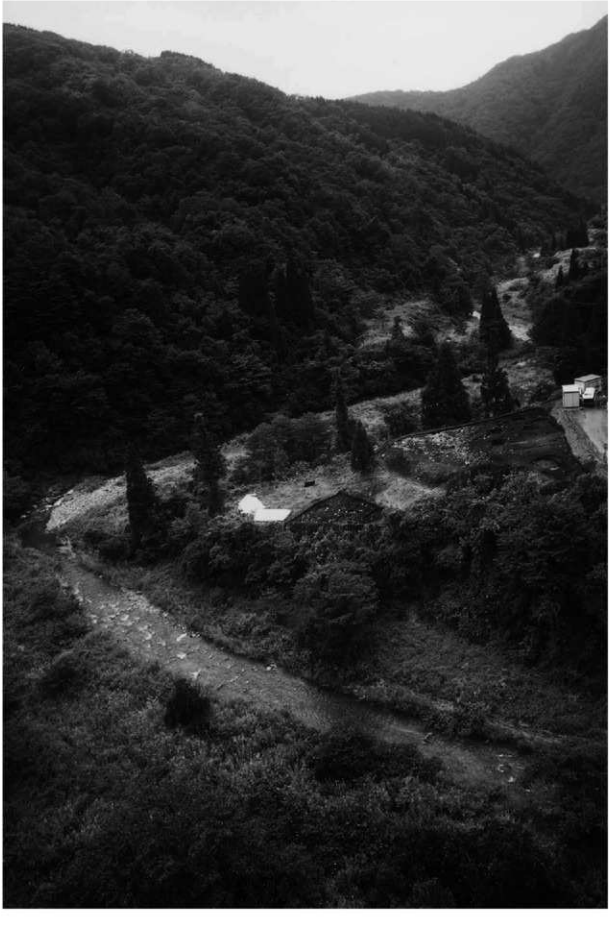




写　真　図　版

【いじま遺跡】

写真図版１　いじま遺跡遠景（北東より）



写真図版 2　いじま遺跡調査区全景

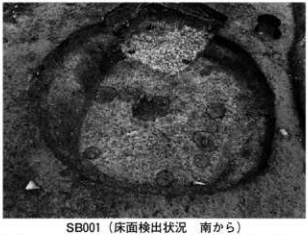
第 1 調査面全景

第 2 調査面全景

写真図版３　いじま遺跡 SB001

SB001（南から）

SB001（埋土堀削状況　北から）



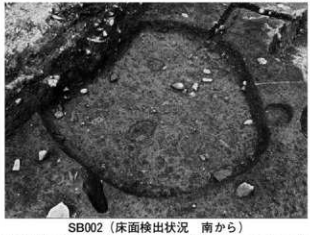
SB001（床面検出状況　南から）

SB001（SF003炉内土器検出状況　南から）

SB001（SF003焼土面検出状況　南から）

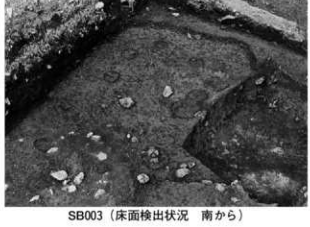
写真図版 4　いじま遺跡 SB002・SB003

SB002・SB003（南東から）

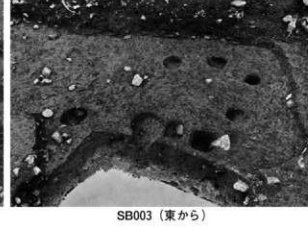


SB002（床面検出状況　南から）

SB002（SP013埋土断面　南東から）

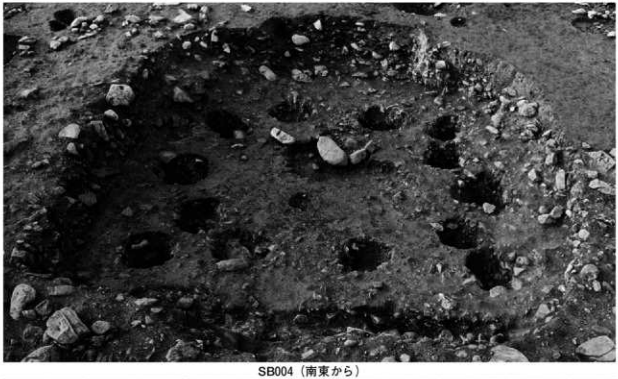


SB003（床面検出状況　南から）

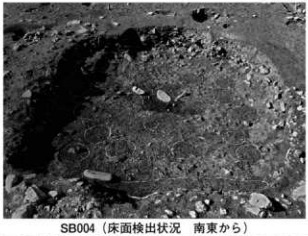


SB003（東から）

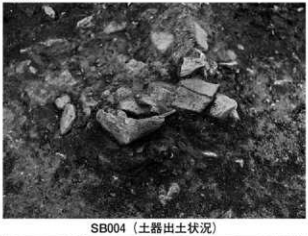
写真図版 5　いじま遺跡 SB004



SB004（南東から）



SB004（床面検出状況　南東から）

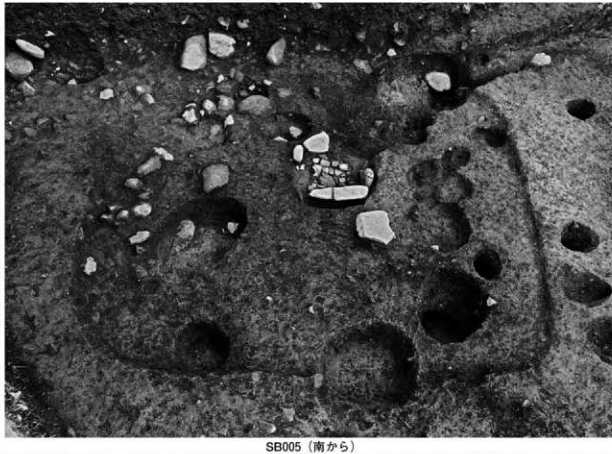


SB004（土器出土状況）

SB004（SB006　南から）

SB004（土器出土状況）

写真図版 6　いじま遺跡 SB005



SB005（南から）

SB005（SF005炉内土器検出状況　北から）

SB005（床面検出状況　東から）

SB005（SF005炉内土器　北から）

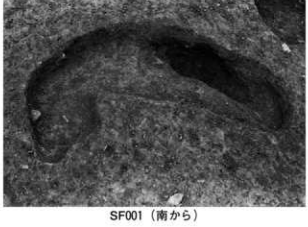
SB005（SF005焼土面検出状況　北から）

写真図版７　いじま遺跡 SB006・SF001・SF002

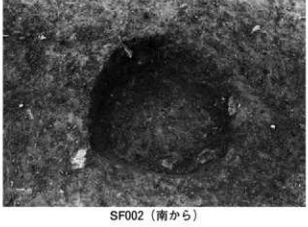
SB006（東から）

SB006（SP027　東から）

SB006（SP028　西から）



SF001（南から）



SF002（南から）

写真図版 8　いじま遺跡 SI001・SI002・SI1001・SK026

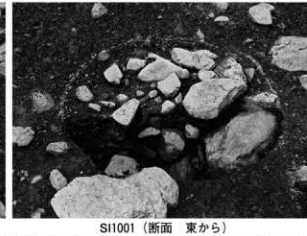
SI001（検出状況　東から）

SI001（断面　東から）

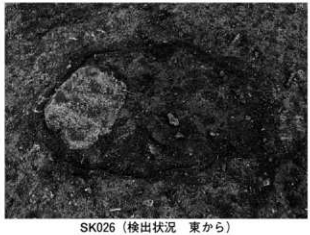
SI002（検出状況　東から）

SI002（断面　東から）

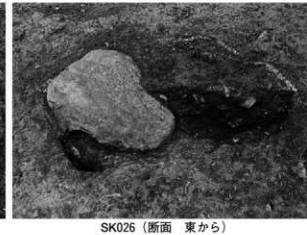
SI1001（検出状況　東から）



SI1001（断面　東から）



SK026（検出状況　東から）



SK026（断面　東から）

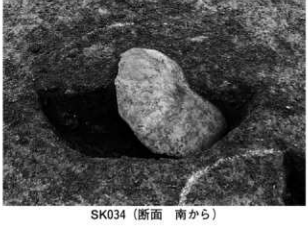
写真図版９　いじま遺跡 SI003・SI004・SK034

SI004（集石検出状況　北から）

SI004（検出状況　北から）

SI003（検出状況　南東から）

SK034（検出状況　南から）



SK034（断面　南から）

写真図版10　いじま遺跡 SK049・SK062・SK162・SR001

SK049（検出状況　南から）

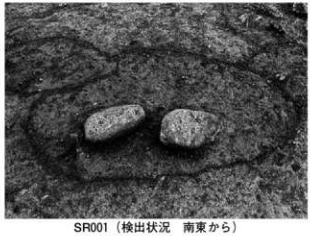
SK049（断面　南から）

SK062（検出状況　東から）

SK062（断面　東から）

SK162（検出状況　南から）

SK162（断面　南から）



SR001（検出状況　南東から）

SR001（断面　北西から）

写真図版11　いじま遺跡 SK164・SR002～ SR007

SK164（断面　東から）

SR002（断面　南から）

SR003（検出状況　北から）

SR004（検出状況　南東から）

SR005（断面　南から）

SR006（断面　南東から）

SR007（検出状況　西から）

SR007（断面　西から）

写真図版12　いじま遺跡土器(1)

32

86

43

88

79

83

250

写真図版13　いじま遺跡土器(2)

2

33

48

49

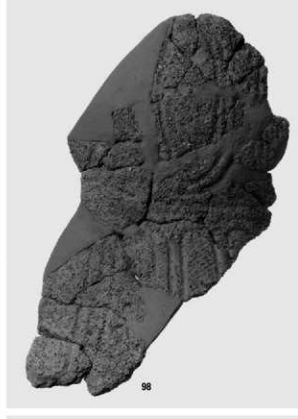
50

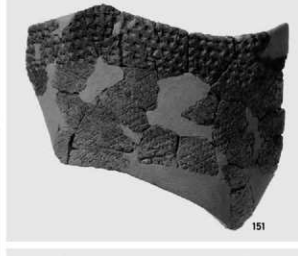
写真図版14　いじま遺跡土器(3)

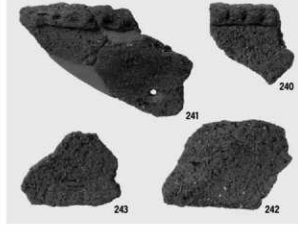
82－1

82－2

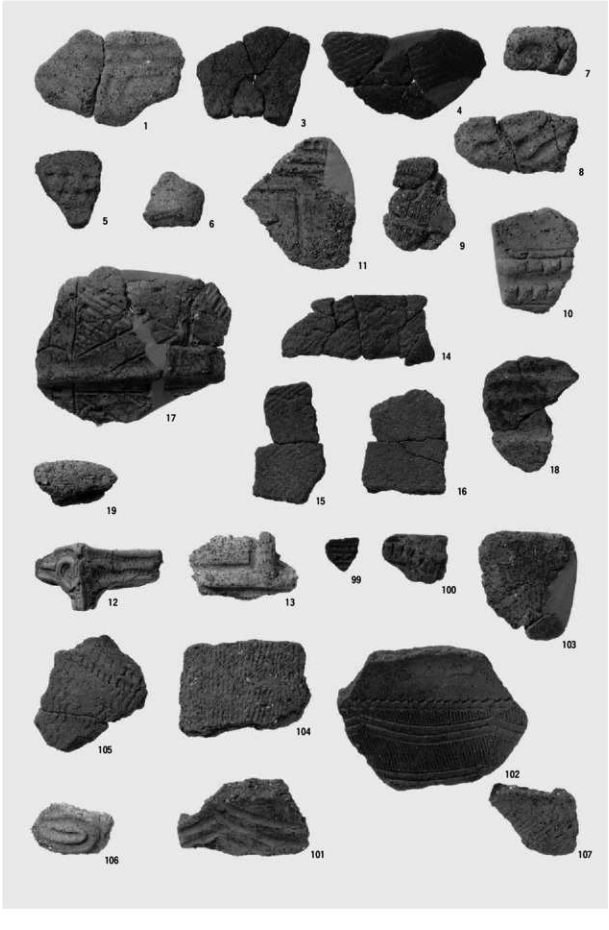
90


98

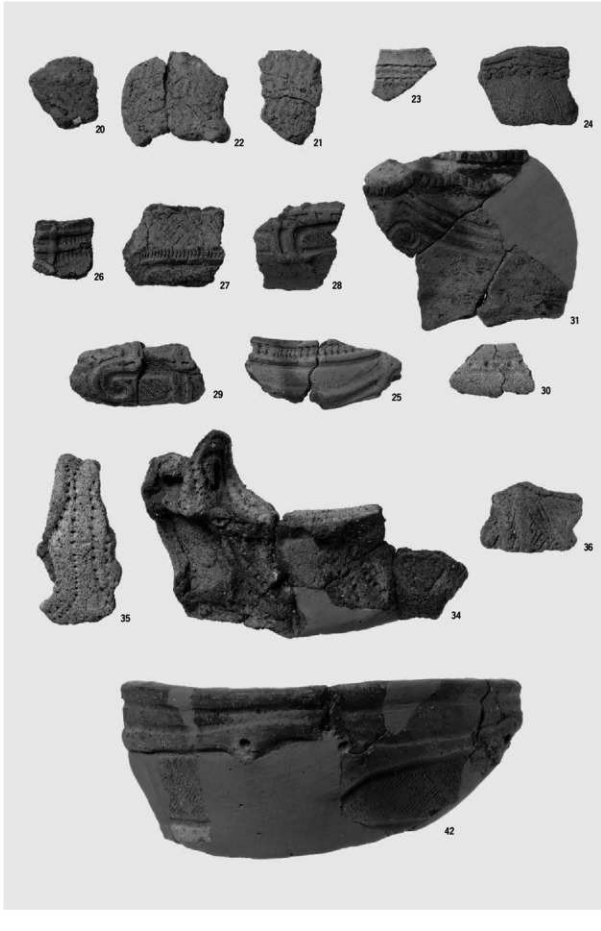

151


241
240
243
242

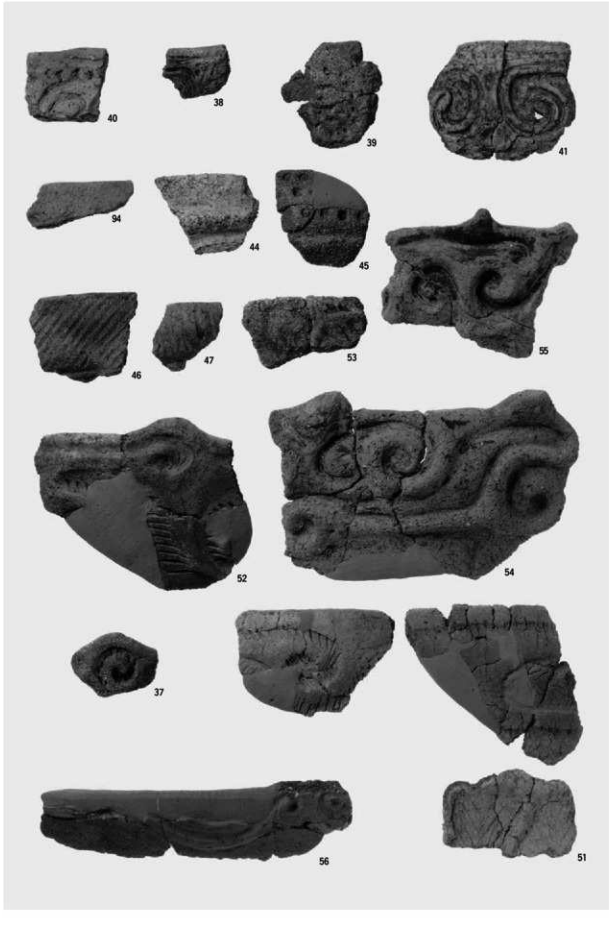
写真図版15　いじま遺跡土器(4)



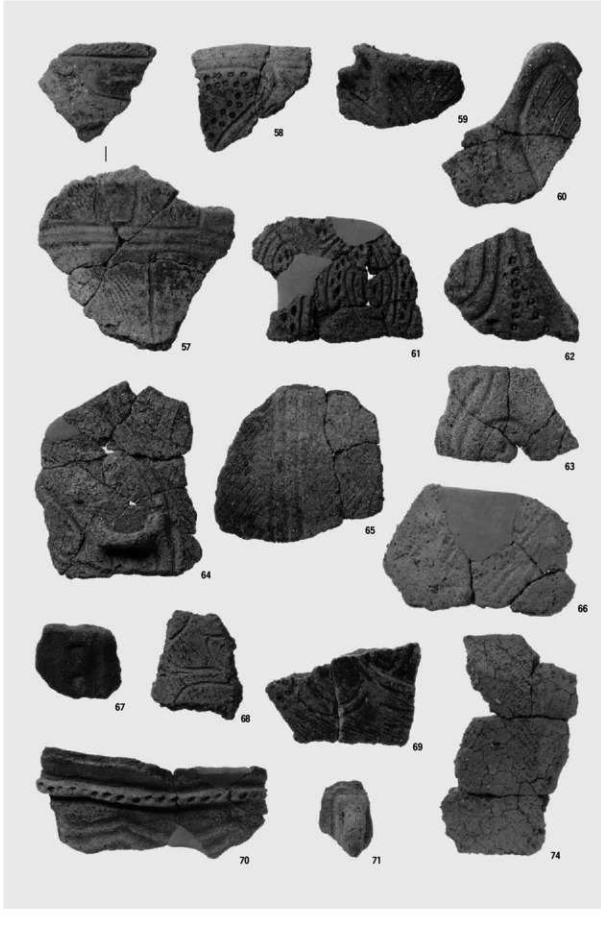
写真図版16　いじま遺跡土器(5)



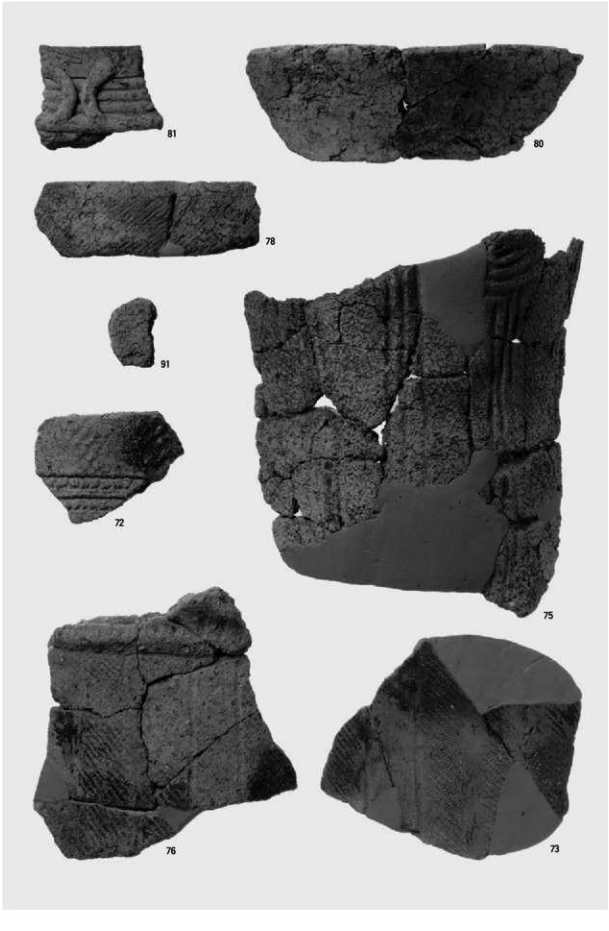
写真図版17　いじま遺跡土器(6)



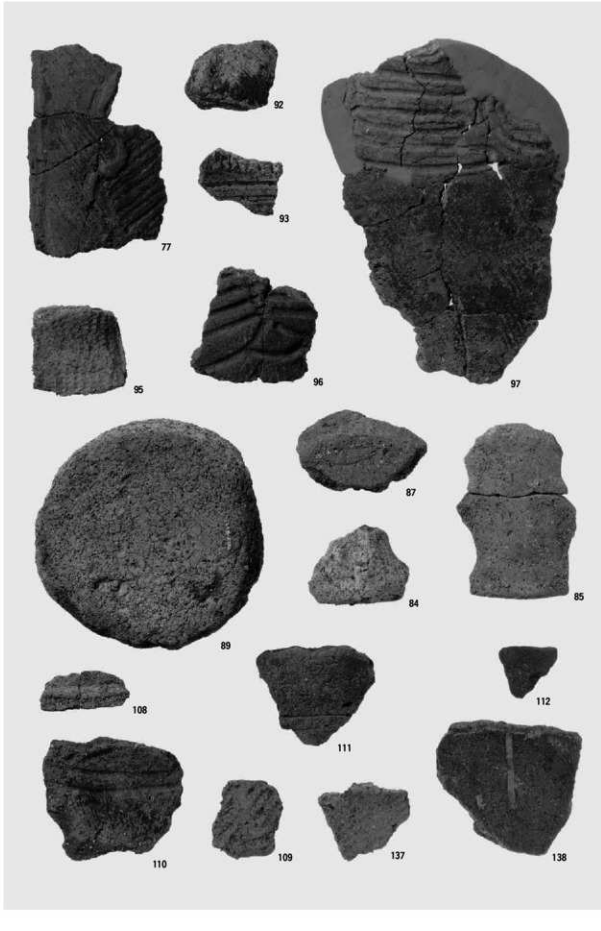
写真図版18　いじま遺跡土器(7)



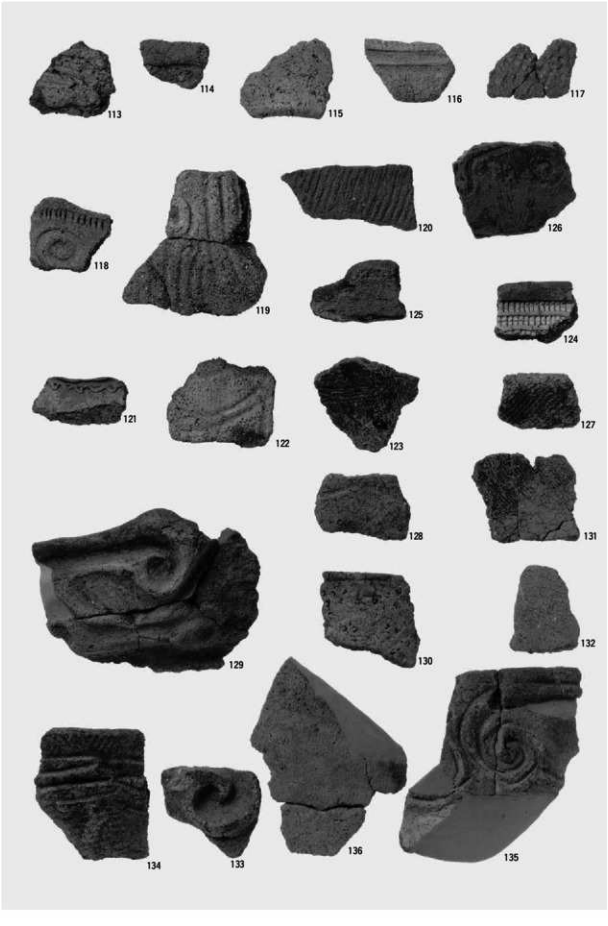
写真図版19　いじま遺跡土器(8)



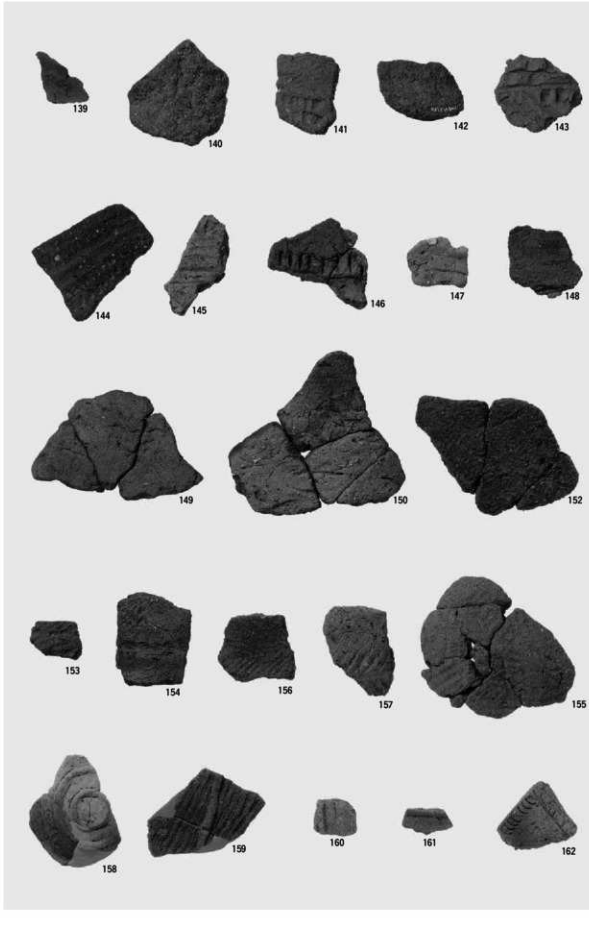
写真図版20　いじま遺跡土器(9)



写真図版21　いじま遺跡土器(10)



写真図版22　いじま遺跡土器(11)



写真図版23　いじま遺跡土器(12)

173

163

164

174

165

166

167

168

169

175

177

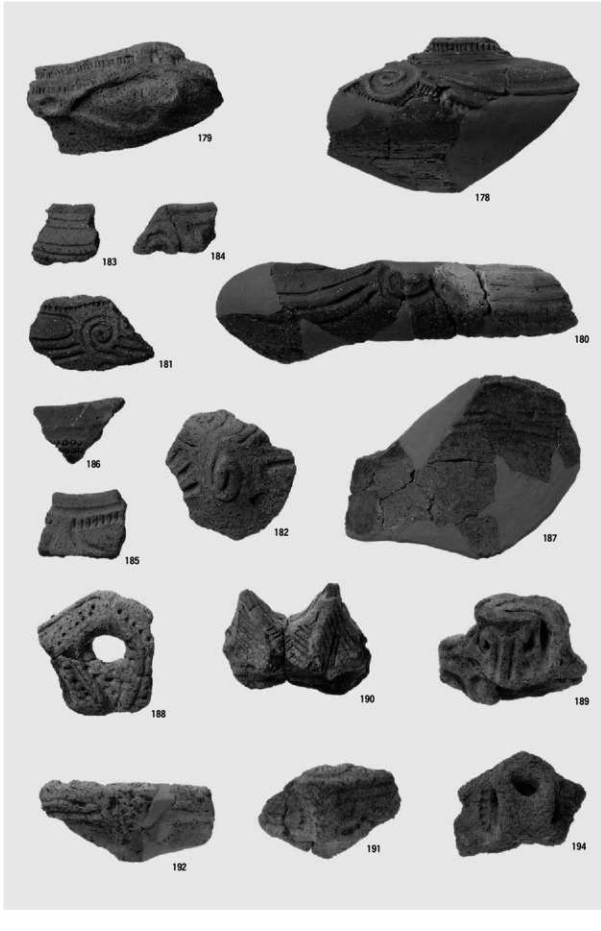
170

171

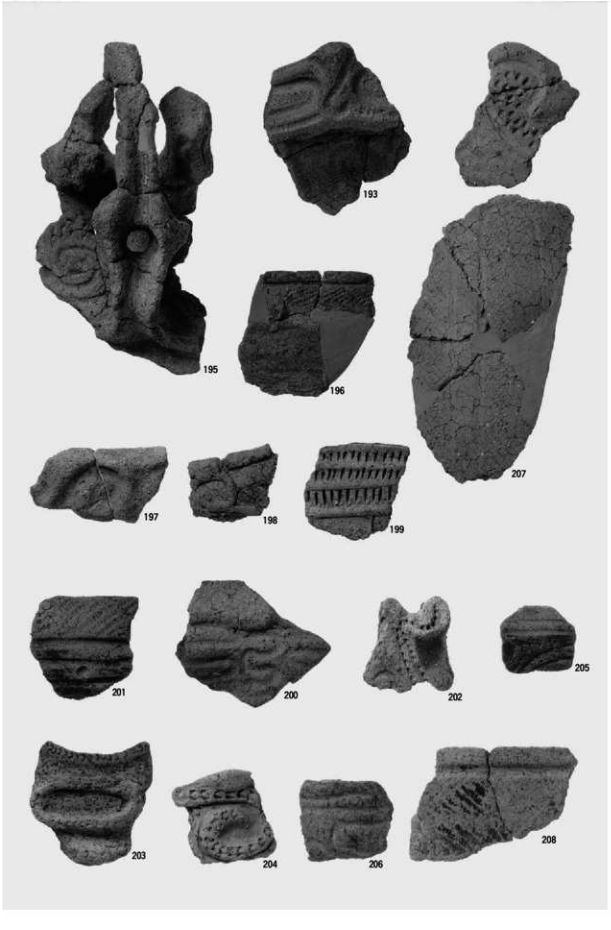
172

176

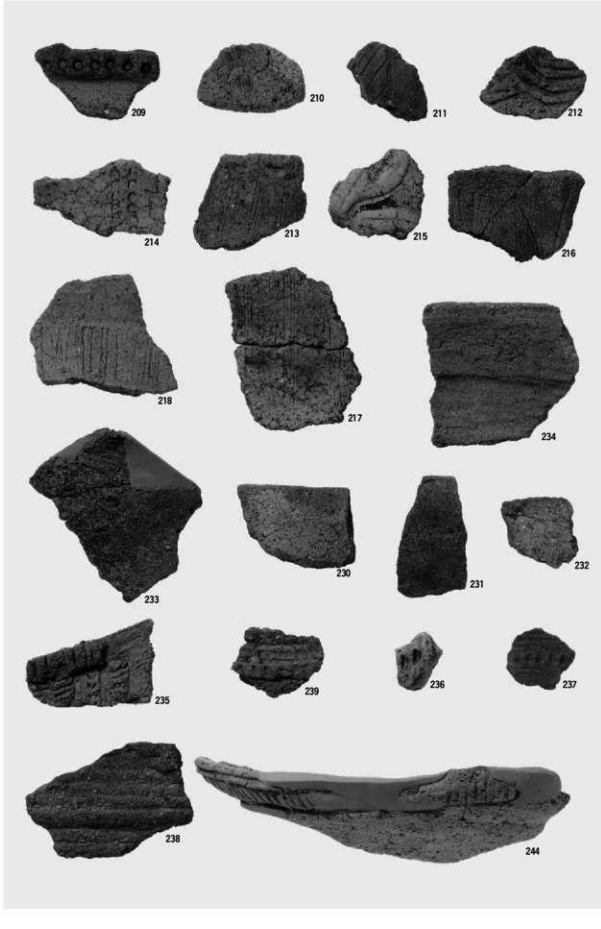
写真図版24　いじま遺跡土器(13)

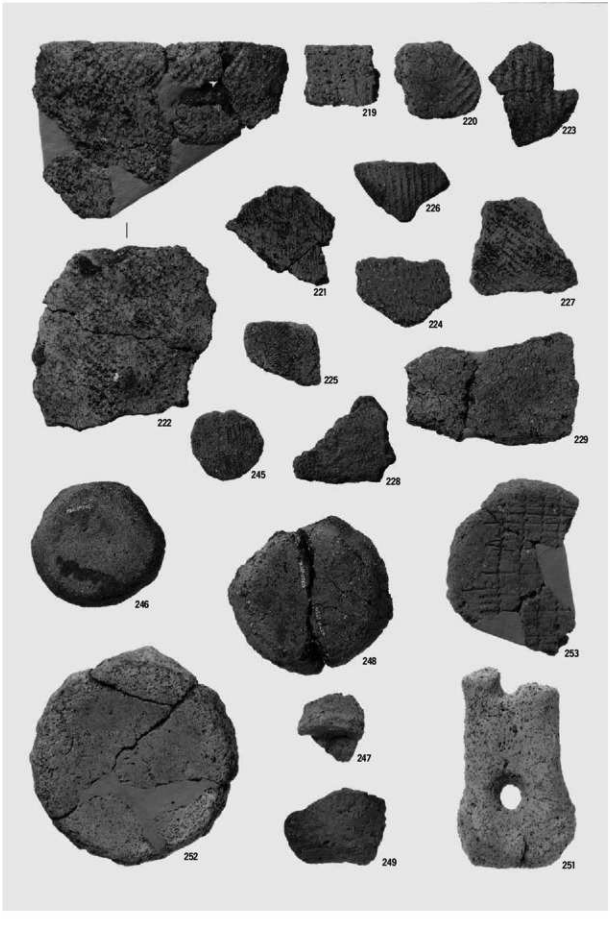


写真図版25　いじま遺跡土器(14)

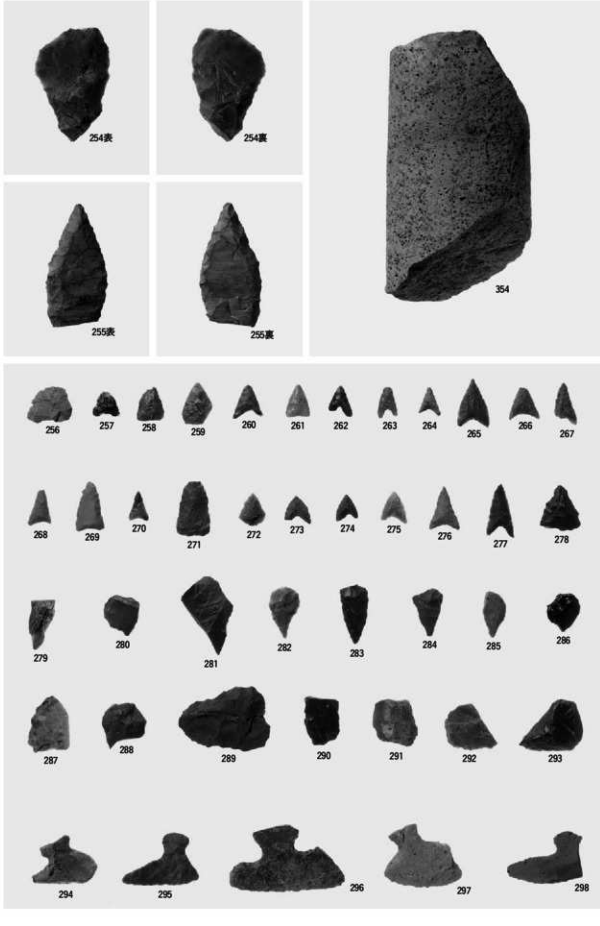


写真図版26　いじま遺跡土器(15)

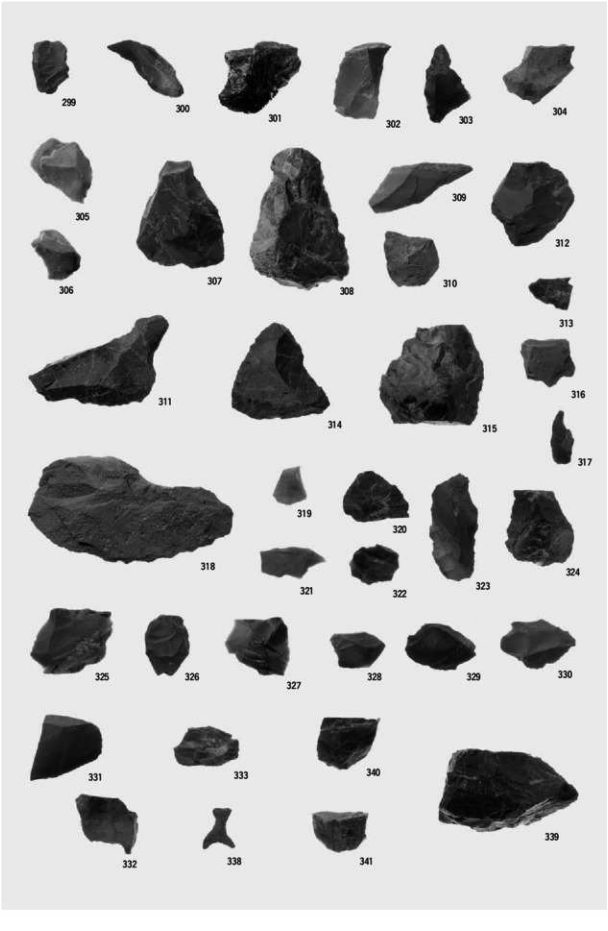



219
220
223
226
221
227
224
225
222
229
245
228
246
248
253
247
252
249
251

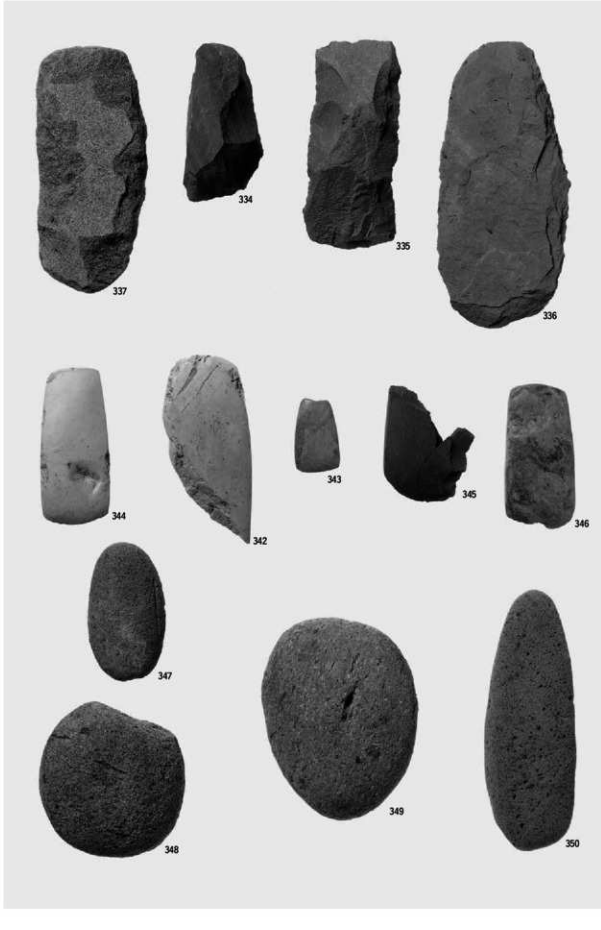
写真図版28　いじま遺跡石器(1)



写真図版29　いじま遺跡石器(2)



写真図版30　いじま遺跡石器(3)



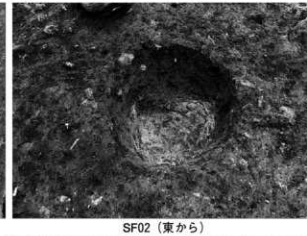
写真図版31　いじま遺跡石器(4)

写　真　図　版

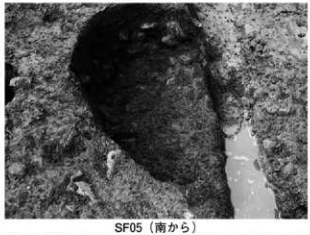
【櫨原神向遺跡】

写真図版32　槻原神向遺跡遠景（北より）

SF01（西から）

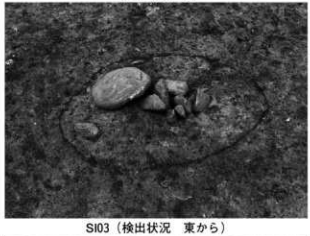


SF02（東から）



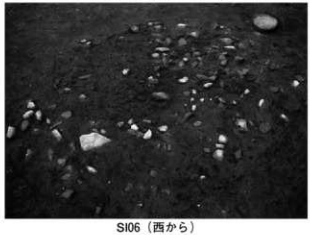
SF05（南から）

SI01（南から）

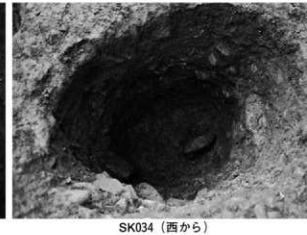


SI03（検出状況　東から）

SI03（東から）



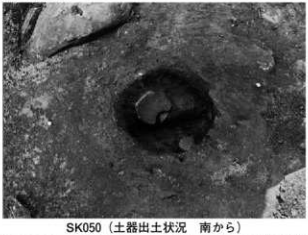
SI06（西から）



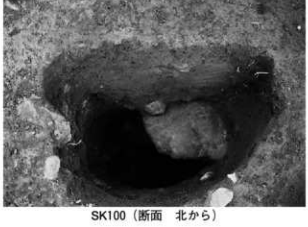
SK034（西から）

SI02（検出状況　南から）

SI02（断面　南から）



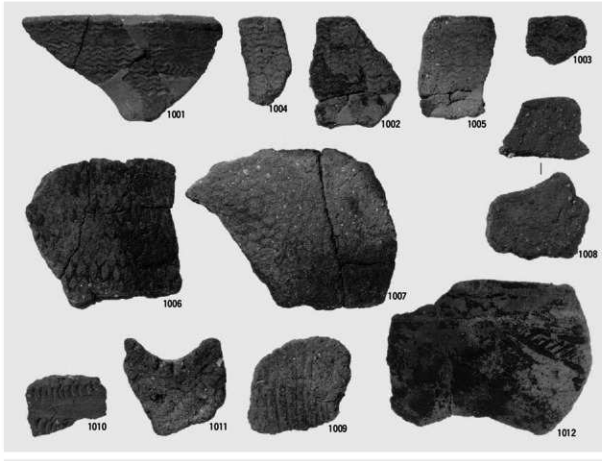
SK050（土器出土状況　南から）

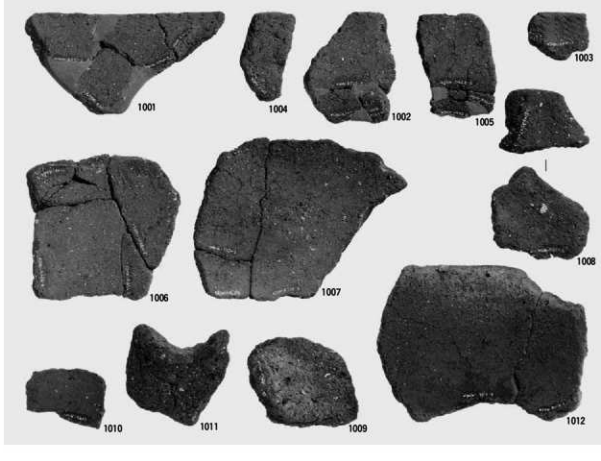


SK100（断面　北から）

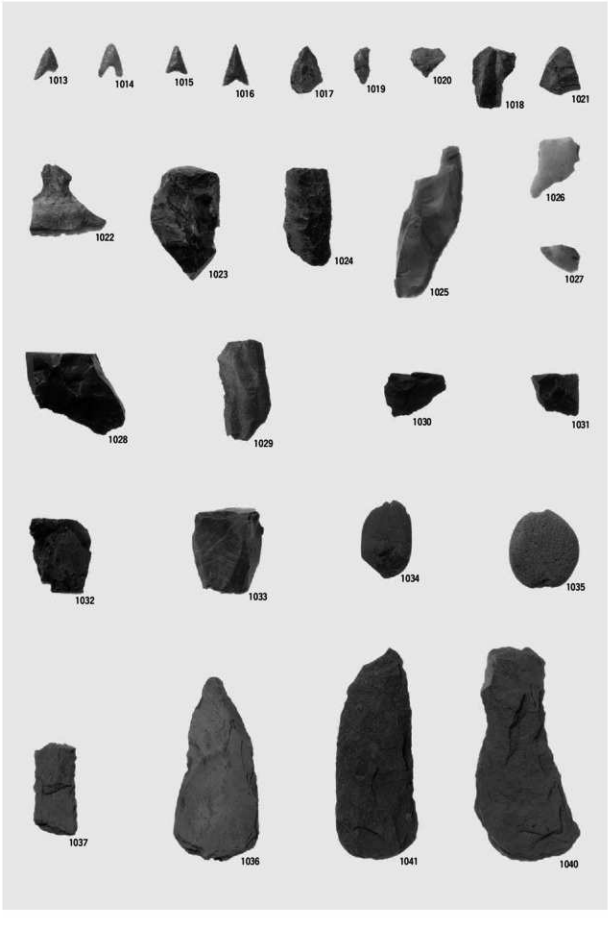
SK100（東から）

写真図版35　櫨原神向遺跡土器





写真図版36　槍原神向遺跡石器(1)



写真図版37　橿原神向遺跡石器(2)

1038

1039

1042

1043

1044

1045

写真図版38　幡原神向遺跡石器(3)　参考資料

1046表

1046裏

参考資料　小の原遺跡出土環状石斧

報告書抄録

ふりがな	いじまいせき・はぜはらかみむかいいせき
書名	いじま遺跡・櫨原神向遺跡
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第95集
編著者名	近藤大典　近藤聡　藤岡比呂志
編集機関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　ＴＥＬ058-237-8550
発行年月日	西暦2006年２月15日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いじま遺跡	岐阜県揖斐郡揖斐川町 櫨原平リボキ	21401	06691	35° 43' 38"	136° 27' 16"	20030512 ～ 20031125	600	徳山ダム建設事業
櫨原神向遺跡	岐阜県揖斐郡揖斐川町 櫨原神向	21401	06378	35° 43' 30"	136° 26' 23"	20030501 ～ 20031031	2,200	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いじま遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 配石・集石遺構 土坑 立石遺構	縄文土器　石器	縄文時代早期の土坑、中期の集落跡の検出。縄文時代早期・前期・中期の遺物出土。
櫨原神向遺跡	遺物散布地	縄文時代	配石・集石遺構 土坑	縄文土器　石器	縄文時代早期・後期の遺構・遺物の検出。

要約

いじま遺跡は、断続的ではあるが縄文時代早期～中期の遺構・遺物を確認した遺跡である。なかでも中期後葉～末葉については、これまで調査された旧徳山村域の遺跡に比較して、遺跡範囲は狭いが多くの遺構・遺物がみつかり興味深い。一方、後期以降の遺構・遺物は皆無である。このような遺跡のあり方は、今後旧徳山村域の縄文時代全体の土地利用を考える上で重要な事例となる。

櫨原神向遺跡は、近代の水田開発による影響で残存状況は決して良好ではなかったが、縄文時代早期および後期の遺構と遺物を確認した遺跡である。量的には少ないが、早期について前半期を中心に断続的に土器があり、またその時期の土坑も特定できた。石器では旧徳山村域では２例目となる早期の環状石斧がみつかった。興味深い遺物であり注目される。

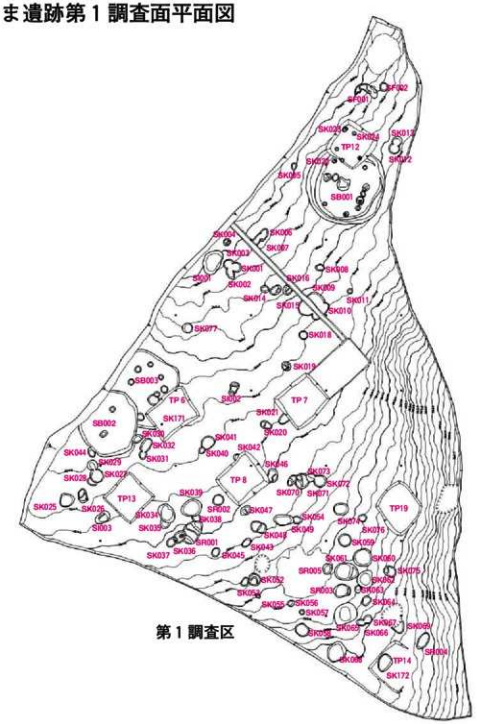
岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第95集

いじま遺跡・櫨原神向遺跡

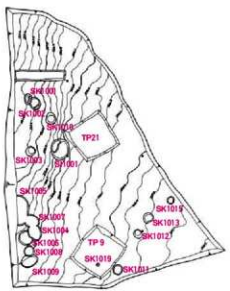
2006年２月15日

編集・発行　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東１－26－１
印　　刷　サンメッセ株式会社

巻末図版１　いじま遺跡第１調査面平面図

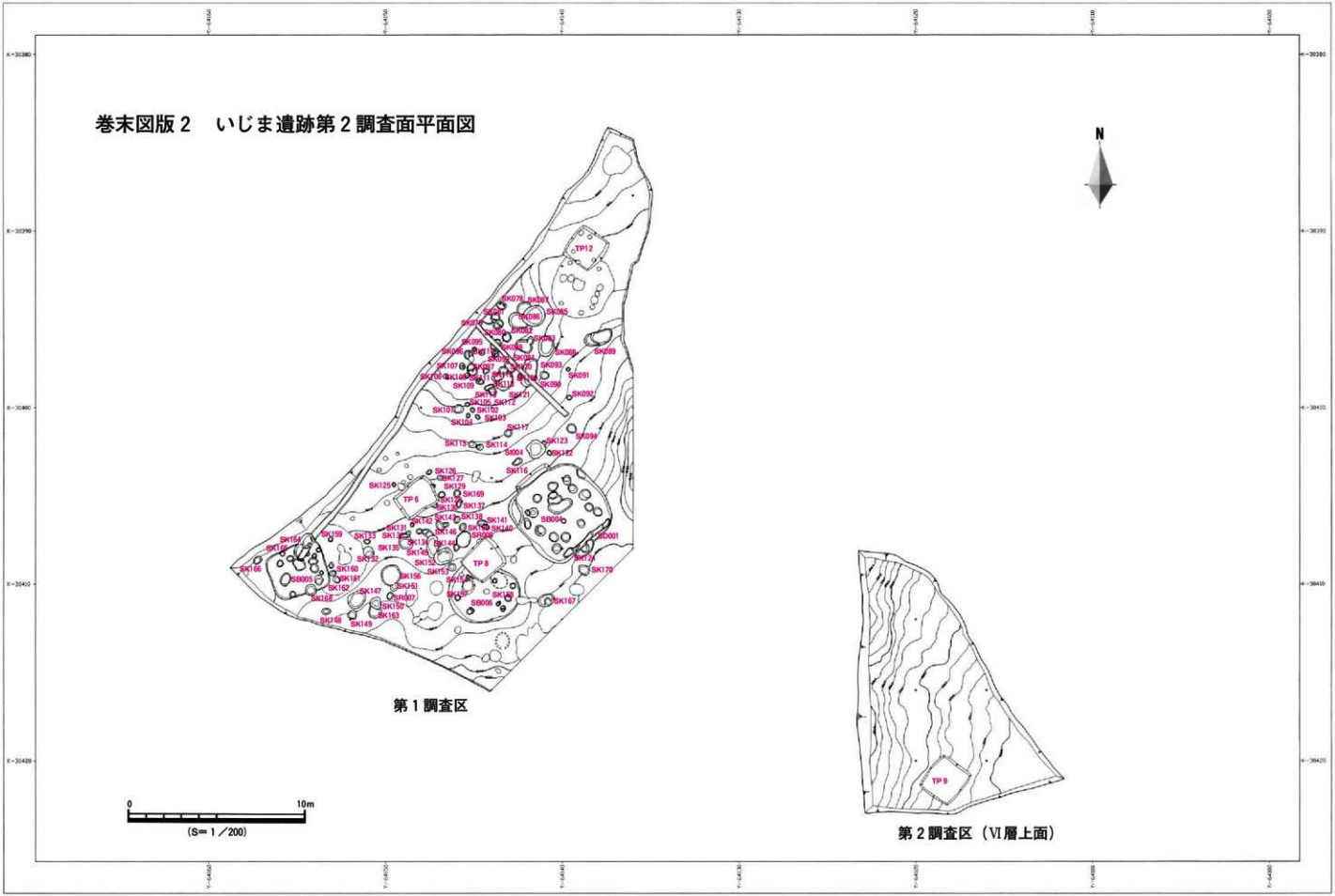


第１調査区



第２調査区（Ⅴ層上面）

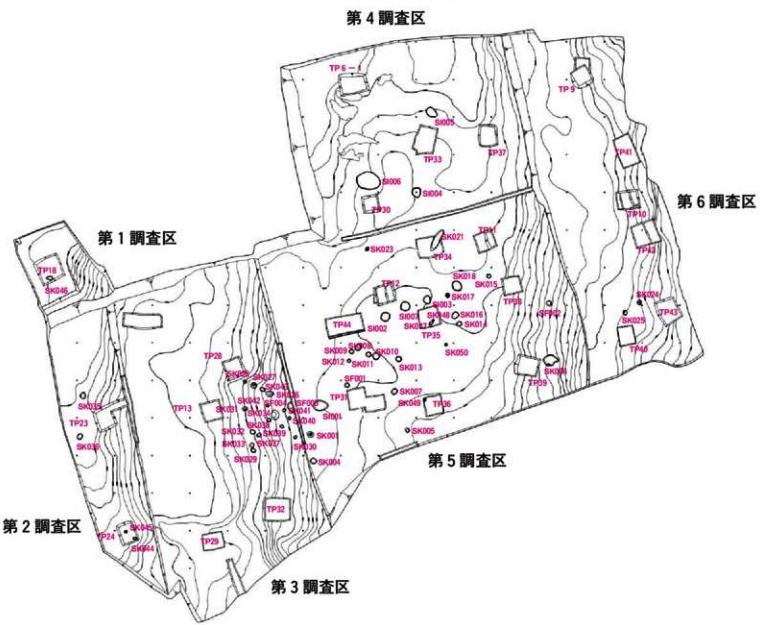
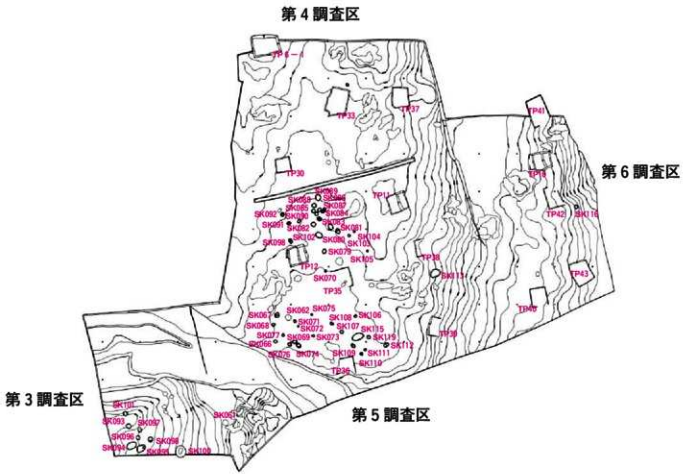
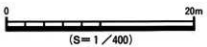
巻末図版２　いじま遺跡第２調査面平面図



第１調査区

第２調査区（Ⅵ層上面）

巻末図版３　櫨原神向遺跡第１調査面平面図



巻末図版 4　櫨原神向遺跡第 2 調査面平面図